

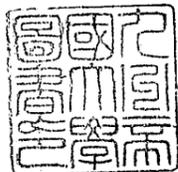
文書名	筑紫紀行 卷1~10 No.
所蔵者 住所・氏名	九州大学中央図書館
撮影年月日	昭和56年 7月 15日
福岡県文化会館	



鏡賦紀行



680
7
12



尾根
大坂
全羅羅山

680
7
12

直江路
毒子溪
彌谷寺

宗
室津

伏見
丸龜



筑紫紀行序

自

柳文庫

予編歌山伯父の家を去りて
天倫乃親之あり人父子を義を
奉りて終其道とけりしをわて
嘗て命を道に命ふく終に奉る
と君はよく身を敬ふと下僕を
如くせしは終に終嗣しう後

○序

ふも致えらるる爾一へり流らも世の
重おもと念いあり家業も少成事
計て教く私の遊興とすも務し
二もあつて四十歳小童く全して失
もふふくしとねる息男も流る
すしめく重任と取し退老あ
能身とたぬ中まの東方武城

あぢい遂に日光御社も参りて
太平國恩の所由を謝し事と具書
なきは因と井蛙の見同を廣めく
猶老後終一得ありしと紙紙が
但一しに多遊とさるるげやる
小ハあぬが宗しざらしハ又西
中國五物も遊歴しと共時よ盡く

悔^くりある是亦おれ^り 素^{もと}び(なる)相^あい
老年^{らうねん}の似^に合^あう^るぬ遠^{とほ}方^{はう}僻^{へき}也^{なり}
跋^{はつ}涉^{せつ}身^みと老^{らう}を^をび^び兒^に孫^{そん}乃^{なり}憂^{うれ}慮^りも
顧^{かん}こ^ごるや^やし^しを^を終^はひ^ひ生^な涯^や勤^{いん}じ^じべ^べお
事^{こと}ハ既^{すで}に^には^はと^とめ^め死^しす^すと^と可^から^らわ^わと
い^いほ^ほぶ^ぶふ^ふあり^りよ^よれ^れば^ば徒^たに^に飽^あ食^じあ^あ存^{ぞん}
し^しも^も終^はる^るよ^よを^を舞^まも^も味^{あじ}糸^{いと}末^まあ^あき^きい^いし^し

思^{おも}ひ^ひく^くむ^む將^{しょう}後^ごニ^ニ同^{どう}志^し乃^{なり}人^{ひと}如^{ごと}素^{もと}
肉^{にく}ふ^ふも^もな^なし^し母^{はは}の^の心^{こころ}を^を及^{およ}ぶ^ぶ子^この^の道^{みち}を^を及^{およ}ぶ^ぶ
此^{こゝ}経^{けい}の^のを^を綴^{つづ}る^るも^も辭^{ことば}と^と文^{ぶん}ら^らび^び
く^く其^{その}實^{じつ}は^は存^{ぞん}ず^ずる^ると^とま^まま^まし^しに^に理^り保^ほ
ち^ちが^がる^る文^{ぶん}雅^やの^の人^{ひと}乃^{なり}古^こと^と考^{こう}ふ^ふ一^{いつ}助^{すけ}と
ら^らい^いも^もや^やあ^あら^らむ^む旅^{たび}路^ぢの^の艱^{いん}苦^くは^はま^まま^ま
乃^{なり}ち^ち時^{とき}し^しと^と老^{らう}の^の癖^{くせ}年^{ねん}々^々解^{かい}ひ^ひも

○序

三

もやう傳ふ其明者の改正と待て
し新序とすも子孫の又此もの
此意の志を承けし相承るる意
職と忽しと轉々浪遊と好む
那れふ宗

享和二年八月尾張 菱屋平七

後序

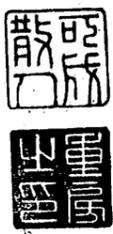
享和中余西遊於長崎途所經歷
見聞夜々筆記以備遺忘及歸稍
編次之以為十卷題曰筑紫紀行
一日族人來訪語及西遊之勝乃
出此書以示之座有書肆主人從
傍閱之嘖々稱嘆即請上本余辭

曰此係路中漫筆真類兒戲事實
既不能詳而文辭又不足觀免覆
酒甕為幸已多又何以傳播之為
書肆固請曰不然一開此卷名山
之秀拔巨海之洶蕩瞭乎在心目
使人慨然有萬里之懷且其山川
險易道里遠近可以視地理物產

有無士女好尚可以察風俗豈啻
可當卧游而已哉族人亦從而德
愆焉余不得拒遂如其請乃錄其
由以為後序

文化丙寅九月

吉田重房



未だいじむるありわらうは朋友の親族の人の家人共
すべしつゝの恨をなすく違ふ未だ琵琶島にまゐりて
あつたそとく橋をわたるに東のたつた旭のまを果てまゐるの
まはるるふつとわらうは違ふて一人は違ふていふまゝに違ふ
わらうは違ふて中々内田何某其外西華の底にりたんとて
違ふて違ふてゆきとて程の伴いゆく半刻頃不起りて酒飲
ぬりて内田のり人小まらり別を後及の犬野里を實母の
おとらるるふつとわらうは違ふて違ふて果て違ふて違ふ
出立の待もせ居るが日所お程の由も違ふて違ふて違ふて
族わらうは違ふて違ふて違ふて違ふて前後のまらせひ

物なりは違ふて違ふて母の家のまゝに所小も家人の男女も
向かふまゝに躰つゝは違ふて違ふて違ふて違ふて待むる人
なり其中の母を例にひはつる者も違ふて違ふて違ふて違ふ
おつたゆゑに違ふて違ふて違ふて違ふて違ふて違ふて違ふ
まらつたて先おまゝに入るる違ふて違ふて違ふて違ふて違ふ
なり違ふて違ふて違ふて違ふて違ふて違ふて違ふて違ふ
團のまゝに違ふて違ふて違ふて違ふて違ふて違ふて違ふて
に違ふて違ふて違ふて違ふて違ふて違ふて違ふて違ふて
違ふて違ふて違ふて違ふて違ふて違ふて違ふて違ふて違ふ
違ふて違ふて違ふて違ふて違ふて違ふて違ふて違ふて違ふ
違ふて違ふて違ふて違ふて違ふて違ふて違ふて違ふて違ふ

一北も南も假拵多く酒飯茶とたたのち毎老若
男女透間まね集りあつるに手と大方わつた女がらあつる
羣集の中とせりお乳とまなくいふお茶をひおけり
ありは甚しきをまてわ橋とけまの両側乃芝居や旅りし招牌
せんがとせりして甚老藤小飾りたりとめちるる往来
の人のふ往来の道もふつるはくは道と通つたゆ
祇園社と拜し夫より圓山の也阿弥はらふははるる通つて
乃とふ橋は京の町と名を東寺の塔をまなり大内山
彼をむ否然あつる互に拍子とりとて教まありとふ
免角もはるる彼約する人も未だ酒飲めり

興ふ一人の年々上京をもておるに思はらる會合す
事ハ甚多し此不思議の事をまにに旅宿お洋らむと
事更なるらむとてや藤子あつるもやせんといふや一人
ふつら云出さるがあらふと人々こゝに集りて悦びつゝ夫はあれ
りておれりしとありしといふありとて人々悦びつゝ云はあや
ねなるは伎女共連らめて羣をまきりしとてあつる人々の
中押あて並に座りてくつらり中らひのやりに列りし
ありて衆人をもてえ酒指と折くがまに廿五六人の十八九
又廿何りの女もに十三四をわたり女もすまて又中居と
ものも三四人居る愛あつる女ゆいりし櫛替をいふ事する

ひつゝもひまもつらなるまのあはれをばしるはれぬあはれを
ゆるし給ふ今つらなる君達いふかをあり候ひしとよけりしおはれ
しとよけりしとよけりしとよけりしとよけりしとよけりしとよけりし
松橋入りの下枝柳のよきまのよきまのよきまのよきまのよきまのよきま
追ひつゝもひまもつらなるまのあはれをばしるはれぬあはれを
ゆるし給ふ今つらなる君達いふかをあり候ひしとよけりしおはれ
しとよけりしとよけりしとよけりしとよけりしとよけりしとよけりし
香海入りの下枝柳のよきまのよきまのよきまのよきまのよきまのよきま

あつゝもひまもつらなるまのあはれをばしるはれぬあはれを
ゆるし給ふ今つらなる君達いふかをあり候ひしとよけりしおはれ
しとよけりしとよけりしとよけりしとよけりしとよけりしとよけりし
星のほつゝもひまもつらなるまのあはれをばしるはれぬあはれを
ゆるし給ふ今つらなる君達いふかをあり候ひしとよけりしおはれ
しとよけりしとよけりしとよけりしとよけりしとよけりしとよけりし
送るまのよきまのよきまのよきまのよきまのよきまのよきまのよきま
のよきまのよきまのよきまのよきまのよきまのよきまのよきまのよきま
あつゝもひまもつらなるまのあはれをばしるはれぬあはれを

○廿四日京と盛盛谷の柳を起おへまはれ乃男がふたはらふ用
このまのよきまのよきまのよきまのよきまのよきまのよきまのよきま



大坂の節
の圖

○卷一

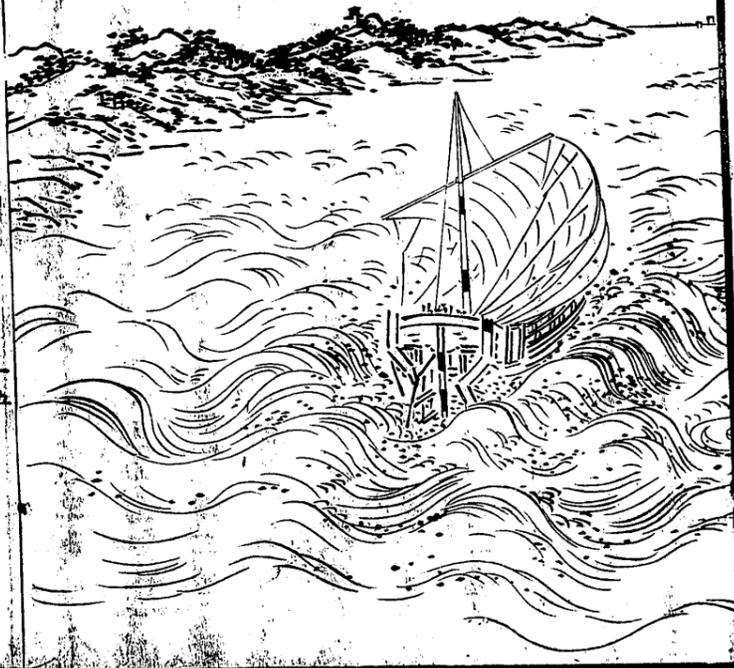
十三



淡路島

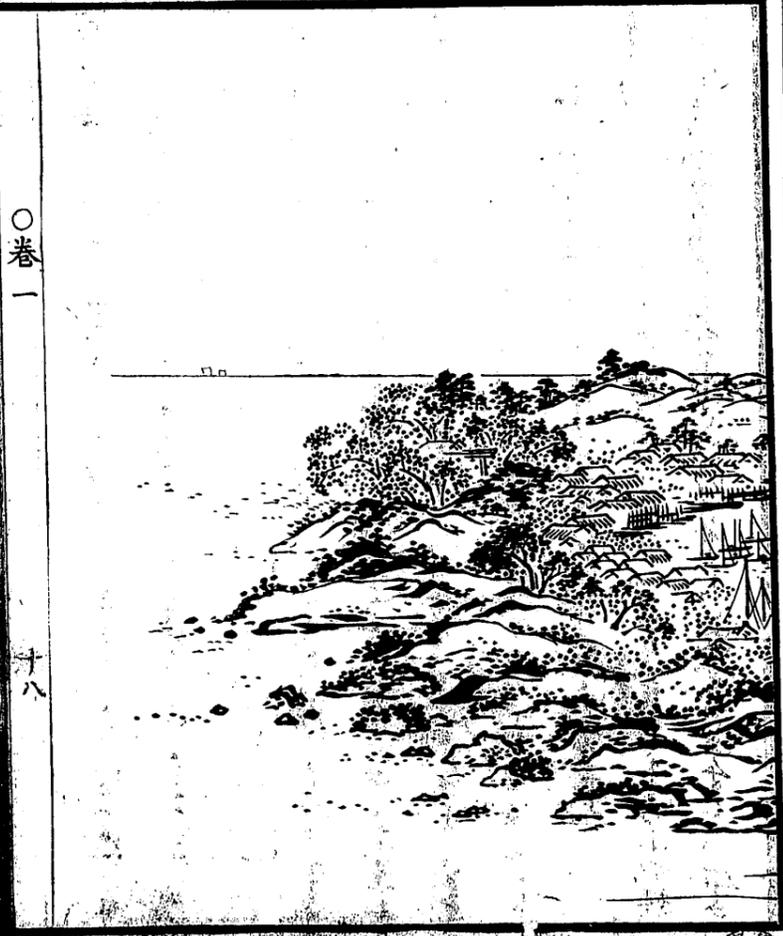
○卷

十五



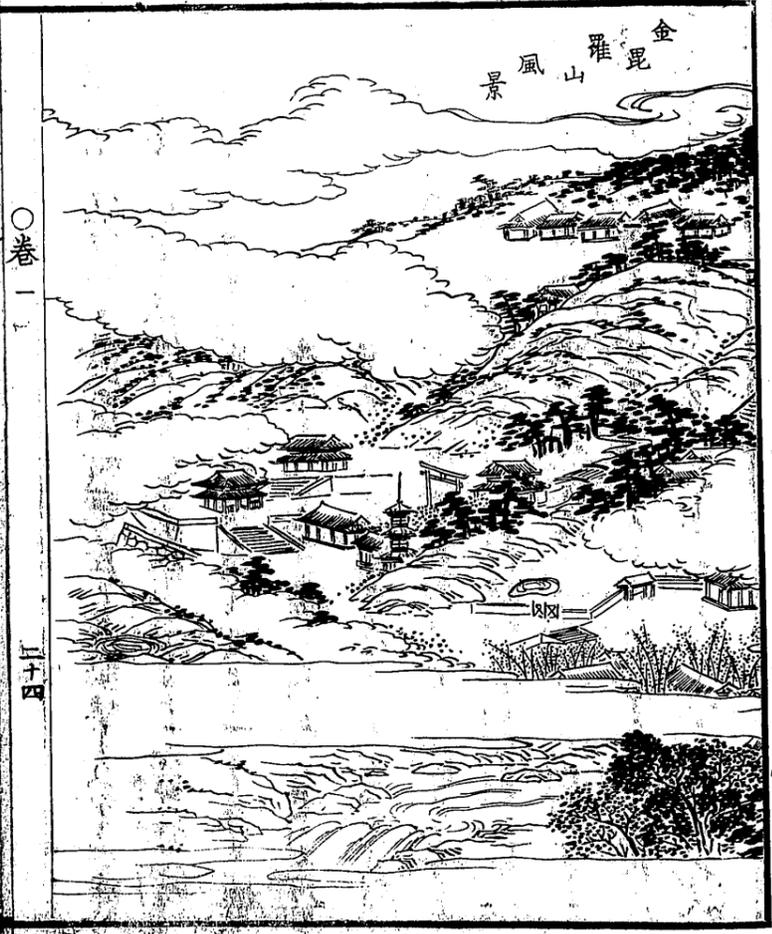
播磨国
舞子濱





道邊の... 船... 津... 飯... 下津井... 七島... 宇多津... 讃岐國九電の川... 千ふあひ... 大里... 川中...

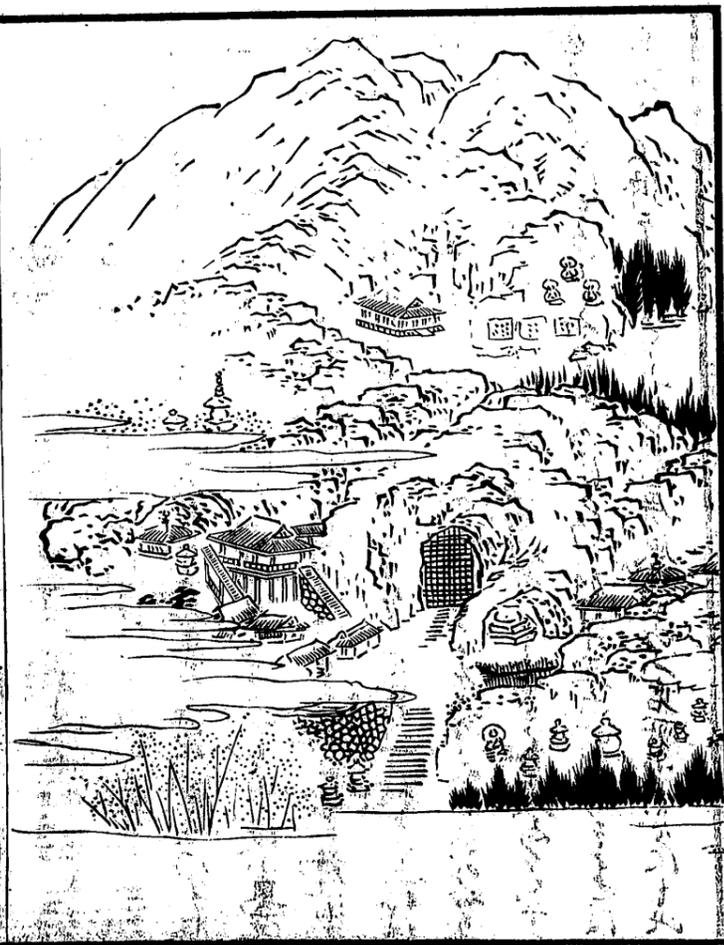
もろ... 櫓... 白... 津... 都會... 津... 四月朔日... 國... 妻... 大坂の人...



○卷一

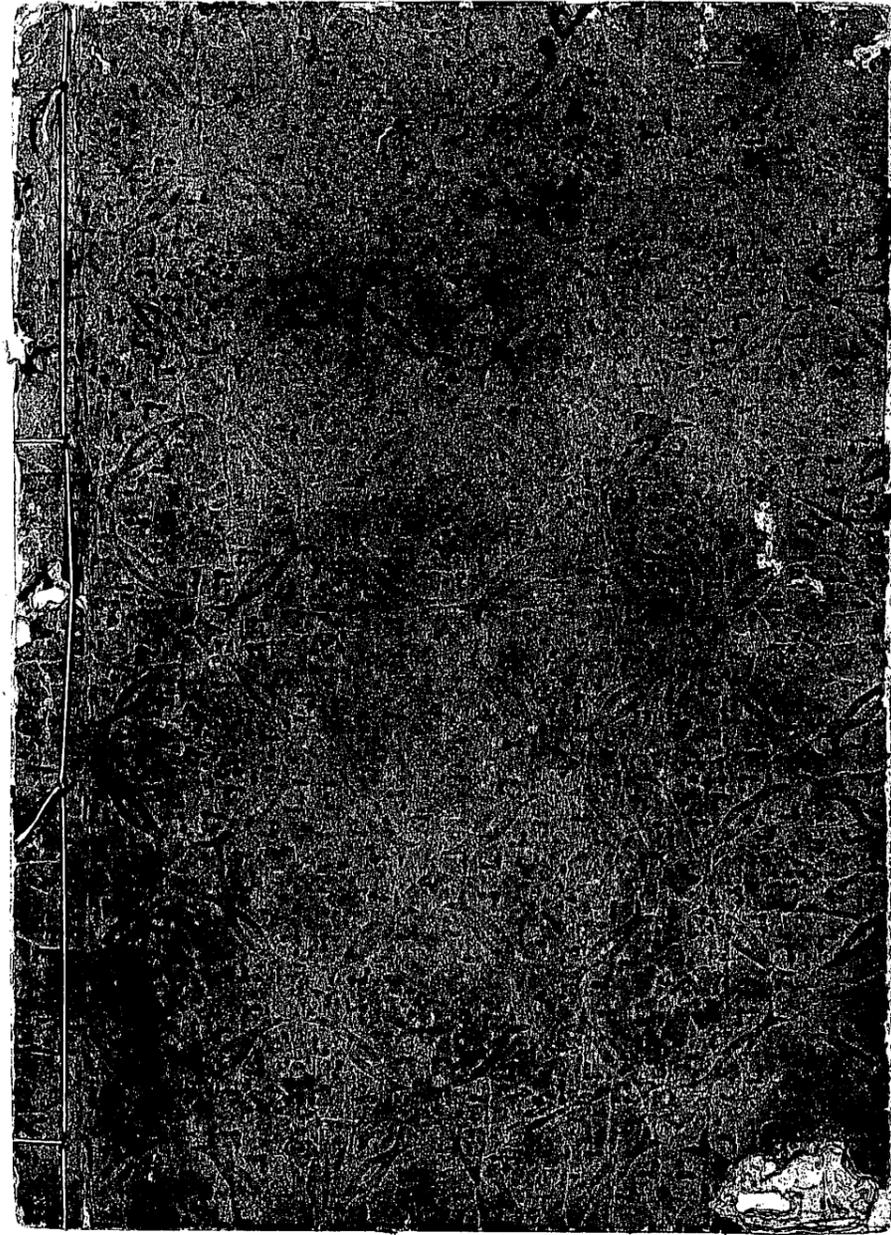
二十四

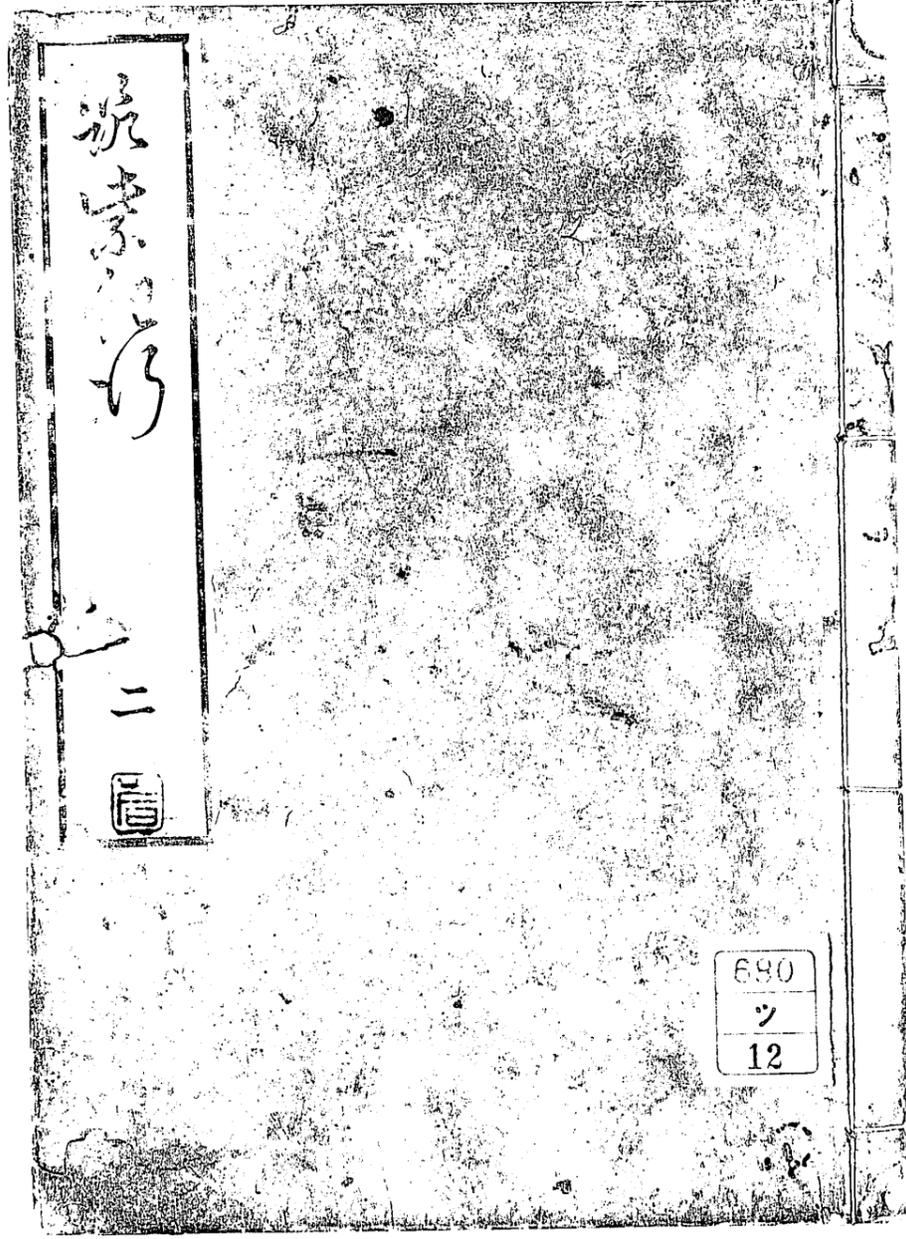




讚岐國
五山
彌谷寺





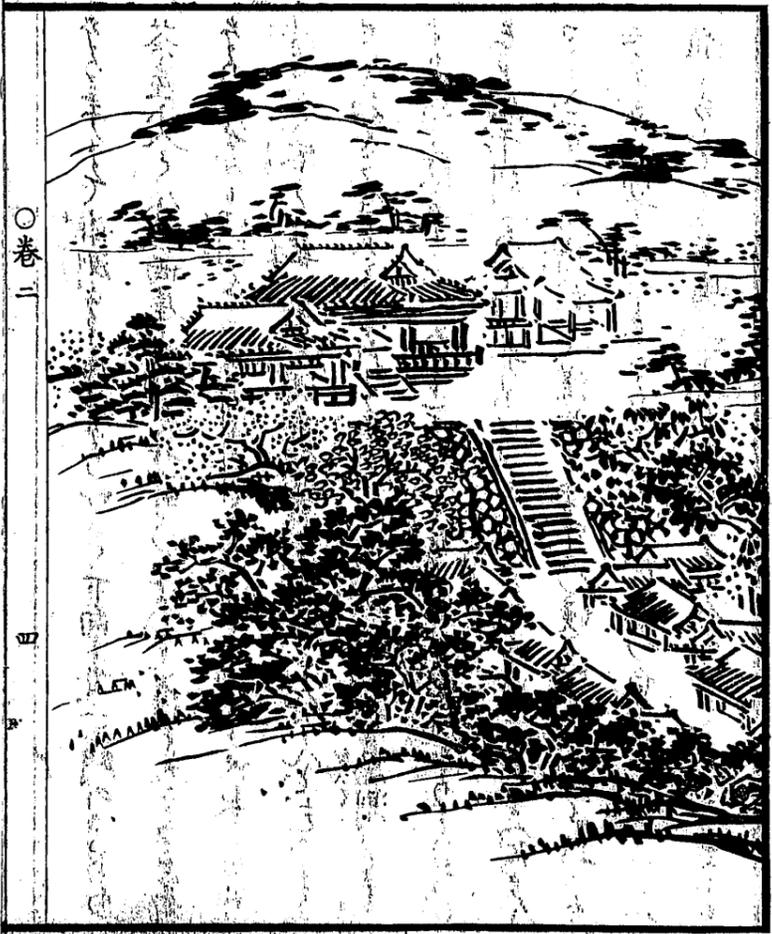


源家



690
ツ
12

備前国瑜伽山
蓮臺寺自性院
之圖



○卷二

備後國鞆
小松寺庭
松



○卷二

八

饅頭屋喜助とらひくがふもたれりかく産る風系も
とらひくしてまらふ波の岸も彼祇園の山縁あり其は小
廻りく南はびひく海上で眺まれば眼前小島あり其は小
浮きとて是を遥ま伊豫の島く煙霧乃中小莽蒼なり此
島のわくは純景と屢々人なれどもいふあらずありくわ
てのつく後くしは亦ま世舊翁の塚あり自然乃青石ゆく産る
并小銘文と彫り

くくくく湖乃と非之くうまの産

銘曰

蕉翁為人 滑稽絶倫 卮言温故

鼓吹知新 千里負擔 諸州師賓

同志繼緒 花月此裡

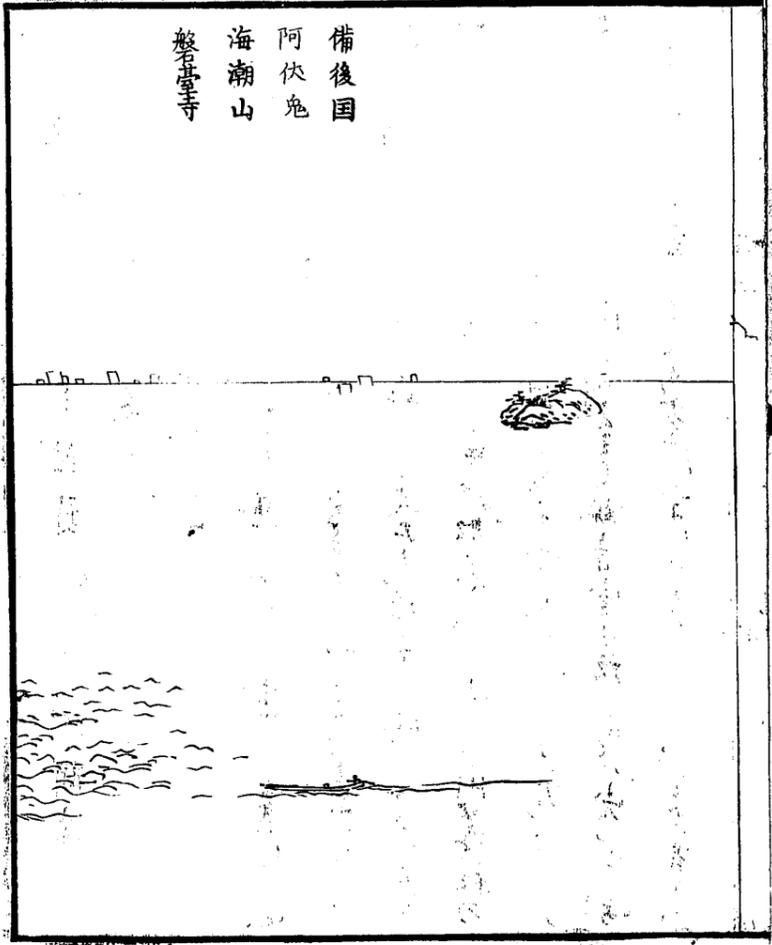
安永六年酉春三月

くあつらうく洋波くく刻過く漕出海面廣きふく南伊豫國
北のく平山波濤のわく浪をふらふなり松と茂とありく立
狭く小瀬ありあぶくゆくの並みなりは茶と玩とありく
いつく景中乃く物とありく畫中れ船とありく街道のわの
中ふ前親きふあつらう飛鳥とく小島とありく島とありく
あゆふは一里 舟とありく観音堂は滑つありく屋
の海岸のく堂は建て南方海上にじく観音の像とあり

○卷二

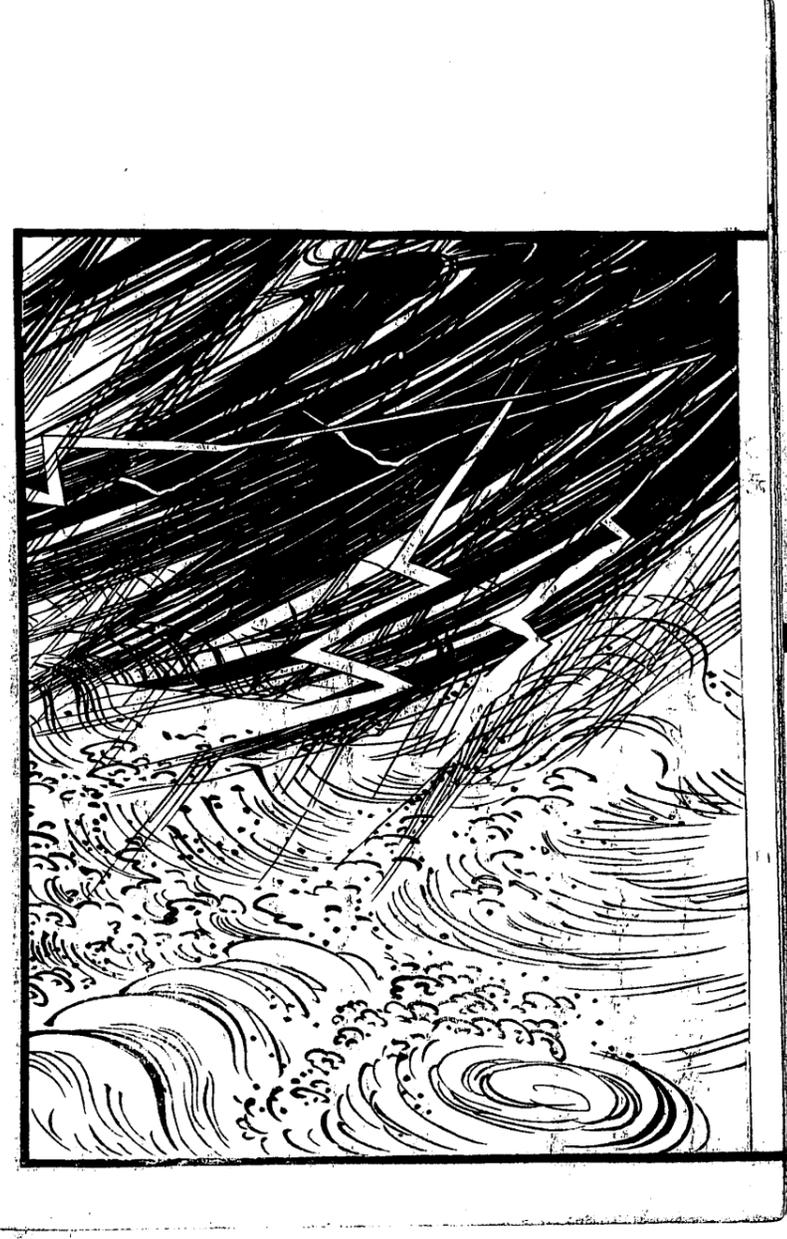


備後国
阿伏兔
海潮山
磐石寺



かり穀物干鰯絲種溢などける好も堵園より夥しく輻
湊す寺は皆山の平小もく洋をくまひしゆ北西の方と三
程のむまに仙光寺とあり寺ありは庭におも三四間なるま
ろしく甚微なる石ありこれよりわたりまのしんまひあ
ま来まぬむおの板にあめしとむらね海があらわす田
をたむるわとあるまは玉の浦のすしめりしとありこれ
うらふ名にたりそそし赤南のくの町端に築出れ杉地ありは因
皆酒を町かて薩子女郎などあり津乃國の兵庫よりあまの
間小第一の大湊なり奥物青物と女の賣ありとあり靴小あれど
午刻とある風夕なわめるふらわておひす西のく半里計

ぬけとて大なる岩ふぬ穴のあると鯨島人家をいばむふありて
山伏瀬戸めり瀬戸鼻とる瀬戸をいばむ瀬戸とあり此邊は
や安藝の境なり北ふありて三原乃城と廣島乃島乃伊家
臣これと領せしふらととすたはくもふありとくの志人
こゆやありて砂見島能地高つまも人家ありて柿と多く
出す西條柿と柿柿はあり出さる又すして南ふありて瀬戸
田とふ所ふらる人多町をいばむありとふかして申刺違ふたの海
小著ぬ尾のそより忠海安藝の境内なり人家二百軒とありあり
深もふ百間なり石垣とけふありて其所ふ入金なりありと
く干沙ふ入えずと湊口ふありとあり



しんせがし... 御本社の内陣まじら百八燈ひやくはちとう... 百八燈皆整せい... 料銀十二文廻廊まわらう松間まつかまに廿四文... 惣すべて三百二十四燈の料銀六十文ありておまひりて泊宿す。

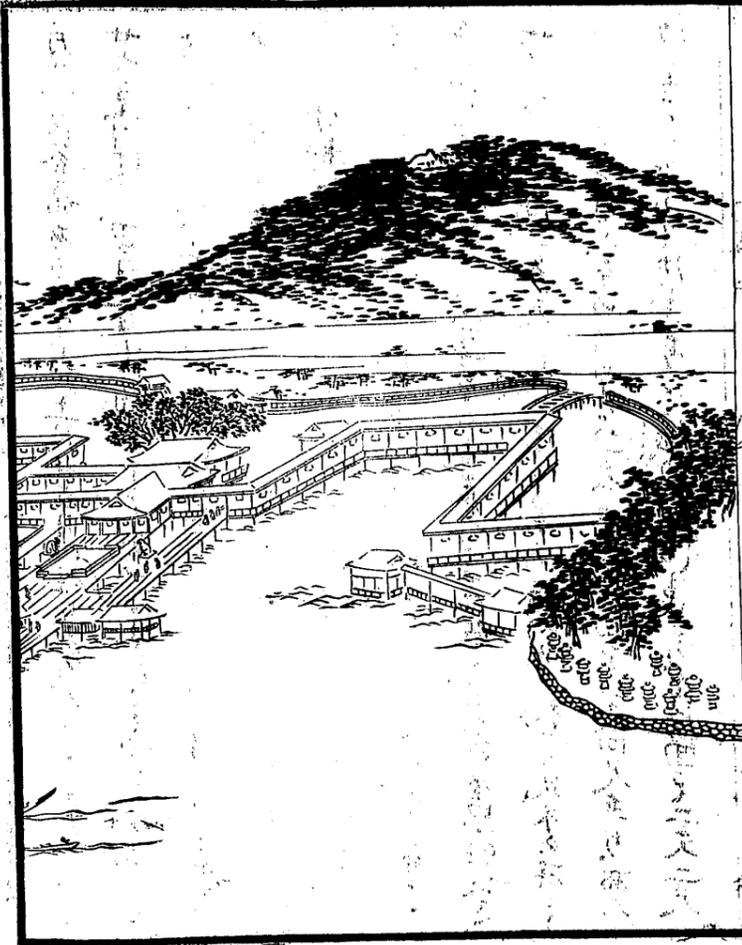
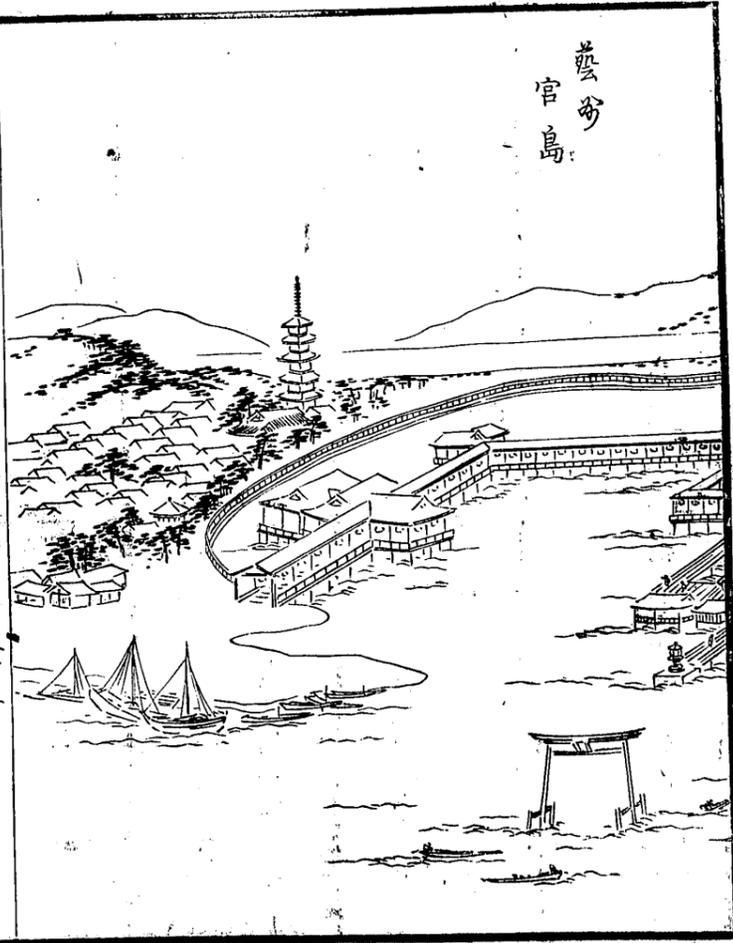
○十日は宮中みやちゆうよりきじし業内者ごうにんよりめて衣刺過いさつより業内者ごうにんの字なを... 彌山やま... 麓ふもとより二丁ゆたか私法大師しりぽうだいし入石いりしの宝塔ほうたかのよあり二丁目木不動ふどう尊みことありふし...

あり上うへ白糸しろいと流ながれぬ水みづ上うへ五丈ごじゆうばかり上うへれぬ水みづの幅はら五尺計ごせきけいなり三段さんだんおろし水みづ深ふかく聲こゑ高たかく細こまくおろれ散ちりてけお白糸しろいとと掛かり人ひとどしどししき流ながれぬ音ね觀かんと謂いつれし七丁目しちぢゆうめ木林堂もくりんどうありカ餅かもちともちむつと一文いちもんゆる茶屋ちやゑあり此こゝ也なり文珠ぶんしゆ薬師やくし不動ふどう彌勒みらくの堂どうのありなる往いり九丁目くぢゆうめ木石屋もくせきゑの薬師やくしあり... 及また二王門におうもんありこれ右みぎのつら朝日あさひ觀音くわんおん名な觀音くわんおんへり... 〇卷二

藝
官
島

○卷二

二十三

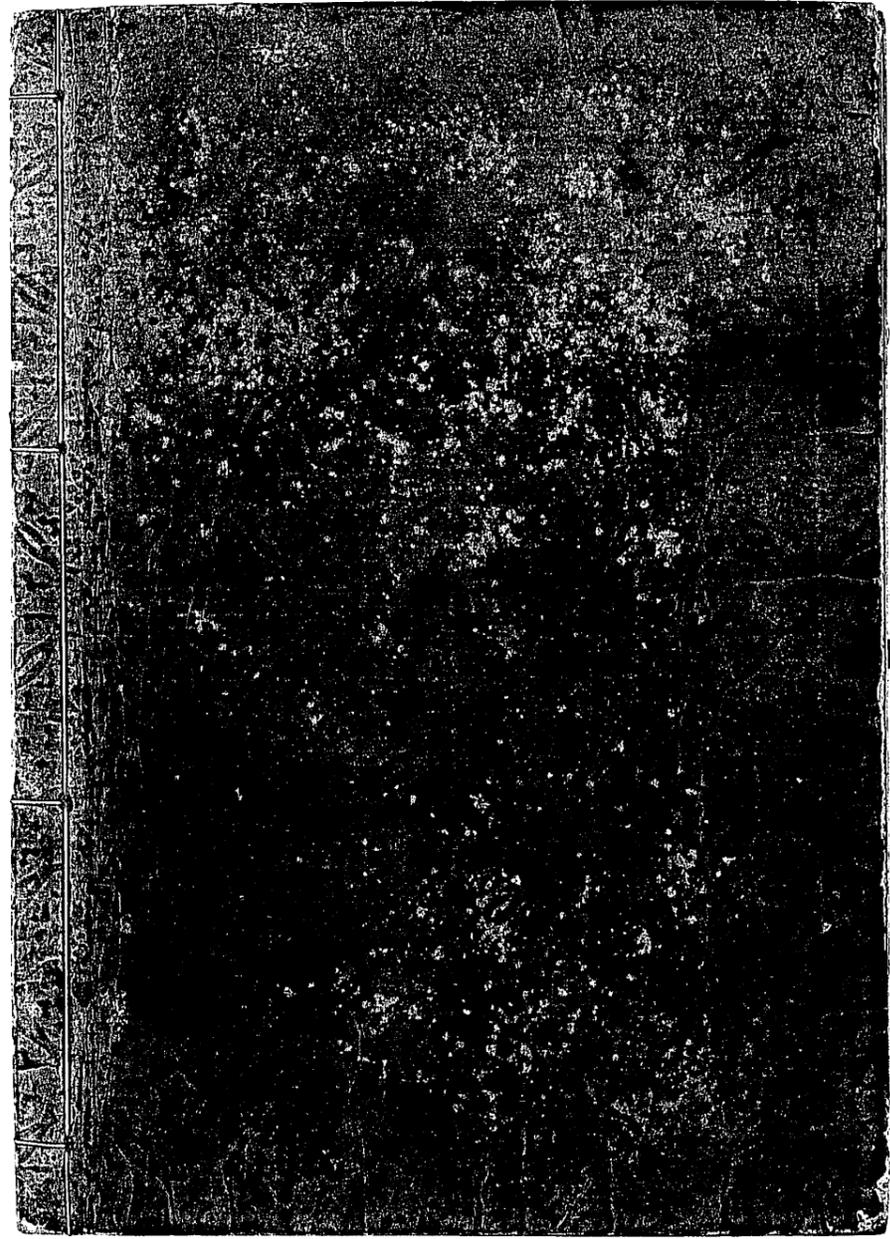


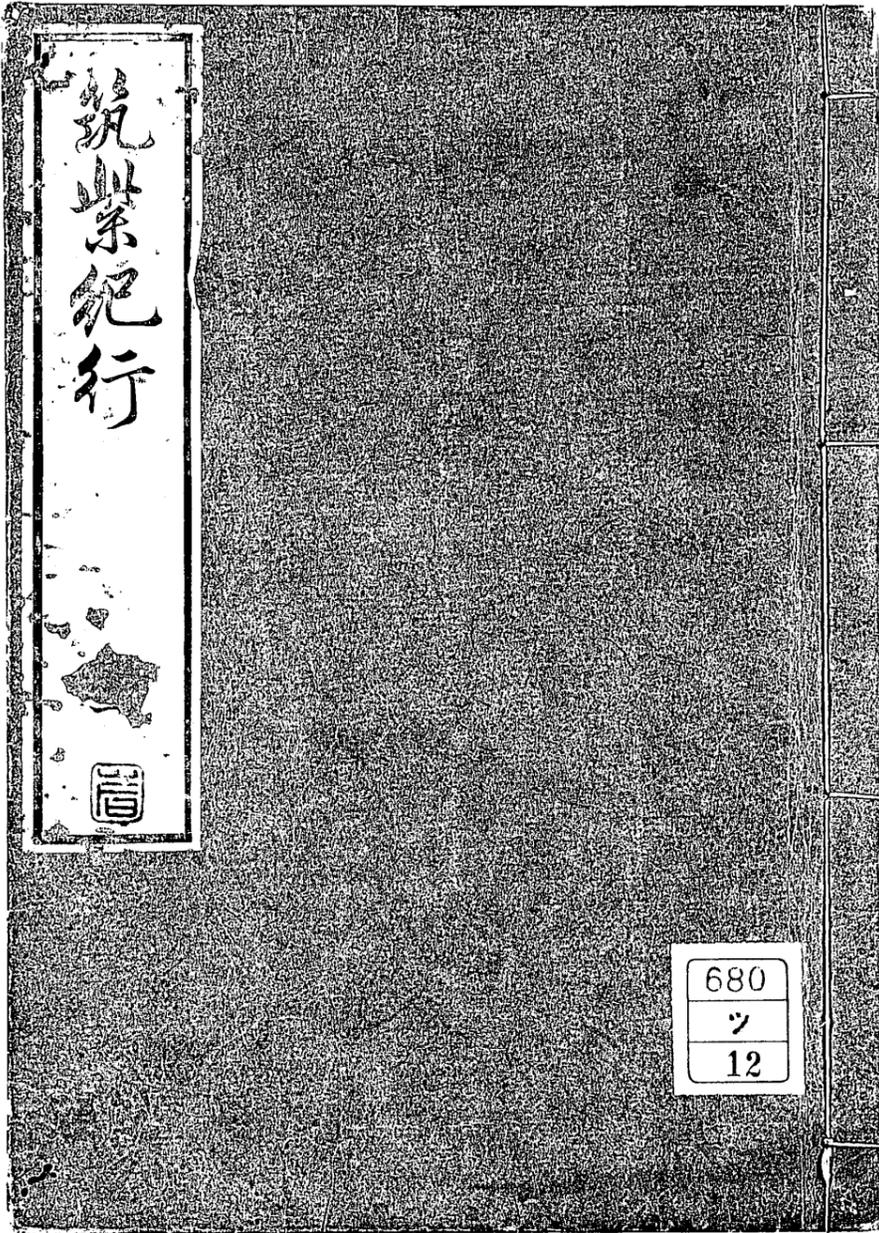
あり添柱の圓く何と一丈七八尺程なり。柱木の左右木口は日光月光の真鍮の金物とほなり鳥集柱のつる所は木口一尺むらりある丸木とあまうらつて地とくあく。其中にうらとくつる。汐時小六七尺も水うらとく。惣ては汐社汐時小なる毎小廻廊は固より舞臺拜殿より神社の下まも汐さく來る夜中小潮まつ時、燈の火映いと甚奇觀なり。沖の方より拜望れば、廻廊も神社も上下は燈のつる。それ一目小見たりあり。實は後系と梅すべし。かて巡拜終るとて午刻に小宿小ふ。

當社御神領千六十石餘。社司野坂將監別當大聖院。真言宗。

本願大願寺。社家淨師上下六十人。社僧二十一坊あり。とらひてゆつる。船小ふ。泊宿す。

筑紫紀行卷三終





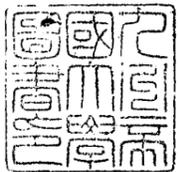
筑紫紀行



680

7

12



680
ツ
12

上ノ亥
長府
下ノ亥

室積
早瀬形沖
阿蘇池

徳山
段浦

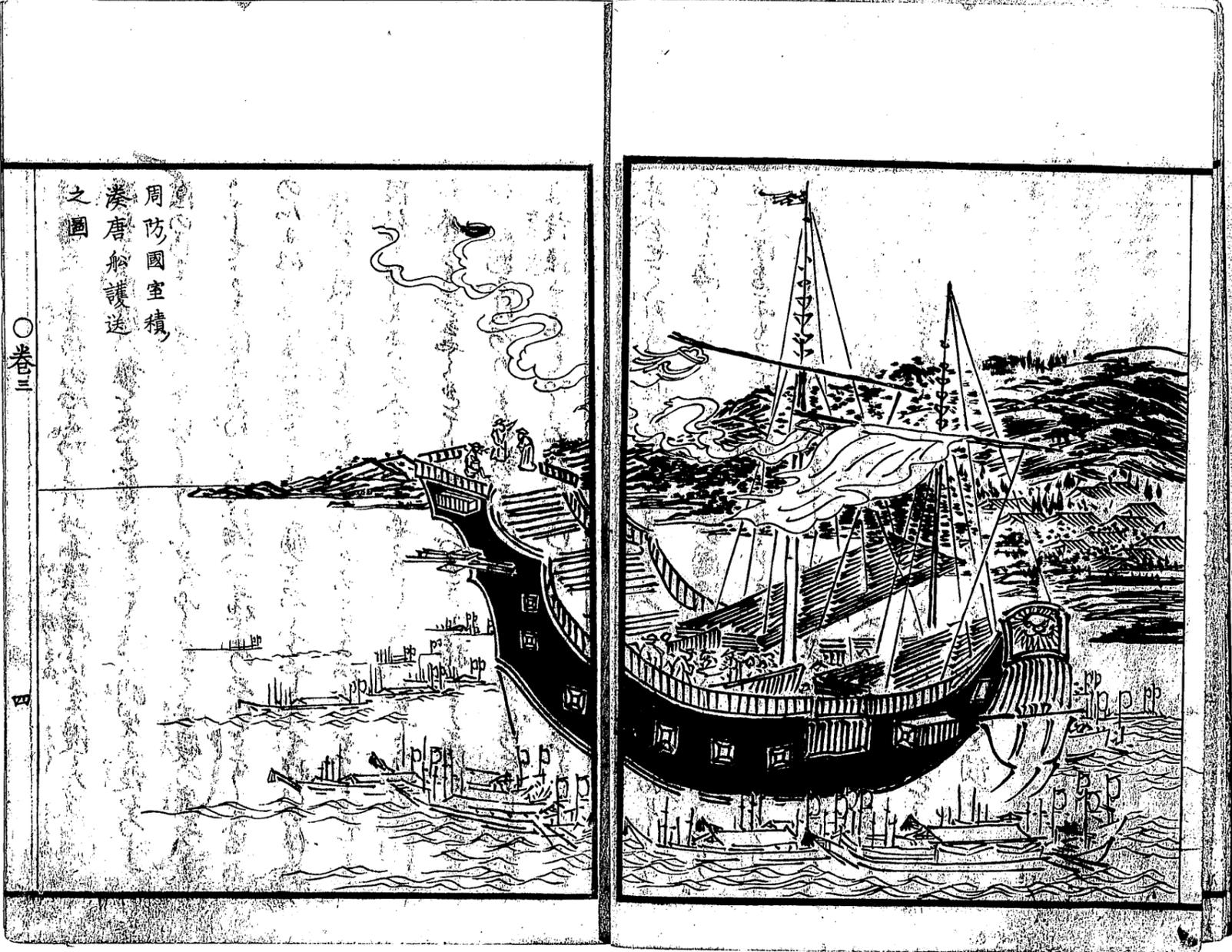


筑紫紀行卷三(三)

柳文庫

四月十日卯刻とよ宮島に出帆す。風平く千里程を
くづかき大坂をさつらりぬる。舟中舟人等皆は
儀用防のほかりかくて防州の津へ。暮らるる
と通る。舟の方の津へかゝり。花のむらあり。かゝる
よらりて。負ひく。穴の口。の川に。舟を
え合せ。よ午刻とす。舟中。舟人等皆は。舟
追風よらる。風は。舟中。舟人等皆は。舟
かゝり。舟中。舟人等皆は。舟中。舟人等皆は。

○卷三



周防國室積
湊唐船護送
之圖

浮薄たる奢侈の心より此舟路の情状を漫然たる滄海に
漂き風波の難と愁を感ずる物も此舟の洲を以て鏡として
波のほとりへ鏡を耳に似て映るるやも安寝の隙に平
うしてよも凄涼なる時(海)の種々の心とまじり大海必
の心は似たりは痛きと痛きと云ふやんを懐ひの餘り
積鬱と数下(兼)を感ずるものなりしなりし是より
陸行したるん又今とこの安りしは(舟)を去るの難の
程も(舟)を去るも(舟)を去るも(舟)を去るも(舟)を去るも
かゝぬ物なほ有りもれ(舟)を去るも(舟)を去るも(舟)を去るも
よ(舟)を去るも(舟)を去るも(舟)を去るも(舟)を去るも

句(舟)を去るも(舟)を去るも(舟)を去るも(舟)を去るも
得已窮人乃(舟)を去るも(舟)を去るも(舟)を去るも(舟)を去るも
も(舟)を去るも(舟)を去るも(舟)を去るも(舟)を去るも
は(舟)を去るも(舟)を去るも(舟)を去るも(舟)を去るも
○十二日(舟)を去るも(舟)を去るも(舟)を去るも(舟)を去るも
ま(舟)を去るも(舟)を去るも(舟)を去るも(舟)を去るも
多(舟)を去るも(舟)を去るも(舟)を去るも(舟)を去るも
あり(舟)を去るも(舟)を去るも(舟)を去るも(舟)を去るも
よ(舟)を去るも(舟)を去るも(舟)を去るも(舟)を去るも
と(舟)を去るも(舟)を去るも(舟)を去るも(舟)を去るも

り石橋を掛たり橋と渡りてその橋かたにすく同を南を
多一町今少一は考みんとするまよふ小川あはけ川と境を
是より徳山領川より西のまはれなるありて其の川は
と多く出するなりかくて町と終て十町程ひませり其の川
川ありと橋と掃くが河もよもよもよと流るる一里
程あり又小川の川のまはれなるありて其の川は
十町程まはれなるありて其の川は
より流るる通ふ川のまはれの川ありて其の川は
廣くありて其の川は
川の南のまはれの川ありて其の川は

佐の八幡宮の御向一法の一日本國中の佐の八幡の其一あり
とをいふよりて町中ふれなるありて其の川は
何れもすくひとありて徳山の旅宿のまはれの川あり
あり西社の八幡の豊前の宇佐山城の男山相模の鶴岡とけ周
隨の遠なるありて其の川は
を全助の人のありて其の川は
數十町にわたるありて其の川は
一とありて其の川は
は遠るありて其の川は

○十四日卯刻とふまはれなるありて其の川は

りある川海村の村ありて海に流るる石橋を海と云ふの言
ふ海は海と云ふ人ありて海に流るる石橋を海と云ふの言
又りて富田村ありて海に流るる石橋を海と云ふの言
海と云ふ人ありて海に流るる石橋を海と云ふの言
是よりりる海岸ありて海に流るる石橋を海と云ふの言
かよふてりて海に流るる石橋を海と云ふの言
ハ前の海に流るる石橋を海と云ふの言
海に流るる石橋を海と云ふの言
至る人ありて海に流るる石橋を海と云ふの言
りる人ありて海に流るる石橋を海と云ふの言

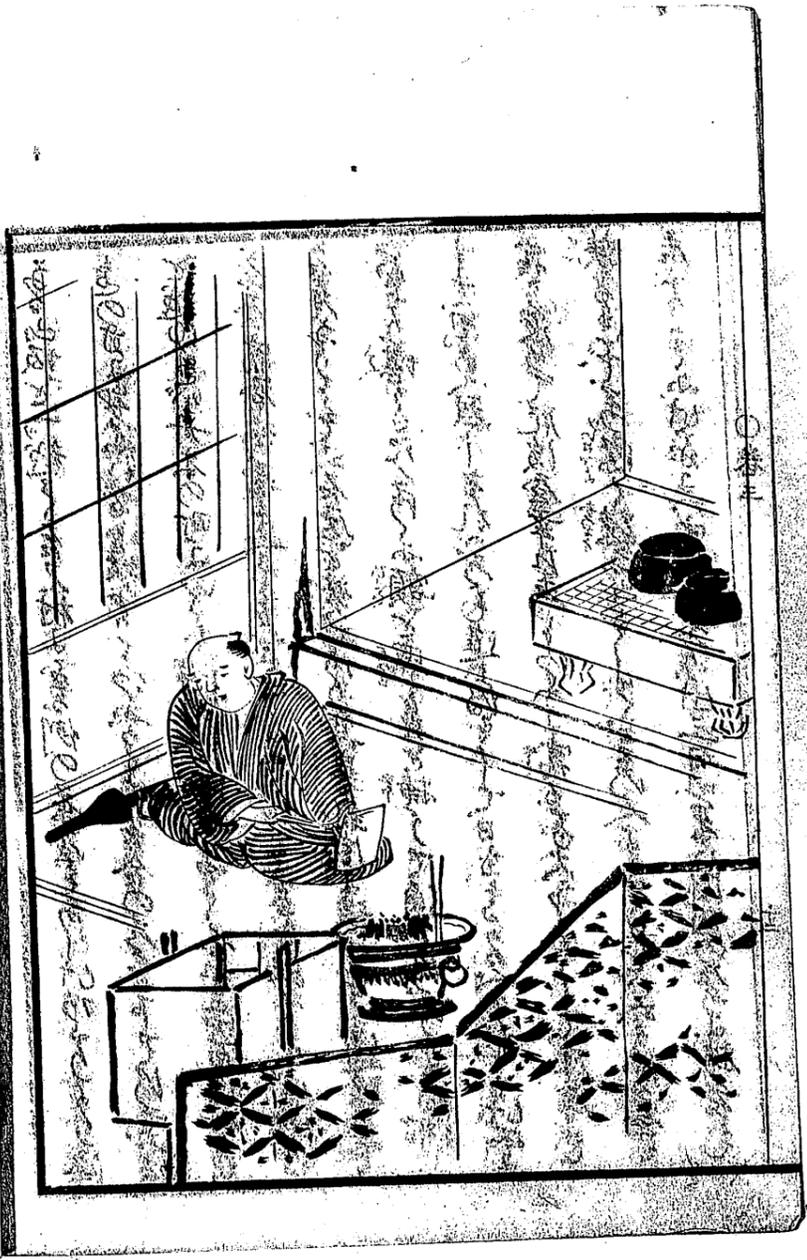
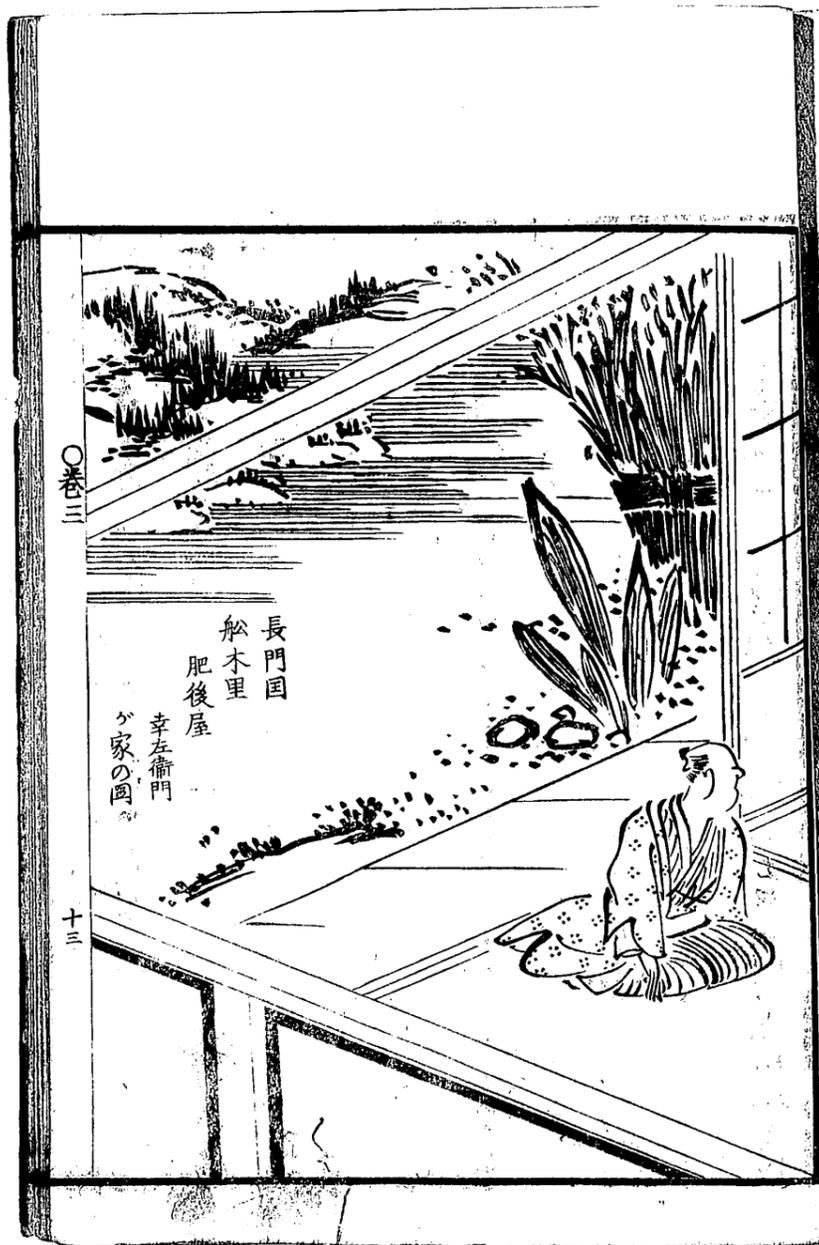
けりて海に流るる石橋を海と云ふの言
海と云ふの言
たをとりて海に流るる石橋を海と云ふの言
従是東都濃郡
従是西佐波郡
つきりて海に流るる石橋を海と云ふの言
其の海に流るる石橋を海と云ふの言
海に流るる石橋を海と云ふの言
砂浜と云ふ言
屏風と云ふ言

周防國
佐波郡
富海村
境內之
岸風景



○卷三

九



豊後早稲
杜并神
布川瀬
景之風

卷三



く申判以下国女侍の事にて、此の町乃、奉仕者多し、
宿。

○十八日雨天、大く滞り、
時常より、又、
後、
其の人、
入口を、
瓦葺、
とあり、
東山、

中の町、奉仕所、
町、
出舟、
て遊女、
一、
とは、
肩を、
りの、
はせ、
女、

酒の花の香も 縁どる 酒の味も
若かりしはぬき 神の那 松は花の手

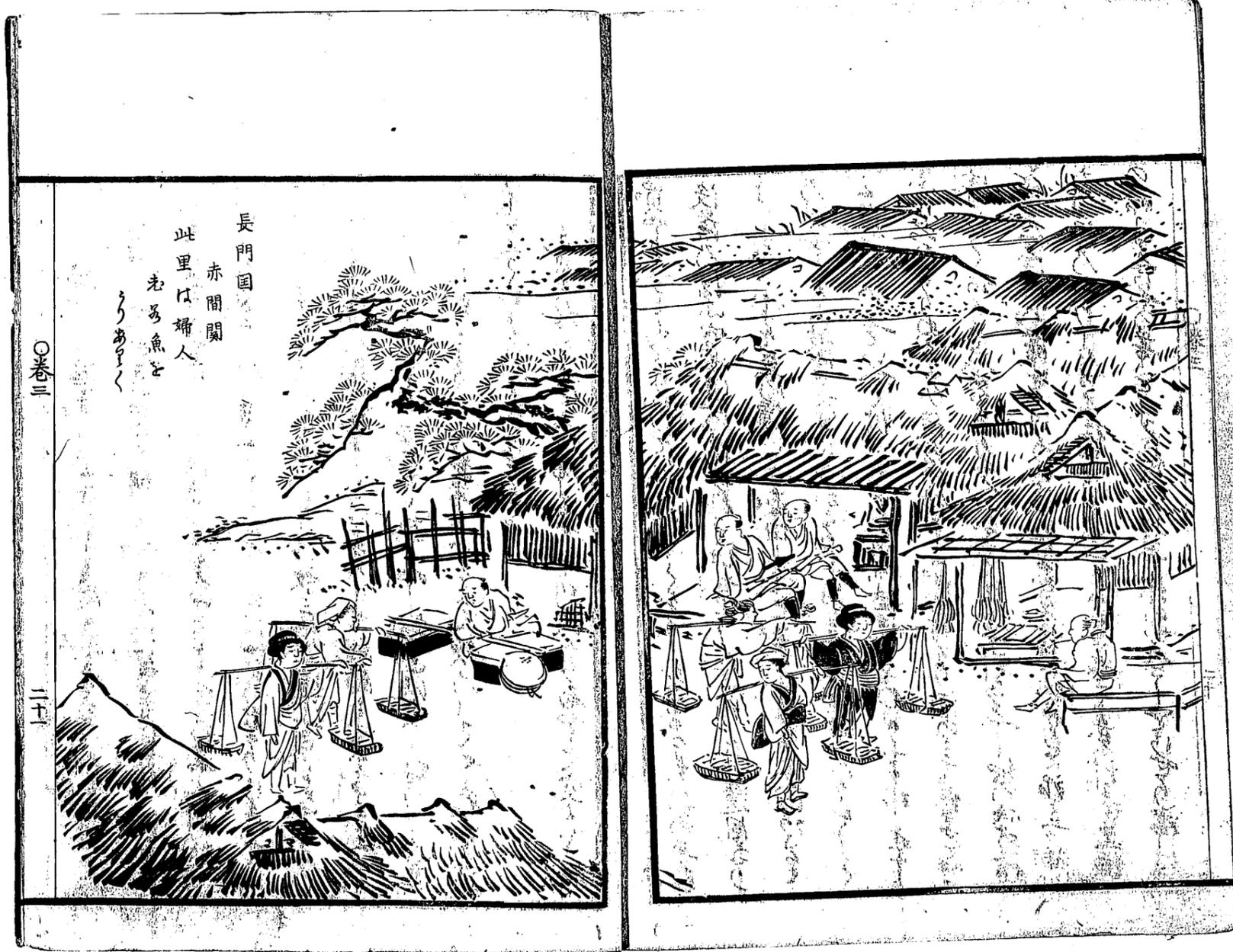
浄代への論名あり 平家物語は巻 巻等あり

本堂のあは自然石の彫りたる 成家の碑なり

整くは花のさる 月夜ふかき 天明六年 當津社中 建之

と彫りしは花のさる 酒の味も 縁どる 酒の味も
まがりしは花のさる 酒の味も 縁どる 酒の味も
まがりしは花のさる 酒の味も 縁どる 酒の味も
まがりしは花のさる 酒の味も 縁どる 酒の味も
まがりしは花のさる 酒の味も 縁どる 酒の味も
まがりしは花のさる 酒の味も 縁どる 酒の味も
まがりしは花のさる 酒の味も 縁どる 酒の味も
まがりしは花のさる 酒の味も 縁どる 酒の味も
まがりしは花のさる 酒の味も 縁どる 酒の味も
まがりしは花のさる 酒の味も 縁どる 酒の味も

買やんらん 酒の味も 縁どる 酒の味も
没落の後 官女達の 縁どる 酒の味も
よいお侍 酒の味も 縁どる 酒の味も
乃遊女 官女達の 縁どる 酒の味も
と胸元 酒の味も 縁どる 酒の味も
寄給 酒の味も 縁どる 酒の味も
たり 酒の味も 縁どる 酒の味も
の松 酒の味も 縁どる 酒の味も



長門國

赤間關

此里は婦人

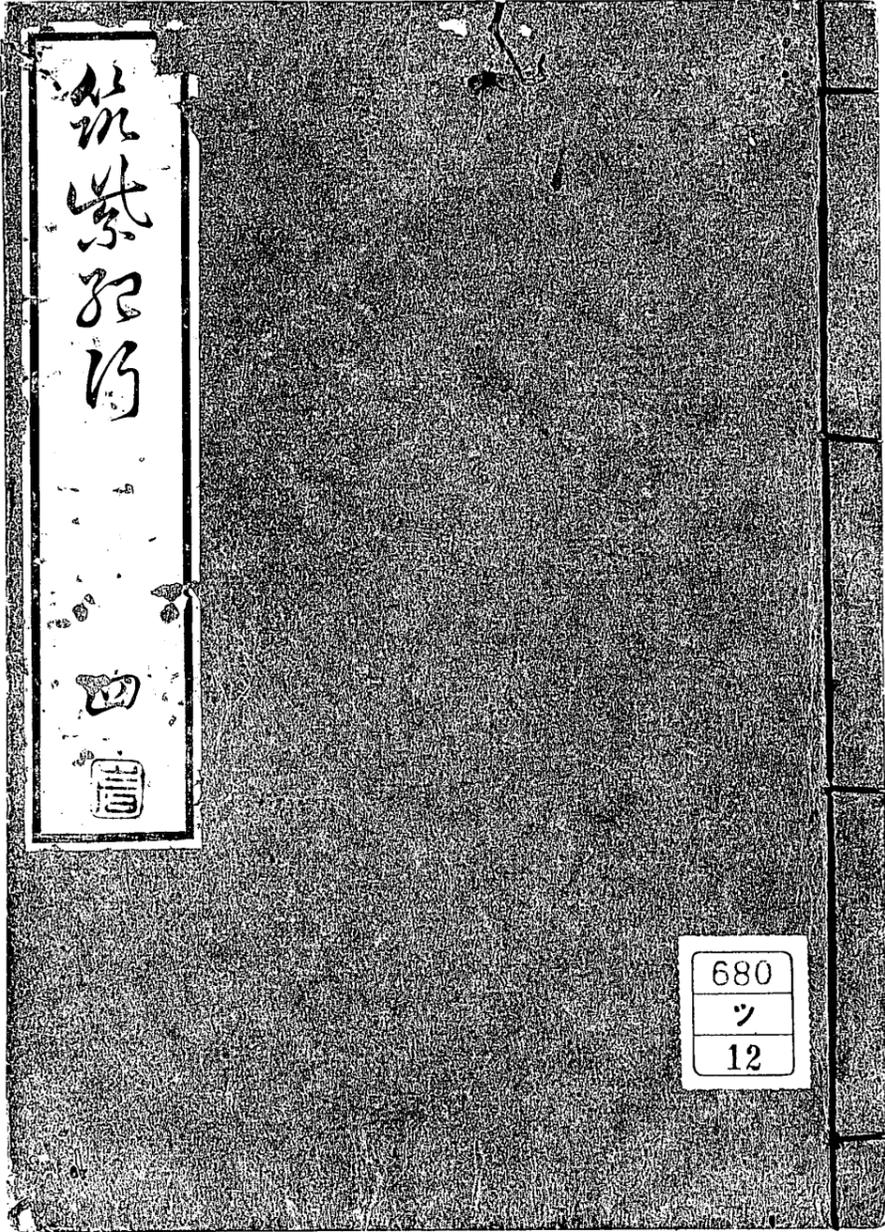
老多魚と

くろあま

〇卷三

二十五





紅紫記

四

言

680
7
12



午刺以長濱小舟倉の入口なり豊前國小倉赤間関より小倉
左近の陸度十五石乃清城下なり此郡九州の咽喉なり川原川原番所
ありて出入舟の敷切を設け川原川原一町計なり是橋あり欄
干小鏡の擬寶珠とほたり橋を渡ると又付番ありとあり
内城あり横橋の町あり天守ありとあり城あり人家は濱より
流して城の外堀と流しありと敷り城下なり橋のぬ詰室町
一丁目紙屋作りの家あり書舎の鯛の身身苦賣とあり
らありとあり魚と味噌及びたるとあり酒とありもの物あり
茶漬とあり金ま少紅とあり出午刺やとありとあり十丁計りて
町の出口物門あり門におふと番あり一丁計りは長倉ありとあり

撫育所とあり額とあり民とありとありのありとあり
とありとあり又十丁計り大裡の道あり又十丁計り
黒なる村あり二十軒計り半里計り湯川村人家二十軒あり
皆農家也茶屋ありけ村の入口は石とあり一里塚あり十
計りけ猿とあり村農家二十軒計り茶屋あり十丁計りけ村
農家二十軒計り茶屋二軒ありとあり平るの大道ありとあり
とありけとありしおとあり繩ひとありとありとありとあり
才清二丁計りあり周防の國とありとありとありとありとあり
とありとありとありとありとありとありとありとありとあり
金部十計りありとありとありとありとありとありとありとあり

豊后国宇佐
 神社之圖
 比海社八延
 法式神名帳
 小豊后国宇
 佐郡八幡大
 菩薩宇佐宮
 とありては
 國の一乃宮
 あり



○卷四

九

橋をかけたりともよもひ八橋の橋中もくづきしは二三四
五の計の太石あり諸は各社と物法せり。社林の雲 玉備
官 社林の 阿保院堂 藤崎神社 橋才夫 又珠堂をせ
せくぎて諸は橋橋と多くなせ極くは比のさぬ礎のより
ましく見たりしとも道く諸を地とせしはかゝるあはれ
面も社の比ははらうんせり。法橋の 馬場あり丁計の
程茶橋は四りて後とあり。是より長橋の下ありは川筋乃
水の半分丁計の形く建つげたるは遊女茶屋茶屋の町あり劇場
をりりしり。宿ありて例の例なるものまきつげ比の法林
竹子石肥前の諸あり後取り終るはまきつげなる制札ありふとせ

殿乃の名をよせり。八幡宮の神主は到はた宮宮城大宮司の
あかありまぐく社家三百人計かま社係若干人なり。は毎月六
齋小富とけくたり。大宮司十百貫文。中より百貫文。小千貫文。
中九百六十文。小札六百文あり。中津の紙札はあはれも通用を紙
一ふ紙九十文ありとせ。

○廿三日卯刻にふき出でては市ありて。其の入りは川の由は
曲りり。中津中津地は赤あり。百丁計りあり。村舎が十軒計
る。傍より出で茶屋をり。はあはれりも。膳ありと堀をせり。
即半夏のよまあり。びくしてなるふ石多くあり。百丁計りは川あり。
本の方より形あり。は川と川と流れては川と西の東と流る

豊后國
下毛郡
耆闍窟
山羅漢
寺之圖



○卷四

十三



越前の国にありては、鶴村あり、十丁計りて又山國川せらちより流る。
けり川の淵部十丁計り水源にして腰を浸し腰なる水の勢は、
甚老くかくて十丁餘りて宮園村あり、宮園村あり、もと三里餘りて中津の庄領
あり、人が四五十軒あり、いかに休むる茶屋あり、村をめぐれば
川あり、橋町計りけり、又川あり、二丁も石を積みて橋を、たゞ九
本とあり、とまゝに石を布て橋をせり、もとまゝにこれに堂あり
至る、人家二十軒計り、れは茶屋あり、又川を二ッ流る、とまゝに中津村は
至る、又六丁計り、宇井村あり、人家二十軒計り、例は茶屋あり、
又行くと平小津村あり、中津領あり、海をのき、茶屋あり、又
二十丁計り、けり、宮園村あり、もと三里餘り此本村、もと三里餘りけり、

越前の国にありては、鶴村あり、十丁計りて又山國川せらちより流る。
けり川の淵部十丁計り水源にして腰を浸し腰なる水の勢は、
甚老くかくて十丁餘りて宮園村あり、宮園村あり、もと三里餘りて中津の庄領
あり、人が四五十軒あり、いかに休むる茶屋あり、村をめぐれば
川あり、橋町計りけり、又川あり、二丁も石を積みて橋を、たゞ九
本とあり、とまゝに石を布て橋をせり、もとまゝにこれに堂あり
至る、人家二十軒計り、れは茶屋あり、又川を二ッ流る、とまゝに中津村は
至る、又六丁計り、宇井村あり、人家二十軒計り、例は茶屋あり、
又行くと平小津村あり、中津領あり、海をのき、茶屋あり、又
二十丁計り、けり、宮園村あり、もと三里餘り此本村、もと三里餘りけり、

豊前玉津子村の
山中小川激流の
圖



〇卷四

十七



伊領より、人衆を平らぐに、宿屋茶屋を、
何某の方より、
出づる程、
尾州を通り、
舟供も、
本里より、
かき、
水深く、
あま、
珠と成り、

たる、
白で、
橋、
乃、
町、
や、
と、
枚、
草、
宿、

○廿五日辰刻に雲霧を細らざるに瓜先よりやまを降りて
取もつり半里許に入れば田道中とて才津の嶺は林山なりはなほ
よりけり此の谷川を五渡り峠を越えぬ嶽より山原へかゝり又ま
計ありて岩の懸りつゝ下りありこれより谷川は流つゝその川を渡るも
右より渡りて右方の山道をかまき推りハ椴梅榎楓木楓木
無き後一と日光を蔽ひ遠く谷川が大きな盆石をともめを流す
に終るは目と候がくちを懸あつてゆくて程ゆく度も谷川を
渡りて二十丁計をれば峠多し右の方に一乃たの粟二の倉は粟
三の鷹の粟とて三つ山の粟より十丁計急なる坂路をたれぬり
たる杉林ありけり早や山は崖角より一程と四十丁よりて又一

丁計をまきばを前坊乃大門前より石橋と渡り石の多集石焼
釜の河原とまきば二丁計と登るは浄水社あり拜殿浄水もみ
檜皮葺く浄水社に敷十方の大岩乃根も洞もそれ浄水社の石風と
はなをたり浄水社と水もあはれ谷川の横より流るゝ石橋とたたり
かくてその石を集れ下りてて廣き道の西側は杉の葉もる木と
は十丁より下れば地帯堂あり是より坊井ありたりて七八丁あり
彦山町あり川内より三三町あり二丁計片側あり片側ありして
西の口二丁計乃程は西側の中程を甲の三と石垣ありとて二丈
計あり町瀬ありひくまき二町計あり入敷すて百町計南は道
邊をぞりたり午刻に道邊の井を登りありては宿ありて



書舎と傳めて是より中嶽のかり社を巡らせんと例の業田乃
ちて求むるに山つ所と離れておの方十丁計の堀を築けり。けち
集り何所目敷(物)もあつひは後にて古の伝へて是より十一
丁目四方四方計の代りなりはかきつる乃と天祥の堂を居たり石
橋と掛り。十四丁目は後堂小堂を成りり寄附し給ひ。いふ
堂乃後棟者十八間。障樓あり。小山將軍北殿。十二社の宮。常興殿
あり。十二社。中嶽。南嶽。北嶽。知堂。白石宮。大石奉。
中宮。小山殿。玉屋。大南殿。鷹巢宮。侍養堂をいふなり。
増度上人小宮を安させり。二十八丁目小住住子の堂(寺)は
接付あり。七條乃月行奉れ人より設るあり。三十五丁目

一の嶺を藤原とまるとまの二の嶺の三の嶺計あり。決乃嶺
三筋より岩も少く。此は樹のあり。凡先にてやと後取すや
やむや登りたりんを後れと落もれぬ。下は岩もにありて
身體粉砕も危くねといれ。いやく危くからんとて登りたり。
とて三十一丁目あり。いやくは前地を透解するあり。又二丁の元は
弁才天の宮あり。是は好教社も。鍋島の住り寄附し給ひ。いふ
二十八丁目大目木。小宮を安させり。又一可き。は狩籠護法。乃
祠あり。外廻りも八欄干あり。四十二丁目。伊勢大神宮と通ねる
所あり。四十五丁目。いやくの堂。三間あり。前より右の護摩段
の。後より前より杉原。乃は水。乃の。本のを築たり。



○卷四

十三



英彦山
一の
深乃

坂人
深乃
の
岩壁
の
下

宇佐の幸傳事始一

十地よりのもも海より種まゐてやそは法を根柱の那
又玉座を石塔を滅水と目一人

いそはさる考のさ根乃沈みおとほすくらを悉けんさ
こまのりしどかくて夕暮方お宿を悔まて休息す折宇佐より
羅漢又考心とる辨ありし陸難しして驛所の心も心は任其
かして河内村より豊前坊と二里お餘まる本道殊に険阻おたが山
坂のしりて人おぼろそく岩川を渡るゆき岩なるゆき敷とまら
き寄て日を休む家もなれば岩を腰と掛き水も咽と咽
して耳に閉物していそを豊前郷の考のさのりしどかくて

面白く風雅あり方乃多るやうなれを園よりさる方におあつて
山坂おぼろそく息喘汗を流る時おぼろそく樂しき思ひをば
してたな物まごころおぼろそく考のさのりしどかくて
実情ありし幸にして豊前坊を渡れそまより八平道又たわら
きやの安らみぬ考のさのりし中嶽を登るをいし輪を根
路のさる苦しき又いんあふけんしおまわけはして登らぬ
程乃坂路におまの度をとりゆくお道傍乃いみしきさる移
木の枝葉繁密ありし目影を蔽ひ隠れからしめて中程とせと
はるまゝ周防の海豊前の地と眼下に足移りして中津より宇佐との
道のりしどをさるおぼろそくしりしおまもさるく下あに足下さる



○卷四

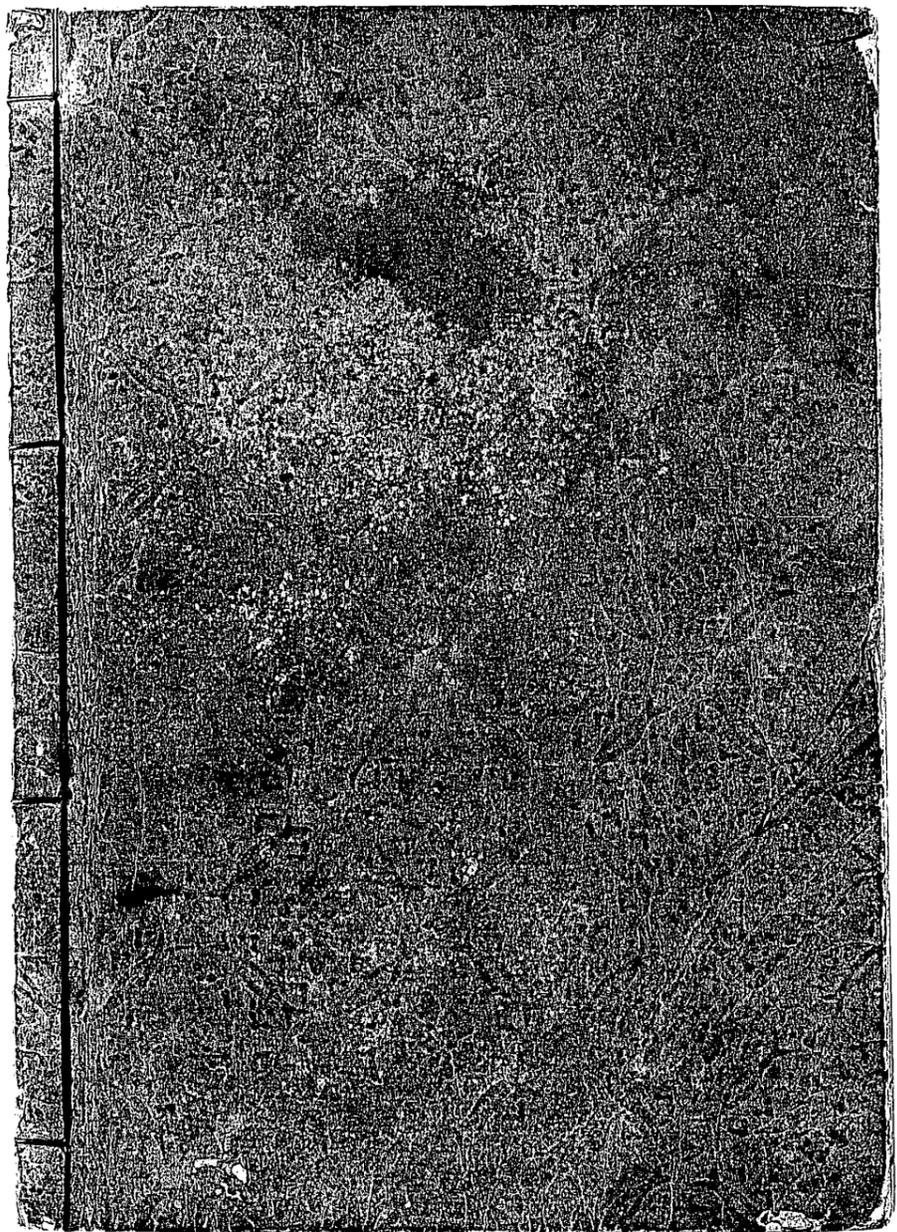
廿六



英彥山
中嶽之
圖

丁りなる炭焼を業とする家あり。其等ては焼窯を各
徑に作り丸く石垣を築周りて、その内を火の煙と炭を
多く丸く壺形の如く蓋ひて、横合を火の煙と炭を
積令火をつけて口を蓋ひて焼く。彦山より北ありと都を殊ふ
多し。さうたひ小耳の如く、小都を越のうらけを多し
といふ狂歌を詠し、決りけしもの人多し。と笑ひつゝ、其邊行坂を
登れば宿の如く杉林あり。彦山峰入の山は達一七日の行場あり。
け而来小倉谷田川を越え豊前國あり。筑前國あり。由國の境
をわきより平道あり。半里計行、筑前國あり。石原町あり。福岡の
邊の地也。地あり。人家あり。十軒商賣を業を多し。け所あり。陶器を

焼出に我國の流し焼の如く、陶器あり。是より山道を凡そ下りふ
行ふ。倉庫村にて家五軒あり。あり。十軒あり。下りて十軒あり。
之れ同一村あり。是より管川を下り。餘り後、ぬらぬら路あり。と
いふ。又二軒あり。けし。み村あり。又十軒あり。けし。あり。あり。
あり。けし。すく管川あり。して雨より水塔あり。通り難し。といふ。けし。山
道を下りて。半里計あり。けし。村あり。又半里あり。けし。村あり。三軒あり。
道あり。けし。茶屋あり。十軒あり。けし。村あり。三軒あり。けし。街あり。
けし。次より星倉村あり。三軒あり。酒を茶屋あり。あり。あり。
拜松村あり。三軒あり。村の入口に野原あり。幅あり。石の石集たり。あり。
前より大なる橋あり。あり。二軒あり。けし。林あり。けし。村あり。あり。





竹紙紀行

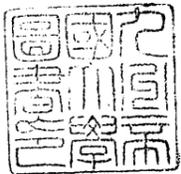
五

圖

680

7

12



680
7
12

善導寺
磯城

高良山
大村

久留米
七崎

佐々

筑紫紀行卷五



久留米

柳文庫

四月廿七日あけ方より空腹ぬ郊刺さふく宮の宿を多々町あり
重(おき)筑後川の境より堤よりて宮よりいづれ渡津あり川向を
筑後の國より舟より渡りて彼方の堤を三年いづれ長津川より
い筑後川より流るるをかりて流る川瀬より間計川底より切石をすき
るすくぬあふくをの川を流るる長野村町あり軒商家ありれど
茶屋あり次は宮田村村敷の町あり長野村より宮田村より下
宮田村あり又十里より行はるる宮田村の町あり商ありは町あり
八幡の神社ありまふいづれ筑後の善井町あり宮田村より久留米あり
後の町あり宮田村の町あり久留米の町あり商あり多々軒あり

○卷五



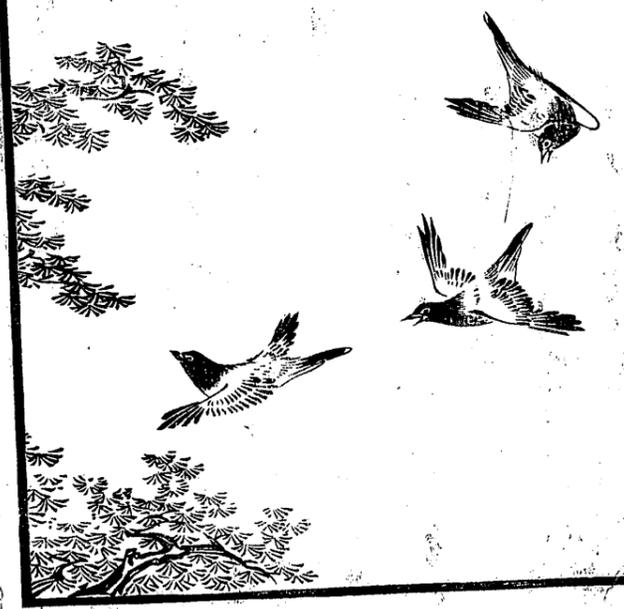
○卷五

四



筑前國三井郡
高麗山之風景

高麗鳥之圖
以鳥ハ肥前の國ヨ多
尋常此鳥ヨリハ形チ小
クシテ白キ鳩アリ里人の
庭枿或ハ林中ハ群集ス其
形状を美アリ



○卷五

七

るの辻ごとふ石の志ひすどなるの豊前筑前筑後の内、松平の
皆孫田より此種を石造り作り、又、石を庚申の春彫りし、
さ又、此國の内、通用する米札あり。

免

米何程由何の秋津物成を以て丁相渡り

會本米印

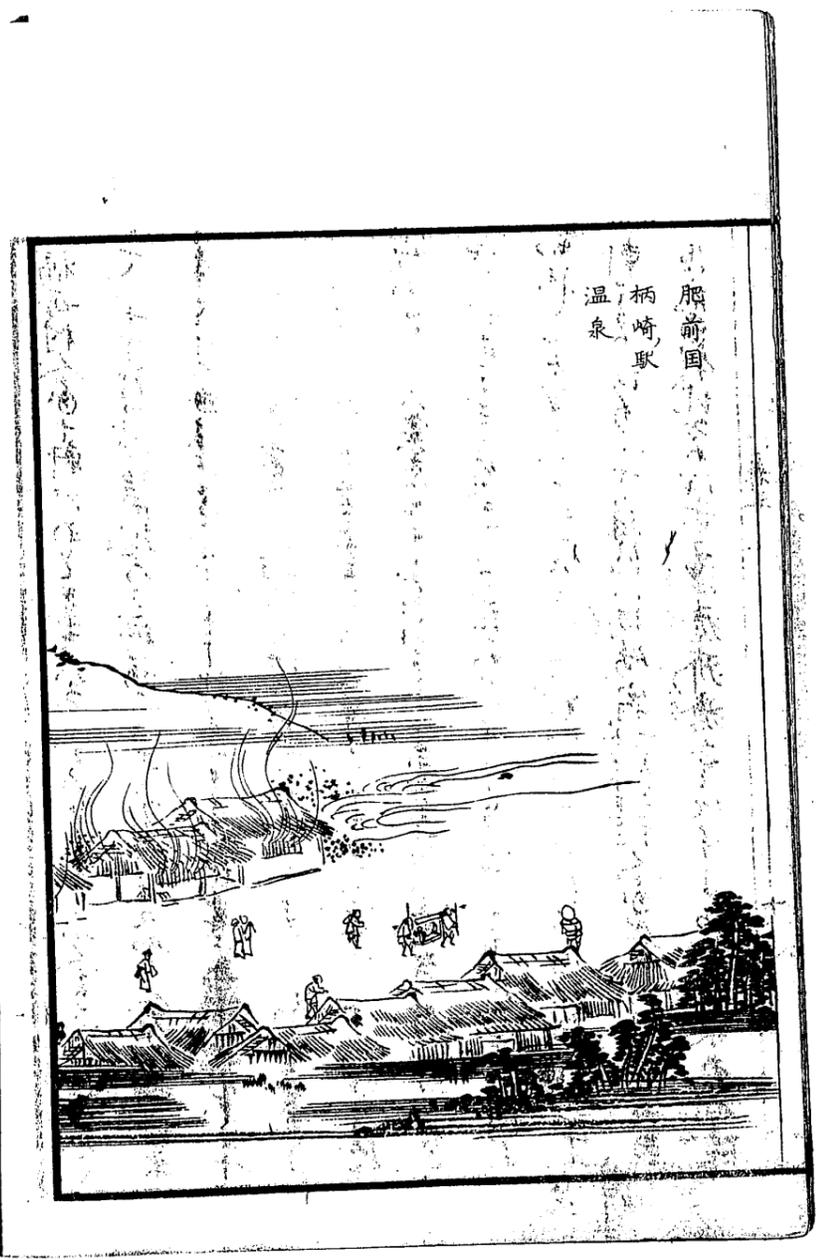
と押たられず、米を舟を渡す又、又、一斗より、米を
り、ど、より、米、丁、り、加、津、町、南、多、く、米、屋、も、あ、り、
つ、ら、り、六、丁、計、り、向、町、人、が、三、軒、計、米、屋、も、あ、り、
流、も、り、關、二、丁、は、あ、り、下、板、橋、り、渡、り、て、と、く、
米、宿、も、あ、り、四、丁、計、

の町あり、米屋あり、十丁條り、保田町、人、が、三、軒、計、あり、米、屋、も、
あり、五、丁、計、り、右、境、の、あり、米、は、佐、賀、郡、あり、小、城、郡、と、た、た、り、又、三、
十、丁、計、り、牛、澤、は、南、米、屋、佐賀より、米二里、こ、小、城、の、邊、の、米、屋、あり、人、が、百、六、十、
軒、計、多、く、八、州、尊、あり、米、屋、宿、あり、宿、屋、三、丁、の、中、は、櫛、ひ、て、米、屋、
宿、も、あ、り、米宿、宿、家、宿、ま、り、客、席、津、津、あり、て、ま、の、り、下、ら、公、
と、て、あ、り、懇、ひ、ら、し、

○廿九日晦、空陸あり、卯、刻、と、ま、り、出、宿、の、出、口、に、古、橋、を、渡、せ、り、川、を、境、
と、し、て、川、を、渡、り、新、町、米、屋、も、米、屋、の、邊、あり、米屋、三、十、丁、計、あり、
米、屋、も、あり、け、出、口、も、又、川、に、古、橋、の、長、さ、十、七、八、回、あり、を、渡、り、て、お、り、
計、り、米、屋、三、十、丁、計、あり、町、と、雜、り、て

五丁計り、新宿村、家三丁計りあり、茶屋あり、又五丁計り、八幡村、
人家百軒計り、茶屋あり、三丁計り、茶屋あり、家三丁計り、商あり、
け入口、郡境の表なり、東、小幡、西、梓、郡とあり、十丁計り、様一宿、
人家百五十軒計り、茶屋あり、次、山、村、佛、小敷、十軒計り、茶屋あり、
二十丁計り、小田の宿あり、牛、津、より、是、依、賀、入、は、鈴、身、人、家、百、軒、計、り、の、
宿、も、宿、茶、屋、あり、村、の、出、口、乃、右、此、乃、親、音、堂、あり、寺、内、小、大、
あり、楠、の本、此、を、お、ま、り、する、其、生、本、の本、幹、の、よ、き、程、あり、茶、を、削、り、て、
親、音、の、像、を、彫、り、付、た、り、は、り、行、基、菩、薩、の、像、を、云、傳、あり、七、八、
丁、り、小、田、村、農、家、三十、軒、計、り、あり、茶、屋、あり、又、六、丁、り、大、町、と、商、
家、送、酒、茶、屋、農、家、百、丁、計、り、あり、立、つ、ま、た、り、町、を、離、れて、十、餘、町、り、

福母村、人家十軒計りあり、茶屋あり、それより、南、へ、八、人、家、三、軒、あり、
て、二十丁計り、小田、越、る、と、柄、崎、と、の、邊、の、河、を、右、に、家、三、軒、計、り、茶、
屋、あり、柄、崎、の、方、向、く、十、丁、計、り、あり、村、農、家、二十、軒、あり、又、十、
丁、計、り、あり、小、田、の、宿、あり、小田より北と、二里十七丁、け、お、端、宿、も、人家七十軒、皆、農、家、小、
て、宿、茶、屋、あり、と、農、家、あり、の、宿、茶、屋、あり、十三丁、り、小、幡、
町、あり、人家、居、も、多、く、商、あり、多、く、茶、屋、あり、れ、と、宿、茶、あり、小、幡、の、北、と、
四、丁、計、り、あり、と、境、前、の、久、松、を、お、ま、り、し、り、け、お、平、ら、と、あり、
か、り、は、是、より、又、お、の、ま、り、初、め、二十丁計り、小、川、原、村、あり、二十、
軒、あり、あり、十、丁、餘、り、柄、崎、宿、あり、小幡より北と、一里十三丁、人家、百、軒、計、り、依、賀、の、東、
は、流、の、砂、地、あり、け、お、濕、瘡、疥、瘡、あり、と、り、温、泉、あり、遠、



辺の人湯治み奉り集まらるにありて有る茶屋も多し。十丁條は、
と西山村の家三戸ありてありて茶屋あり。細川の湯治からが
ありて花石をほらひありあり湯治も山十丁條り登れ。その
作らる。作より二十丁條り下まら河田村を傍ら出ると今家いふ
軒中の中茶屋あり。其は十丁條り小川あり。花石をまら。假橋と
もけり。よりほら。三丁條り。袴袴村を傍ら。今家三軒づ。三丁條り
中茶屋あり。次あり。今家又茶の。二十丁條り。山あり。今家村
にて。今家軒けり。あけ。けり。ろ。焼。こ。陶。器。と。流。石。屋。は。焼
よ。中。の。下。品。あり。即。是。あり。是。より。ひ。ろ。十。丁。條。り。も。茶。屋。あり
今家十軒けり。茶屋もあり。是より山坂を十餘丁まら。三丁條り。今家

二十丁條り。越。は。地。田。越。は。柄。崎。ら。の。道。あり。次。あり。宿。今家三丁條り
あり。つ。きた。る。皆。農。家。ふ。て。茶。屋。を。ま。す。十。丁。條。り。は。袴。袴。村。也。柄。崎。の
三丁條り。佐賀の津領。今家百餘軒宿屋多し。茶屋もあり。申刺は。大田
平七。その。ま。の。ま。て。宿。け。り。下。は。温。泉。あり。町。屋。の。南。ま。の。川。と。川。の
中。より。湯。涌。出。湯。槽。ま。ぐ。七。あり。十。文。湯。二。又。又。湯。三。湯。湯。二
あり。湯。槽。と。ん。湯。口。水。は。左。右。ふ。か。せ。あり。と。浴。する。人。の。好。ま。は。湯。を
加。減。せ。り。或。は。熱。を。好。め。り。湯。は。近。く。居。ぬ。と。好。め。り。は。右。は。湯。を
居。て。浴。する。効。能。ハ。腰。痛。を。愈。す。と。第。一。と。て。ま。か。も。方。づ。み。り
と。あり。又。け。り。此。の。名。産。と。て。煎。茶。の。葉。と。する。家。多。し。と。て。煎。茶。の
枕。入。り。より。農。人。の。用。る。鉄。の。と。函。あり。ま。ま。あり



長一入平井河内平井河内
橋の横断図の如し

相打は打ちさへ暮あより雨ありぬ

五月朔卯刻にふき出雨降りてよび一十計にて斬る坂を一
越さば下不動山村より平道十餘のりふ川あり花を踏て渡る
是より不動山を仰ぎ登れは麓まで青い山多し山の名も
いさなり又十丁程をまれば依坂峠あり七八丁坂を下れば番町あり
人の切身を改む番町を出て農家十軒あり依坂村ありかいて
出るは平道に依坂の接ぎわは依坂村南の大村ありとせり三丁
下りば新橋あり十軒村あり是よりまじり下りて又十丁
とせり橋あり本橋あり大穴のありのりてとせり

数百人を其路にまじりては是より六丁下りては村を四丁軒
あり是より平道中下川を渡りて十丁下りては彼村あり
海の邊ありは平道あり宿屋あり大村のありは依坂
より晴津ありは依坂ありは依坂ありは依坂ありは依坂あり
一とせり川ありは依坂ありは依坂ありは依坂ありは依坂あり
なるとより下りて半里計のりては村ありは連浦あり三丁軒
ありは依坂ありは依坂ありは依坂ありは依坂ありは依坂あり
是のりて村あり三軒ありは依坂ありは依坂ありは依坂あり
は依坂ありは依坂ありは依坂ありは依坂ありは依坂あり



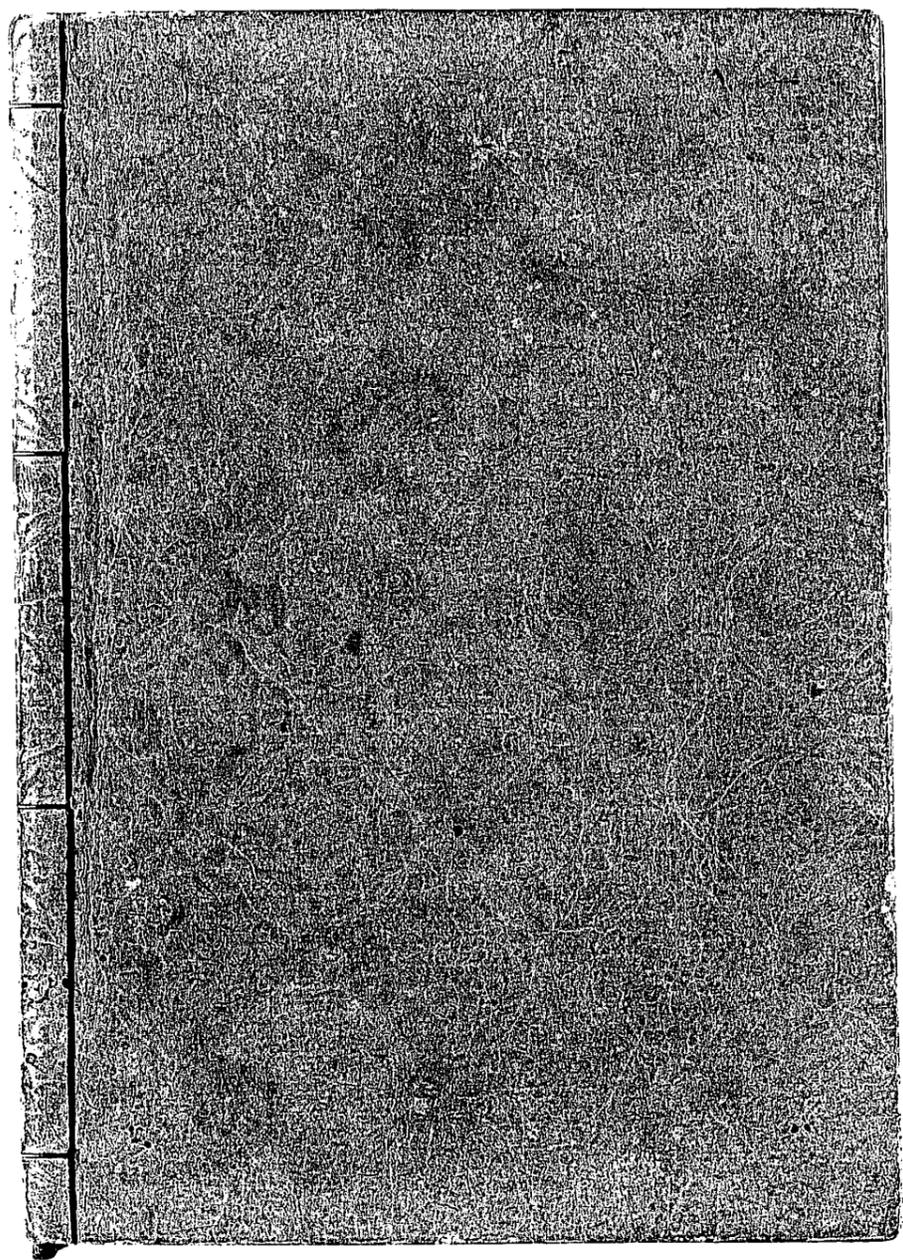
卷五

十四



托古亭
内方桶乃回



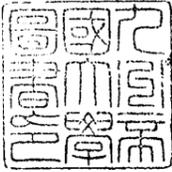


筑紫紀行

680
ツ
12

長崎

680
2
12



筑紫紀行卷六

久松の巻

柳文庫

五月三日空晴りの朝宿屋のきまをれ彼役場奉行那波のり付
 ありくろりと通せぬまをれ百目限の滞留を許さる旅人方乃
 役場より八郎の役の完に於て彼町乙名の中より加役お佐付る
 こと計長西才町の乙名を材木町乙名とあへられを勤むけ月は
 西才町の月番より其乙名は役場より狭刀と這捕縄を設け
 たり下役令い六月の使に寄合町九山町と遊女町二丁を谷せりて七十九丁に教
 一方置軒一町と遊女町二丁を谷せりて七十九丁に教
 西才町の乙名の役料一丁は報費目づの報費三百十圓月仍使に

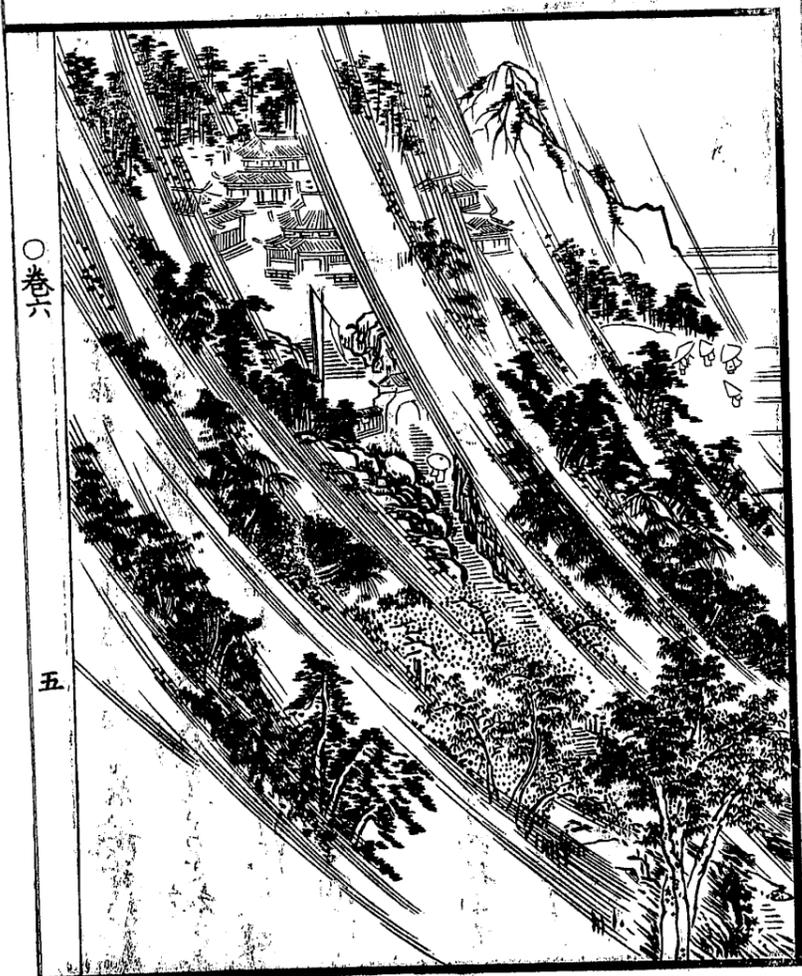
○卷六

野田町^{ノダ}は下^{しも}に接する。名の通り、町人^{まちびと}が商賣する事と許
まはさず、すくけ北の風^{かぜ}は頗る^{すこぶ}に冷^{ひや}なり。旅人^{たびびと}の多くは、
漢^{かん}なるふ。其^{その}屋敷^{やしき}の多くは、人柄^{ひとがら}をよ。下^{しも}に接する。名^な古^{ふる}屋^やのま
人^{ひと}がら、のりなり。一^{ひと}の家^{いえ}居^い、多く瓦葺^{わらびき}。間板^{まいた}屋^やも、
一^{ひと}なるも、何^{なに}の草葺^{くさびき}、は、終^{はつ}て、町^{まち}八^{はち}段^{だん}横^{よこ}より、町^{まち}洞^{どう}廣^{ひろ}く、北^{きた}圓^{まる}
下^{しも}に接する。町^{まち}の井^い通^{とほ}り、洞^{どう}三^{さん}言^{ごん}を、
遊女^{うでよ}町^{まち}見^み、その宿^{しゆく}のま、事^{こと}内^{うち}に、
南^{みなみ}の端^{はた}、寄^よ合^あ町^{まち}丸^{まる}山^{やま}町^{まち}、二^{ふた}筋^{すぢ}あり。店^{てん}附^{つけ}、
内^{うち}に遊^{あそ}女^{よめ}も、
燭^{しやく}臺^{たい}といふも、
集^{あつ}ひ、

すかりつ。我^{われ}と、
の衣裳^{いさう}、紗^さ綾^{あや}縮^{ちぢ}緬^{べん}の類^{るい}、
汲^ひつす。妻^{つま}女^め女^め世^よの、
終^{はつ}つて、
ふく、
顔^{かほ}、
お、
ふ、
妻^{つま}は、
か、

よく集福の屏を構へて、さかたけの峰をみるや、さかたけの
都入海を又下せる風景あり。大青の山を望み、智恵院の
の大寺あり。神傳所。大光寺は、西本願寺の古塔、法堂なるは、
輪番持より、寺自庵の塔より、実寺とて、おぼゆる。産席、内陣、
崇福寺、唐僧即非和の因基なり。唐流のまじり、寺内の額解、
非の筆蹟、大門の先年、燒失、し、たす。山門の唐塔あり、
なるを、彼地より、切廻り、おぼゆる。寺内、小僧、
條あり。唐土、工人の作、さ、此地、和南、持、
佛を、取、非、持、佛、あり、
災難を護らせん、なる、
災難を護らせん、なる、

す、不、
全体の彩色とつらに、一月を、
膏、
口の徑、
施、
過、
大、
大、
又、



○卷六

五



長湯大権も
西中の風景

白く彼海老を助と云ふ物に宿小帰る宿の表板を新表
 こいふ着方の通事其妻をり通折を其の酒と飲居るを去る
 主我と誘ひ行ひぬれ物も人柄よく柔和中に結舞の人あり其の妻
 ちの菜、片形大抵うろく、二條を穿く無と申す、面白く酒出
 て、我々小舟り、漸く宴を罷る。
 ○七日、式程、日降つゝ、是れお淋しく、板を氏種と知り、お持来て
 宿に居るより、お何れのお酒、お中、お別れ、お帰る、おれより
 宿に居るを、お例の煙草を、おり、お寝る、お人、お遊女、お人、お松、お
 飲宴す、献立
 系漢

味劣
 あんか
 飯 盃 双葉 川蓐 川蓐
 うつみや
 多の物

菓子屋 丸形
 同 大いのか漢
 小葉 ちびのてんぐ

同 ちびのてんぐ
 大辨 竹の子 花名 ちび
 大いのか漢
 大いのか漢

遊女一人、田舎の子舞、二十二あり、貞形、本
 抵して、人柄、賤、か、柔、梅、溜、の、昇、入、滴、二、寸、計、長、一、尺、三、寸、あり、又、梅

瑠の簪八九本浪の簪二本、瑠瑠乃様とさうなり、衣服ハ極極乃紋
羅小江戸素極極を所々ハ紅縮緬表の袷帷子とまで、黒とつらめ
帯と前々強いたり、美替ハ花々の紋縮緬ハ極極極の袷帯を、黒天裁
絨ハ緋縮緬表の蒲團を、娘女子ハ緋縮緬表の衣帯と用ひたり、一
川田屋のみと瑠瑠の極極簪と、小浪の簪とさうなり、花々の紋羅
乃極極極つけたる紅縮緬表の袷帷子とまで、黒とつらめ、帯と
強びたり、藝子一人ハ例の國吉岸の袷帯、系紗の古き帯とさうなり、一
人ハ市浜那内徳の大筋あり、小ち、ぬまの袷とまで、黒ハ國吉岸
極極簪二人、甚ハ粗賤、これハ遊女屋より禁制、とまで、藝
子々の衣服の飾り華美を許さるなり、さうなり、暮頃より、

と宴飲してつらめ、客中のおどろ、一宿して、つらめ、ぬまの難田取、
百日は餘り、吐きの心乃やく、淫蕩を好む、い、わ、ね、と、遠境、
奇遇を、い、ま、ま、に、て、寝惚、極、極、唐家の同情の妻、い、ま、極、
を、い、ま、と、ま、ま、に、なるの、
○八日、行、も、晴、や、ぬ、ま、月、あ、ま、は、る、く、く、て、間、半、た、る、極、
許、り、の、筒、を、て、我、と、招、く、い、極、く、て、倒、乃、極、を、極、ひ、く、申、判、
勝、山、町、極、が、あ、ま、赴、く、喜、ま、極、ハ、出、迎、く、さ、ま、多、く、急、う、り、く、延、
て、座、敷、を、通、す、甚、潔、淨、小、ま、つ、ら、ひ、依、り、床、ハ、唐、室、の、法、を、用、ひ、
画、を、富、士、の、横、幅、を、け、て、極、唐、め、き、く、卓、陶、瓦、の、獅子、と、極、り、ま、の、
同、儀、何、の、を、申、す、い、く、人、を、も、招、き、て、相、伴、せ、し、め、て、種、々、極、
七



長崎
柳谷氏
客席の
景



念く唐物種々出で居る松と林と面白き事と云ふなり宴
飲談話小敷列をうけて表列は御宿せり、今敷の歌

唐附 唐菓子 天門冬砂糖漬 各月保唐菓子

盃

長茶 湯老 水芒子 水芒子 水芒子 水芒子

吸物 細ひれ

四川 送り身 三つりかい

坪 塩鴨 椎茸

小四川 蒸

湯田陶器様

吸物

あんまよ 奥のすり身 ちりしり 小くはくま

肉 肉 肉

茶漬

四あし漬

焼飯二

唐焼の小さき 茶を茶焼もある

かくのごとく

○九日空ハ晴ぬやあが歌たればまふ茶肉をそく阿蘭陀屋敷
を又ふり出給屋敷をそく江戸町より海中に一丁目計は築出石
橋と通す外門のより厳重なる板をそく寺の志門内小
入りを持出す飯中にて二十回計の積竿のたてる又ゆがる板は雨降
おまは宿まの親類お給町順発とる云ふより唐人及唐弘修理の
の役人お給て材木買込を業するああわがて又け順発も付云
出く唐弘のいふお給橋のいふお給懸きお給道小十とる村と



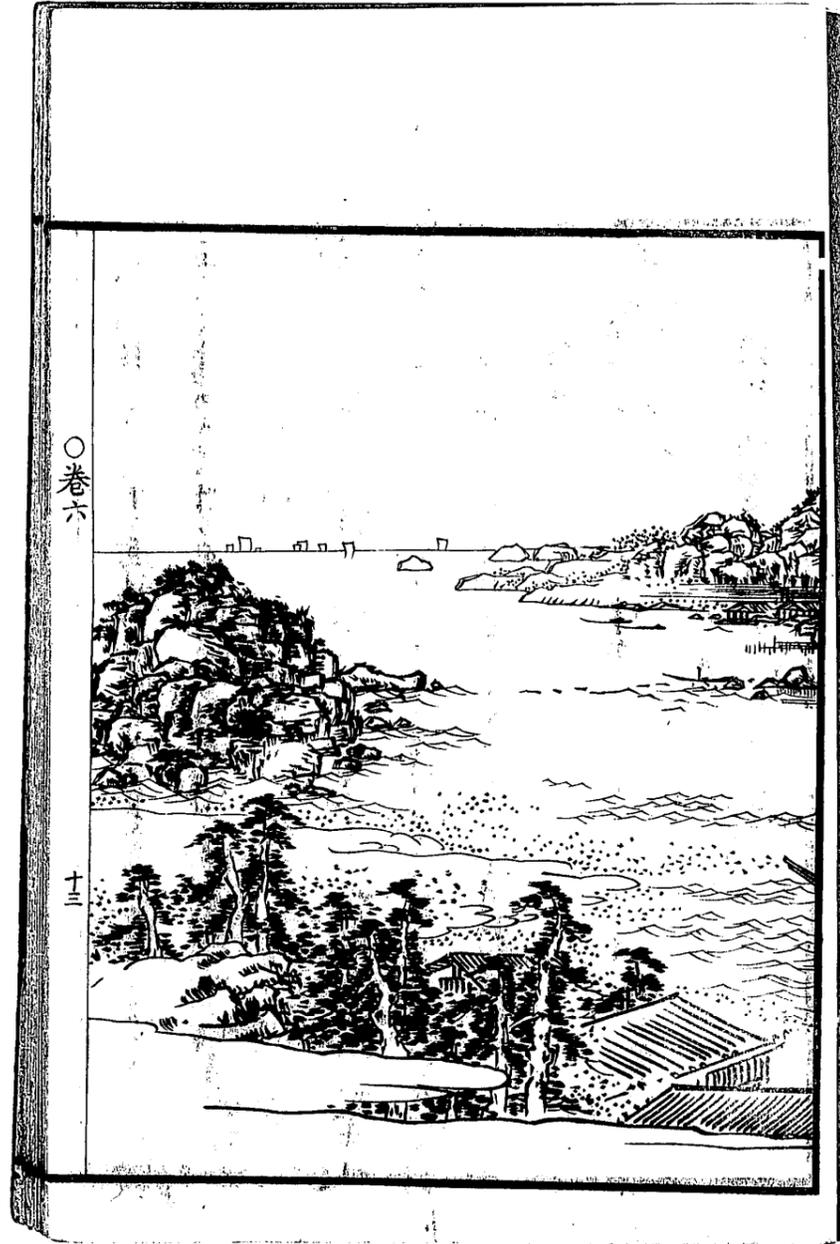
○卷六



長崎
梅ヶ崎の風景
此湊は常小
外圍は数島
軸湊
海中小連舟
其敷を
志氏

いよ唐人の館あり三方空海と稱へ竹垣あり塀ありとて圍ひ表門
二の門と二重に門を立て唐番の役人れを守居り唐人三層門
乃陰に立居りしに順登近づき家内唐番を何事か抱懐きとて
首肯て二の門乃ち入り何事ありとて順登を尋ね後刻多き時を
船中知せせよとれしに船中を表門の番に割れありと海への
一條の中へ傾城のか女を會う事ありあり河蘭陀を名も圓一幸
ありと梅ヶ崎は船中唐番を名に赤塗ありて西儀ふ石火火窓の形
を畫き艦高くして船主の居間あり戸襖板の扱人扱と畫たり
船中板をく法法なり波と波なり船中下は荷扱と様く舟人乃起
けりる舟もりりよふ竈あり又病人を入る舟あり帆柱三本あり帆ハ

篋の葉を敷く船の板は編る竹にてありありとみなる物なり
樓欄繩の徑廻り一尺は守もろろ一丸散の徑もろり帆柱と卷る
繩轆の三回計の丸木と横の液一たり舟の欄六回長二尺間あり細
又まきと皮靴縫なり空船あるなる出崎より番人ありつゝ居て是
をさかの船中へ法板を敷きしは舟より封印をとりけりる舟あり
やとて年の刻に空し時を多しをた時方ありてて是當ありある
○十日空候時すげけけ此の人とみお識あり宴飲談話のありと
霖の降霽もなきと今日日よく船中の遊びをまきんと約
せしものと果すも人あり柳花を名中しは舟中老を名助回中
順登田舎を名まきまき名柳花を名國を名舟中子三料理人あり





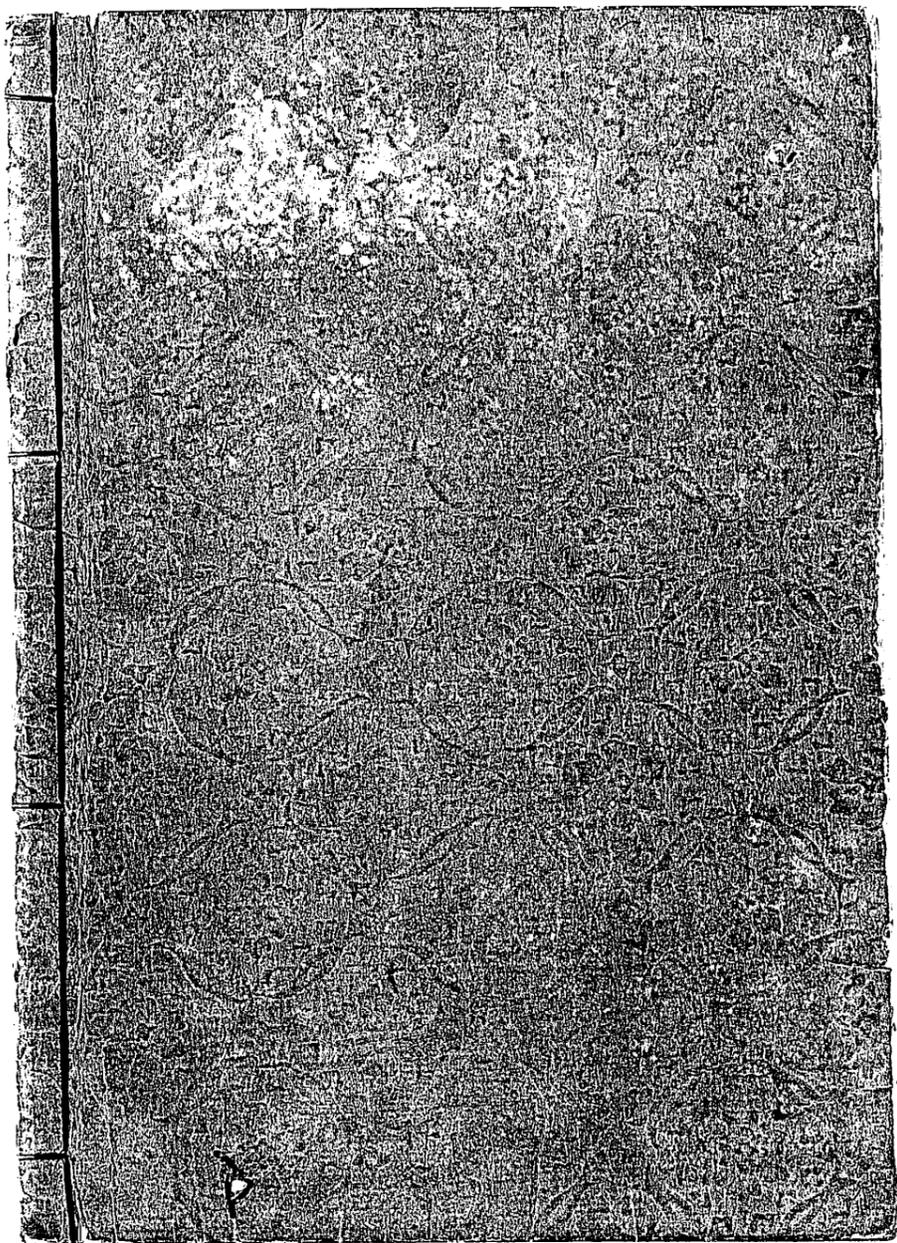
船はなす。

○十八日付地ははきそより十餘日の不晴天、唯二百出てもか、陸
るふの、あま、やけ不彼おふ飲宴お招き、
船にて、せ、ふ、十、百、より、留、踏、の、目、を、か、り、ぬ、る、か、兎、角、は、露、雨、に
ぬ、げ、ら、ま、で、驚、濁、と、て、晴、を、を、福、を、び、ら、ら、り、書、は、か、や、り、く、る、歌、
て、空、を、晴、れ、ら、ん、も、晴、や、ら、ん、日、ま、三、用、意、前、つ、空、を、ま、ま、
臥、ぬ、け、地、の、木、松、同、空、ら、る、あ、さ、り、せ、り、別、は、記、録、し、た、る、物、あ、ま、
ご、ま、多、く、は、淺、く、つ、れ、ま、大、陸、を、い、る、唐、船、入、津、の、湊、は、筑、前、の、管、
津、を、船、州、の、堺、と、あ、り、あ、り、と、い、つ、乃、は、り、り、肥、前、の、平、戸、ふ、船、
つ、り、咬、留、巴、阿、蘭、院、モ、オ、ル、ふ、の、舟、せ、と、平、久、く、平、戸、は、つ、き、

交易一亦多るを、寛永年中、は長崎へ引取をせ給ひ、そより、
津する事なき、是、は、地、盤、留、の、本、由、也、元、來、は、西、深、江、浦、と、い、は、漢、浦、
ふ、く、漁、人、の、住、る、所、の、あ、り、な、か、く、英、國、着、船、の、倭、船、留、の、地、と、あ、り、
つ、り、て、法、國、の、商、人、進、み、寄、り、集、り、て、遂、に、町、屋、と、い、ふ、所、を、
そ、國、邑、の、名、を、つ、け、た、る、多、く、五、島、町、平、戸、大、村、町、島、原、町、江、戸、町、筑、
後、町、等、最、初、は、町、人、の、内、に、船、中、に、船、中、を、ま、の、同、屋、の、り、て、交、易、は、
取、扱、ひ、は、海、と、取、の、と、あ、り、を、公、儀、と、い、ふ、所、を、ま、り、は、中、に、
ま、く、入、海、の、廣、さ、僅、一、里、あ、れ、と、い、深、く、岸、より、一、丁、先、と、阿、蘭、院、
船、を、し、移、る、所、を、阿、蘭、院、船、の、大、き、を、日、本、風、と、い、は、積、ら、ば、大、抵、
積、ら、ば、一、二、里、町、乙、名、を、月、行、使、其、家、定、り、て、相、續、し、て、と、れ、を、

勤心組の町内より入札を以て定む。唐船入津する時、奉納の
より檢使一組通中の中より十人以内舟切を以て改め、唐船積りの
申状を取、踏繪をさせたるを是れ替り、なしく交易するを以て
許さず、切りの渡海交易満ちるべき旨の法許りの書付あり、彼ら
おく是を信牌と稱す、踏繪を以て切りの画像と彫り、けたる船の板を
厚さ一寸許、闊六寸許、長さ一尺許の板を以て、船の四角に貼り、
法人ふこれを踏せ、宗門の改めをする事あり、されば、英國人の中も先
け後とあるべき事あり、唐揚を以て許さるべき事あり、是れ唐揚を
揚せと九角候といふ、はるる唐揚の板を以て、船の板を以て、船の板を
二丁、是れ海の中、築かす、とて、橋を以て、通路す、海の中、築かす、

はあり、水門と稱す、表門一、裏の五間、は二十間計あり、二十間あり、是と
新地を以て、是れ、是れ、是れ、是れ、是れ、是れ、是れ、是れ、是れ、是れ、
個々、是れ、是れ、是れ、是れ、是れ、是れ、是れ、是れ、是れ、是れ、
五、
國へ、是れ、是れ、是れ、是れ、是れ、是れ、是れ、是れ、是れ、是れ、
出張の會あり、是れ、是れ、是れ、是れ、是れ、是れ、是れ、是れ、是れ、是れ、
て、是れ、是れ、是れ、是れ、是れ、是れ、是れ、是れ、是れ、是れ、
ら、是れ、是れ、是れ、是れ、是れ、是れ、是れ、是れ、是れ、是れ、





筑紫紀行



680
7
12

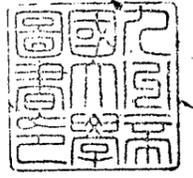
大宰府
官崎

海中通

傳多

福長

680
ツ
12



筑紫紀行卷七

久米の巻

柳文庫

○五月十九日辰晴卯刻頃長寄の宿と立出宿人主判平次
 ぶまこと惜み孫に紋三郎と引連志は清又と寄はらんや
 酒者と携てまきふちついつ既まおまひとて日あつた
 けり事懇到ふやとあつていつあつたるまの事とて
 其外の人奴婢もあつたるまよお終をたつるも絶遠にたれ
 むも甚悲し不慮は涙もたつたを然りばさうさう
 けつ時節もあつたるまよお終は並居る人をも
 ちぶらぬのよひもあつたるまよお終は並居る人をも
 もとれとてさうさう嘆息とてははははしくあつ

○卷七



○卷七

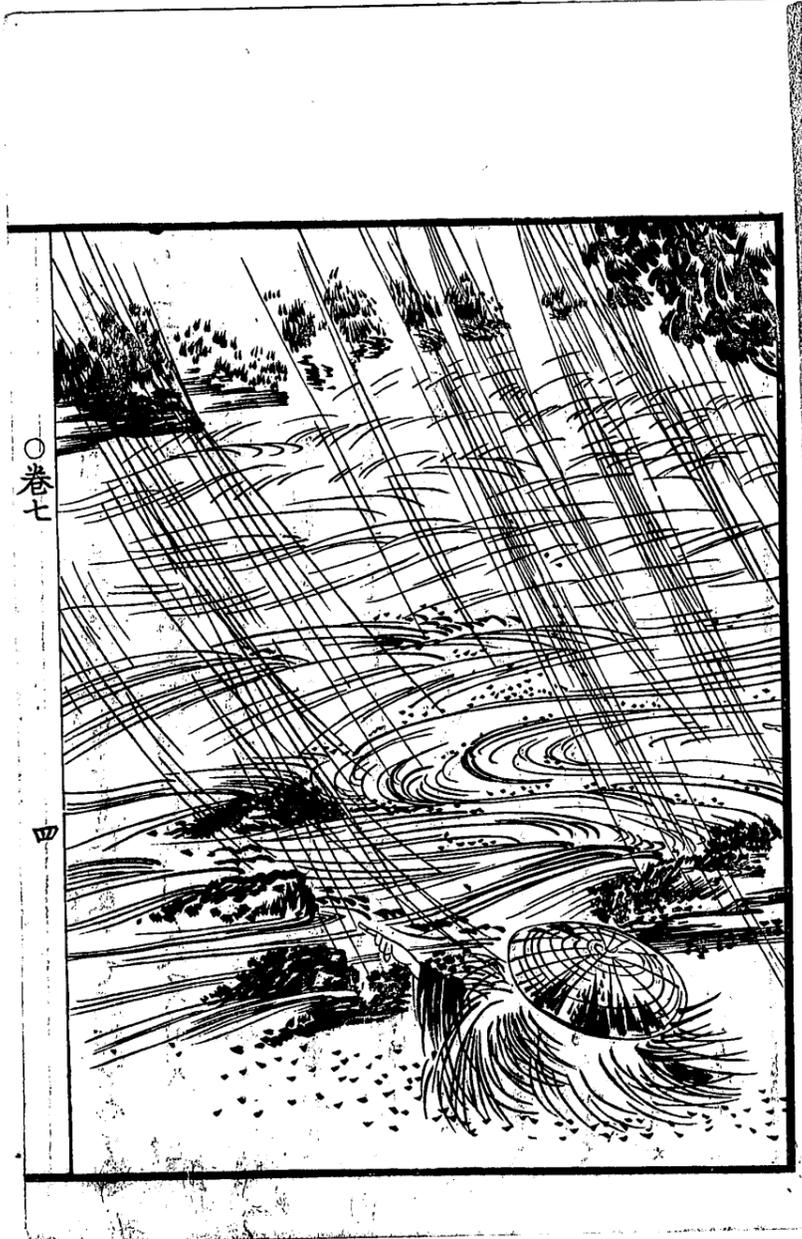


長崎銀座町乃
 宿舎田舎屋敷
 平次の家お侍
 節の旗人如五
 の國

けきどろのこもあつてね、互は浪か、しはく、後て
 宿といつて、本道と併、日見峠、茶屋まで
 入、長崎の宿、携へて酒肴、飲宴、とて、これとの
 國はゆるん、その出立、勇ま、まは、と、此所、
 互は袖と、り、及、入、列、た、お、願、を、
 始、あ、の、お、後、へ、い、お、お、う、う、う、
 おま、ち、お、お、お、お、お、お、お、お、
 日見、長崎、重、矢上、日見、と、
 平松、お、お、此所、お、お、お、お、お、
 栄昌、お、お、お、お、お、
 陸、と、
 ゆ、に、三、里、お、お、お、お、お、
 本、津、の、
 棚、お、お、お、お、お、
 海、上、で、舟、お、お、お、
 大、村、お、お、お、
 本、津、より、大、村、
 三、里、
 一、里、

内海にて浪殊は穏なり、未列頃大村おはきて、長崎屋源五左衛
 門のふ宿。

○廿日空陰、卯刻過、立出、お、お、お、
 官、小、路、村、の、お、お、
 郡、川、へ、潤、と、十、間、計、の、川、の、お、お、
 渡、と、て、又、お、お、
 行、は、
 松、名、大、村、二里、
 是、の、所、を、お、お、
 海、岸、の、お、お、
 雨、篠、と、
 お、お、
 西、風、烈、し、く、浪、と、
 お、お、
 道、へ、深、田、
 お、お、
 是、身、
 今、や、荷、物、も、投、落、し、
 お、お、
 辛、う、
 海、岸、と、
 國、木、の、
 入、
 三、間、の、川、
 甚、危、
 渡、
 殊、
 深、く、
 甚、危、



して渡り得て園木に至る。松林より更なるに安息して酒飯を食す。
の人はとやひさしく又出づ。出口一の瀬川より入る川乃川上
なり。此の川の森雨の水を増すと殊に急流をいれ荷持も恐まて渡る
べきやれ。あまれのうらむ。は川のたより渡りまぬ車めん
やと。浅瀬もあると上へ。見渡せば上のうらに浅瀬や
る。えりりあまき岸より。や。此の呼より渡りまぬと声あら
けて下知となせ。人足よ是非を。あつ。く。来ると。人をも手と
ら。く。荷物。の三四人取。り。て危。し。川。入。我。も。下。立。て
足。を。連。り。流。れ。を。ま。も。む。い。て。あ。ら。歩。め。と。言。と。け。ま。下。知
し。は。が。ら。し。て。渡。り。ま。ぬ。雨。す。こ。い。や。あ。な。ら。ぬ。さ。て

半里計行て山路小から坂と登り。登る時より半里計下ま。平野川
あり。川濶僅小五六間。水甚深。辛。く。て。あ。ら。わ。り。わ。り。
嬉野。園木より。是。は。ま。ま。の。時。雨。止。果。つ。て。あ。ら。出。て。二。里。計。行
ぬ。あ。ら。日。の。暮。ぬ。道。の。甚。め。く。雨。す。こ。い。や。あ。な。ら。ぬ。さ。て
涯。ま。も。も。あ。ら。し。と。あ。ら。の。の。あ。ら。と。あ。ら。と。
して塚寄小着。嬉野より。是。友。繁。伊。兵。衛。の。宿。此。宿。は。温。泉
あり。主と案内して風呂。代。り。往。て。浴。す。湯。屋。の。中。を。四。つ。は。仕。切
て。二。乃。湯。坪。入。る。三。三。留。湯。西。に。侍。湯。と。稱。す。何。れ。も。二。間。四
方。計。を。石。小。て。た。ま。あ。あ。て。湯。坪。あ。ら。温。泉。湯。り。て。い。は。せ。と。
い。く。ま。を。浴。し。ぬ。後。は。あ。ら。の。路。の。辛。苦。を。も。頼。小。忘。り。温。泉。の

功能濕瘡疥瘡脚氣中風等小川

○廿日卯刻過小立出づ道に泥塗水潦田中とゆくは。北方塚

一里十四丁 小田北方より一里と徑て 牛津小田より一里至ふ今日と終日雷

雨烈きうふ是牛津までのもらぬ言語絶す

邊先小通を往し野をまわく空をさかす

他道とゆくはゆいゆいあてはるは道くぬ

佐賀牛津より一里 埴原佐賀より一里半暮つし神崎

塚系より一里半 長寄屋武右衛門といふ宿あり

○廿日夜前も雷雨やまふ今朝ふらふ大雨を流す

かくては行路なるべしあは行先川に数多あれば川の深さの

程もあま待合すき宿ま乃いすまをて己刻頃まを

わゆる追々に下り来ふ行人あり川に左計り深水少くもあ

り聞定めて立出づ一里けりゆいゆい宿宿り入口抗後肥後の方

小ゆる追分ありきき下りし時久留米より此野小出り此宿も

茶屋多し人家三三軒此邊道ゆき十丁けりゆいは目田

原村人家三四十軒農家ありし茶屋あり又三丁けりゆいは

東三根郡西神楽郡との郡境の杭あり五六丁行ハ桐

通村村中小小川のありしをらりわら農家二十軒計茶屋三

軒あり出口も亦歩渡りし小川あり川と終中島村人家十

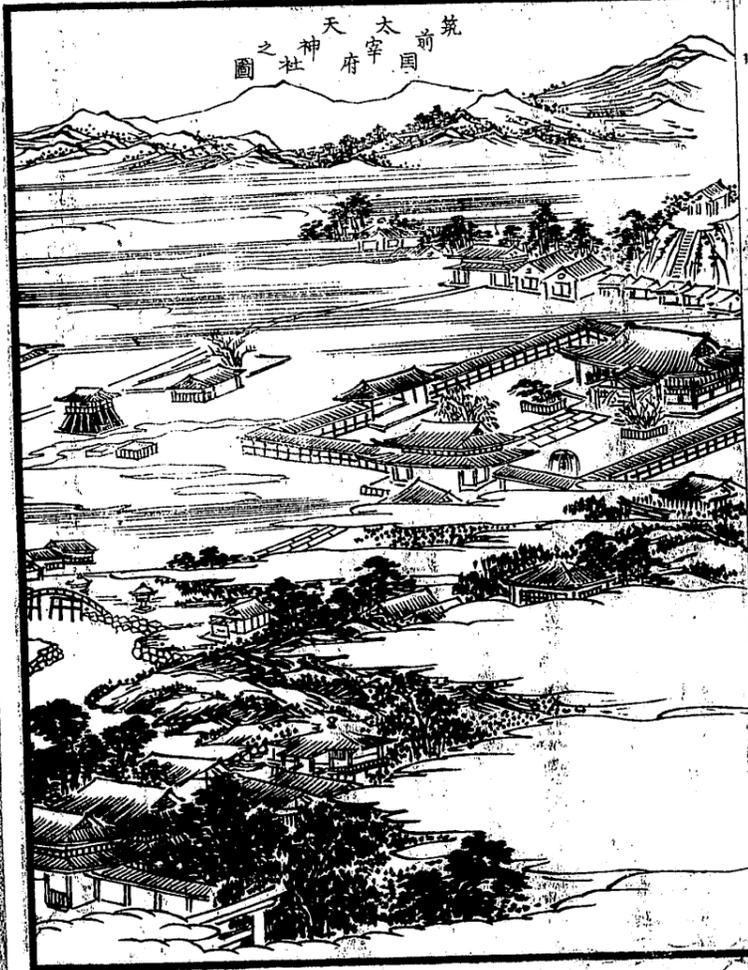
軒あり茶屋あり三丁計ゆき中倉宿神崎より一里人家五六十

軒茶屋あり。宿屋あり。端宿故小まなげりてきたり。出口小
 川あり。ちりちりして小一坂と登りて四五丁行。東養父郡西三根
 郡との境のきりあり。此あり小松原中ノ山道なり。二丁計行ハ
 飛越ふ。川のあり。此あり砂地ゆく道ゆきあり。十四五町行ハ
 小川のあり。ちりちりして小一坂と登りて四五丁行。東養父郡西三根
 茶屋酒屋あり。十三町め。安ろ村人家十軒。げり茶屋多し。
 村とくまに。瀧四五間計。川あり。ちりちりわら。半里餘ゆけ。瀧
 三四間計の川あり。是ちりちり渡き。驛宿小い。中宿より二丁
 人家百四十軒計。宿屋茶屋多し。宿に。おきやま。女とて。賤妓
 と蓄置たり。宿とくま。小鍋島侯よりけり。ちりちり。番所あり。往

東の人乃切手とあり。其下小川のあり。ちりちり渡ふ。水甚深
 し。三丁計ゆけ。瓜生野村。村とくま。五丁計立續き。ちりちり。人家
 の数。驛より多し。商家酒屋あり。茶屋あり。十四五丁ゆき。ちり
 ちり。おきやま。村家三四軒あり。二丁行。追はぎて。小川二つあり。ちり
 ちり。半丁ゆけ。ちりちり。飛越ふ。川のあり。三丁計ゆき。ちり
 田代驛。東宿より。長。對馬の殿。御領知なり。人家五百軒計。町
 五丁計。茶屋。宿屋多し。驛の出口左の。小彦山。山
 ゆく道。れ追はぎ。ちりちり。平。餘行。赤坂村。農家二十軒計あり。茶屋
 あり。小一坂と下。小川あり。ちりちり。四五丁行。今町村。
 農家。四十軒あり。東の方より。入。茶屋。三軒あり。出口小川



筑前太宰府天神之圖



ふ。菅公母小あつ〜時
わらうたぬ〜をわきねぬものあつ〜たれにぬれぬはてしてせと
と御し〜し。世歌のあつふよりてあつ〜。橋の木はゆゑもふと坊舎
あつ〜あつ〜は〜ら〜や〜ゆ〜まで。右乃方小逢深川あり。此川は花園
山よとして。傳衣塔の傍ふなれぬ。此川なり。後撰集。藤原
真忠
けり〜。此おあまひるめ川とらひ水や五ま〜むいよむ。む時めく
又堀川百首小隆源
人ふ〜ゆ〜ありとほあつ〜くふあ〜知〜め川〜も〜さ〜ら〜ら〜し
とあるはは〜め川のまわん。此川の中小古墳あり。此菅公都小を

〜ませし時。汗ら〜ら〜めけひひい。女の菅公此所小下〜ま〜ひ〜けら。
内証と慕ひて下〜し。覺〜ひ〜後〜を〜し〜ふ〜い〜く〜悲〜し〜と〜あ〜の〜川〜小
あつ〜と〜身〜す〜ら〜り〜し〜と〜其〜所〜小〜墳〜と〜築〜て〜碑〜と〜建〜し〜と〜云〜傳〜ふ〜ら〜ら〜と。
今も猶其墳碑あり。太良左近社。傳衣塔。渡唐天神。花園
な〜あり。此花園は自然の山れ中も蘆の花壇あり。種〜ら〜花木と
植並ふれ。四季折々の花咲ゆ。壯觀の地なり。とある。とて池あり。と
池乃中島小弁才天堂あり。池の中。白蓮杜若。あま〜生〜り。三月乃
末は〜より四月は〜より。とある。杜若の花盛ゆく水底に小紫物
〜ふりあ〜ひ。六月乃末は〜より七月乃初〜とある。白蓮乃花
咲〜ら〜え。池を雪を埋むる。ゆゑ〜ゆゑ〜とある。とある。とある。とある。

御本社乃前小まかりて頻首再拜して後仰ぎりて神くもせ
いりりく立せり廣き九間奥行七間あり檜皮葺宮内の柱
小金と装ふ外面かき赤く塗る抑此御社何まの御代か
建らして其始の詳くは然まこと此宰府乃里人延喜五年八
月十九日安行僧都勅と蒙り御社の造営と始め同十八年よてみ
改め造事度く同十九年藤原仲平勅と蒙り紫宸殿と
此宰府小下し御社と建り其後延長元年本官小復り天満
大自在天神と稱し奉ふり本官の事日本紀畧不延長元年四
月廿甲子詔故從二位大宰權帥菅原朝臣贈本官右大臣とあり又同
紀小正曆四年五月廿壬午贈故右大臣正二位菅原朝臣左大臣正一位同

年閏十月廿甲辰重贈故正一位左大臣菅原朝臣太政大臣
あまの御社と建らして里人の傳へるに
然るは源平兵亂のあり兵火の爲に度々炎上り衰廢小及
び依天正のあり小早川隆景と云り人此筑前の國主たりし
社の境内東西五十三間南北七十間あり御社と長九間横七
間南面は造営せし其後黒田長政侯此國の君と成り
て中門廻廊と造営し其外諸堂未社の絶りと絶廢
りて後神領と寄附し社僧祠堂と厚くし
しりて古に復りて得たりとて御社の傍
小 飛梅あり廻り玉垣あり甚嚴重なり其の梅と飛梅

和泉殿是菅公六世孫定義公を祀ふところ。寶満宮。
高良大明神。宰相殿此殿菅公四世孫輔正公を祀ふところ。
理趣院本尊十一面觀音と安置す。新羅大明神。荒入堂。
安養院本尊阿弥陀如来と安置す。貴布根大明神。若
宮社。山王權現社。御霊大明神。人磨大明神。藤大夫
社。此社藤原廣嗣を祀ふところ。掛田大明神。西法華堂。
此堂小大威徳明王と安置す。脇立小普賢菩薩。文珠菩薩を
安置す。東法華堂。思沙白天と安置す。此堂内多々時の太鼓
とあり。天神宮。法性坊。是菅公の御師友を祀しと
あり。玉尊。尼尊。柳尊。此三尊菅公の御子なり。公達を

祀ふところ。楓宮。是菅公乃北の方と祀ふところ。北の方。由良
公。京の吉祥院乃邊り住まいしふりて。吉祥姫とせしむる。
又花園大明神と申す。此の北の方の五葉を祀りしむる。福部大明神。
是菅公の御親族。田口達音と祀ふを。此田口氏ハ文章生也。
公の御師範ありしところ。老松大明神。是菅原の是善
公の御弟。島田忠臣と祀ふ。即菅公の御伯父君なりといふ。
大講堂。薬師如来と安置す。此薬師佛ハいふ。安樂寺の本尊
なりといふ。又毎年正月七日の夜。饗替追儼祭等も此所にて
行ふなり。此御社の境内と安樂寺といふ。天原山廟院
といふ。廟院といふ。菅公を此所小美と奉りしむるなり。

かくて年中の祭事とも聞まはらう。次小記と。日別神食。是は
正月元日より備せむ。先大なる神器。米一斗。飯と高く盛種
種の供物。神酒なほ。備せむ。奉。十五膳。三十六器。神厨。是
是と調へ。烏帽子。白張者。下官。乃。役夫。是と。今小記と。毎朝急ふ。月次連歌。毎月
廿四日。社司。哥の會。所。小集會。と。鶯替。正月七日。乃。夜間
の刻。頃より。参詣。乃。老若。集。來。て。木。あ。て。作。まる。鶯。と。鳥
鳥の形。と。調。相互。小袖。小隠。鶯。か。ん。と。旬。と。双方。より。り
替。追。難。是。も。正月。七日。夜。あ。く。鶯。替。終。つ。て
後。小。薬。師。堂。あ。く。行。る。先。人。を。搦。鬼。面。と。被。り。め。松。畑。あ。て

是と。と。堂の外。と。引。ま。り。杖。打。き。鬼。捕。へ。か。り。く。旬。と。事
事。毎。年。絶。不。じ。り。八。觀。世。音。寺。安。樂。寺。武。藏。寺。此。三。箇。寺。あ。て
行。な。り。と。三。寺。小。絶。て。な。り。と。内。宴。是。は。正月。廿
別。當。以下。悉。く。集。り。詩。歌。管。絃。の。會。あり。と。春。祭。二。月
廿。四。日。な。り。あ。の。日。御。忌。日。な。り。と。御。葬。送。の。遺。式。小。て。年。中。の
大。祭。な。り。と。抑。め。祭。の。始。り。と。大。宰。帥。を。り。る。人。司。と
ま。り。と。御。代。お。う。菅。氏。勅。と。蒙。り。と。神。社。の。別。當。と。祭
祭。禮。と。勤。め。ら。れ。し。り。と。代。と。急。ふ。と。曲。水。宴。三。月。三。日。な。り。式。は。正。月。の。内。宴。小。同。じ。
幸。祭。四。月。廿。日。夜。入。り。御。食。と。奉。り。と。後。夏。冬。の。衣。と

治るる也。此祭十月ふと一度御のふと令。七夕皇月
七日別當以下皆哥會所集歌を詠て獻ふらるべし
六年小四度の宴行の中頃兵亂いけ
る。今此哥の會の殘り。秋祭八月廿三日より
廿五日まであり。此祭は堀川院の御宇。康和三年。中納言
房卿太宰都督なり時夢想の事あり。始て秋祭を行はる。
其作法は廿三日の暁天神輿と榎寺の御旅所幸し。既
小神體と宮内より出し奉る。神輿と宮司滋院にて
補佐つ神輿移奉らんとす。内外の燈火と消して越
殿樂と奏す樂畢了後又燈と點し神輿を渡す奉る

かり。神燈凡五十神輿の前後と照す。又人三人衣冠し馬り
乗て先駟も童子二人烏帽子素袍と着し木を作る
駒の頭と持れ馬も乗て先駟又童子二人烏帽子素
袍と着し神の枝と持唱道とる。先とお次小御首と
持て神先立神奏八駕輿丁十二人はり。左右小ハ
炬臺と照し。持る者四人各神輿の上
小さびびて傘持る者御輿の御後はり。樂
人等音樂と奏し。次小神馬三匹と率次小五別當三綱等
供奉す。各馬上をり。外の社人多く扈後し奉らる。
遠近の人多く來て神輿後官司三人先達て榎寺小

行居て神輿と迎へ奉りて御旅所へ移し奉らる。また還
裏へ當日未刻小榎寺といひ奉りてと後より浮殿より休め
奉らる。て戌刻小至りて本宮へ還奉らる。當時又燈と
消て音楽と奏す。樂畢て後五別當三綱幣とてす。る。は
わつてのち竹の舞あり。是はひの田樂の餘風あり。ん
今世の猿樂のさる。似たり。凡て此みづの儀式他の祭礼より
異なりて甚静小嚴重なり。て。殘菊の宴。是は内宴曲水
同し。り。と。今絶てたり。と。て。て。社家僧坊の事ども。城
向へ座主と稱する。大鳥居延壽王院とて。僧正位めて。今住
り。高辻大納言殿の弟君あり。まひなり。又小鳥居

御供屋。執行坊。浦之坊を。あり。此家。八十五代後堀川院
の御時。管公九世の孫善昇と云。人詔と蒙り。此宰府より
下りて社職と勤め。後小名を信貞と改められ。其嫡子と信
昇と。是より家別して。今小至りて社務職と稱す。其中
小も此大鳥居。ひ。り。別當留守職とて。代々相續ま
今も其巨擘なり。又満威院檢校坊。勾當坊。管公より。従
て此野ふ。り。公薨逝の後。髻と。きりて。香花急ら。勤行
まめ。や。たり。し。味酒安行の後裔なり。此一院二坊と官司
職と。神前の宿直も。上旬。檢校坊。中旬。満威院。下旬。と
勾當坊。は。り。る。ひ。り。小。も。ま。で。昼夜片時

息ふもあつた。又上座坊。安秀院。寺主坊。いふより是を
三綱えいこうといふも。華け臺坊。六度寺。常修坊。安祥寺。石
築坊。明星坊。寂門坊。真寂坊。十境坊。此二寺六坊。昔
原山はらやまに無量寺といひ。靈れい場ありし。小菅公葬祭の時。彼無
量寺の法師ほふしも其事こと小あづり。ゆゑ無量寺廢絶はいぜつの
後。彼法師ほふしも此安樂寺あんらくじ小屬せりやくし。天満官てんまんくわんの社僧しゃそうとなり。今是と衆徒しゆとといふも。又連歌屋れんかゑ。迎壽院むいじゆゐん。
光明寺くわうみやうじ。本願寺ほんげんじ。又小野伊豫おのゐよ。小野加賀おのかが。小野但馬おのたにま。
此三家このさんかの小野氏おののぢと文人ぶんじんといふ。此外このほかの末すえに社人僧徒しゃにんそうと三十餘家そごじゆか名
綿わたとて相續あひつぎ絶たふす。とて神領かみりやうハ一千石

公みまより筑後國下妻郡水田村みづのたむらに寄附よせつけし。多おほく
二千石。此筑前國の殿とのより寄附よせつけ又二百五十石。筑後國久
留米侯くろめがうより寄附よせつけし。五十石。同國柳川侯やなぎがわがうより寄附
なり。此神領かみりやうハ大鳥居おほとりゐといふ。司務別當しむくべつたうなり。是と兼帶けんたい支配しはいせり。酒飯しゆはんとて。己刺おのころや過あやふところ立出たてだ。五丁ごていむらゆけ。觀世音寺くわんぜいおんじなり。清水山しみずやま普
門院ふもんゐんと号なづふ寺てらの傍かたはらなり。田のの中なか。小清水おのしみずとて。出でる所ところあり。故
小清水おのしみずの号なづあり。此寺このてらハ齊明天皇せいめいてんわうの御みま為ため。天智天
皇てんぢてんわうの御時みまとき。小建おのたけとて。本尊ほんそん如意輪觀世音にぎよりんくわんぜいおん。座像ざざうなり。此外このほか。本寺ほんてらに佛ほとけあり。其その六むハ天武天皇てんむてんわうハ

御願もあり。持統天皇の御願もあり。又大宰大貳經忠の寄附
せしむるものあり。又後小松院の寄附しむるものあり。唐鏡あり
又いと大きき圓鏡もあり。此外古く傳來の寶物件器あり。と
散失して、今は残りすべくあり。り。と。さて額小野道風の
筆跡あり。と。此寺は、一寺領もいと多く、境内も廣くして、
僧坊八十通ありしと。傳教弘法の二大師も、此寺に任ひしや
なり。寺乃後小山の上、山社あり。天正五年大閤秀吉公
薩摩より歸り、時、此小山に假殿を建てたり。り。と。又
此觀世音寺村の西、端小學業院蹟あり。其、天平勝寶
六年、吉備公太宰大貳、り。時、始て建ちたり。と。也。と。

夫より西南、小太宰府舊蹟都府樓址なり。と。太宰府の
蹟ハ、菘山とらふ所、今も猶大きき礎多く残り。と。都
府樓址ハ、かの菘山の北、乃方なき、びて東西十四間、南北六間、
是も猶大なる礎あり。礎の上、柱のありし跡、いづも丸くして
高く、丸の径二尺一寸あり。又樓の古瓦、今も田島中、小あり。
あまじと、皆粉砕して、全ハ絶てたり。と。さて太宰府ハ、續
日本紀ハ、天平十五年十二月、始置筑紫鎮西府とあり。都府樓ハ、
日本紀ハ、天智天皇六年十二月乙丑、送大山下境部連石積等、筑紫
都督府とあり。彼御代の頃、やんてをまひらん。又此邊の田島
八字と、内裏跡、紫宸殿なり。り。と。其、安徳天皇にけり。

此所小鳳駕と云ふゆひ小なりとの名なりと云ふ又此所より東南
の方小湯町と云ふ所ありて其所小びり齊明天皇上座郡朝倉の河
宮小止と云ひ一時御湯治の爲小行幸ありし所なりと云傳へく
今も温泉ありて遠近より来て浴する人数多ありとの事と云
其所小萬葉集小帥大伴卿宿次田温泉聞鶴喧作歌
ゆの糸小鳴あゝる小家とく妹よとふまをときとらひあく
とある次田の温泉小ありと云ふ事湯の事と云ひ今湯町也
と云ふ事と云ふ事あるに似たり又木の丸殿の跡も此近きありに
ありとの事新古今集小

とある木の丸殿のあとありと云ふ又西南乃方一里と云ふ事と云ふ天
拜山と云ふ此山小平地小ありと云ふ事と云ふ延喜二年菅
公此山の石上小登りて罪をまきと云ふ事と云ふ天小訴へる事ありし小
なりて後小其石と天拜石と云ふ事と云ふ石の上小宮と建く天満宮と崇
め奉りてと云ふ事と云ふ八月廿五日なりと云ふ事又此所より東南より
ありて寶満山と云ふ事と云ふ高さ大山あり一名三笠山と云ふ事此山乃
林麓小大伴宗麟と云ひ人の城跡もありと云ふ事又此所より東北
太宰府の御社より北の方小石踏川ありと云ふ事名寄小為頼
と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
とある石踏川と云ふ事今も宇美山より太宰府への道と云ふ事と云ふ事

ながり小川なりと云ふ。又太宰府の西北小川ありといへり。
今名はれぬといふとき流きありと云ふ。藤原純友公（かみかき）は叛
き四國より太宰府へ逃来（かき）より小野好古朝臣勅（つひく）と蒙りて追
きし時檜垣の姫（ひま）が家ありしつらりと尋ねられしと云ふ。此
所ありと云ふ。又太宰府乃町の北高橋口と云ふ所小石橋の（か）
よりありと云ふ。思川（し）なるより此おもひ川（か）に達漆川（は）石踏川
白川の三の流きと落合と云ふ。後撰集は伊勢
がおもひ川（か）と云ふ。なるより乃めこのことと云ふ。おもひてきえぬ
とあり。思川（し）と云ふ。なるより代々の撰集はあまのこゝろと云ふ。ついで十
二三丁ゆげ左の方小國分寺村のゆ寺を廢衰して今ハハ

小き寺と云ふ。なるよりいふことと云ふ。大きくし時の講堂大堂（か）などの
跡とて大なる礎（い）は猶存せりといへり。國分寺の廢れし事ハ
諸國とも皆同ト云ふ。中ふも廢絶して跡なきと云ふ。國ともあり。
延喜式ハ筑前國國分寺領三萬二百九十三束とあり。又一町
ふよりゆげ。関屋村（か）なる。人家道傍（か）小寺あり。出てよりなる。今ハハ
八軒なり。此茶屋なり。此所ハ肥前肥後薩摩其外の國々
より京江戸へ通ふ官道（か）なれば。往來の人ればきと東海道と
同ト云ふ。又天満宮八百五十年の神祭乃時近國往來乃
里數と記して建つらと云ふ。碑あり。○小倉（三）里。○日田（十二）里
○久留米（七）里。○長崎（四十）里。○柳川（十三）里。○島原（四十二）里

筑前
関原村
茶店
乃
風象

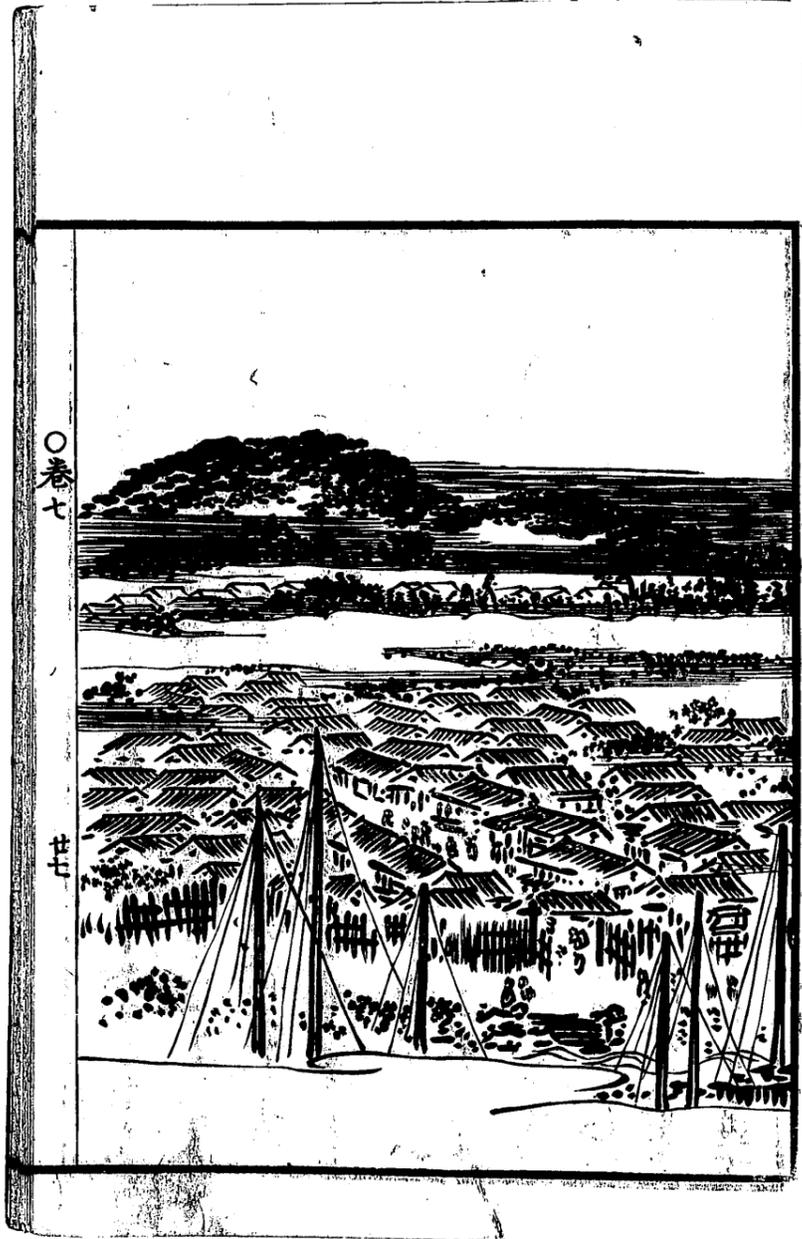
○卷七

二十三



東北の方小御笠の村を楠三株共の所あり。いづれ神功皇后羽白熊
就鳥と討まんとして宇流の宮より松の峽の宮へ移りて入御道あり。
御笠飄風の為吹くはひいふの杜乃木末かやうにして。りて。
里人御笠の杜といひはくはくあり。五六十の村あり。麥野村人家
十軒あり。茶屋あり。びあをりをまねる。系より。平原なる小杉系
あり。二十丁計ゆけが板附村の枝村を人家三四軒あり。五十丁あり
ゆけが板附村の本郷なり。人家三十三軒あり。此村の出口小板附川
あり。川濶二十間むらりぬ。長さ一枚の板をいづつと續て一筋小
うけとていづら。渡ふといふ危し。渡りしるまは茶屋あり。十五六丁
ゆけがりの森村なり。人家五六軒茶屋二軒あり。十丁餘りゆけが

かえ村人家四五軒あり。いづれ茶店なり。道の傍小松林あり。其所
小玉社とあり。是は比叡山の山王と勧請せり。ふらりて村名をかえ
村といふ。此村乃傍と流る川といえり。十三丁行ハ
濶二十間むらり乃川あり。濶三尺むらりの板橋とて。此川と板附
川の下流なり。いづれ大道より二十丁あり。隔りて堅粕村と
あり。せう菅公太宰府におわむに記あり。此あり。ふらりて
いづれまき村民といふ。奉りて。明朝短冊とて。まきうは
替。まきうはとのまきうは。ゆらりて。里人といふ。短冊を記して。かむと
おて。まきうは。小安武何。まきうは。著。まきうは。かむと。かむと。
乃年月を記す。其子孫の代ふらり。宅地小社と建。歌替



○卷七

廿七

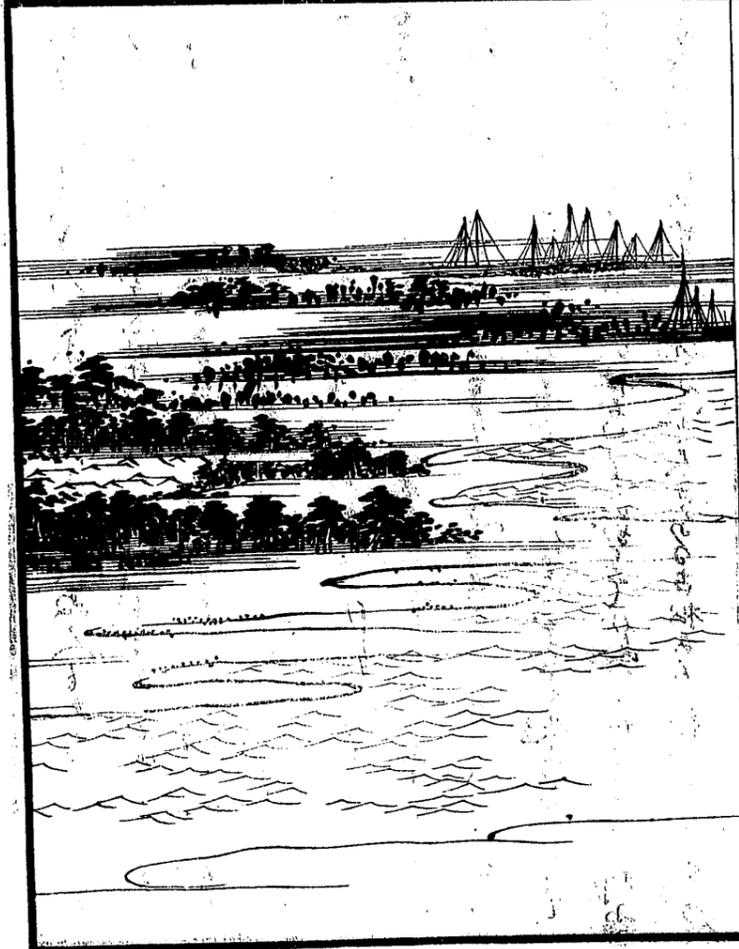


筑前国
博多郷

筑前国
那珂郡
菅寄神
杜之風
景

○卷七

三十一



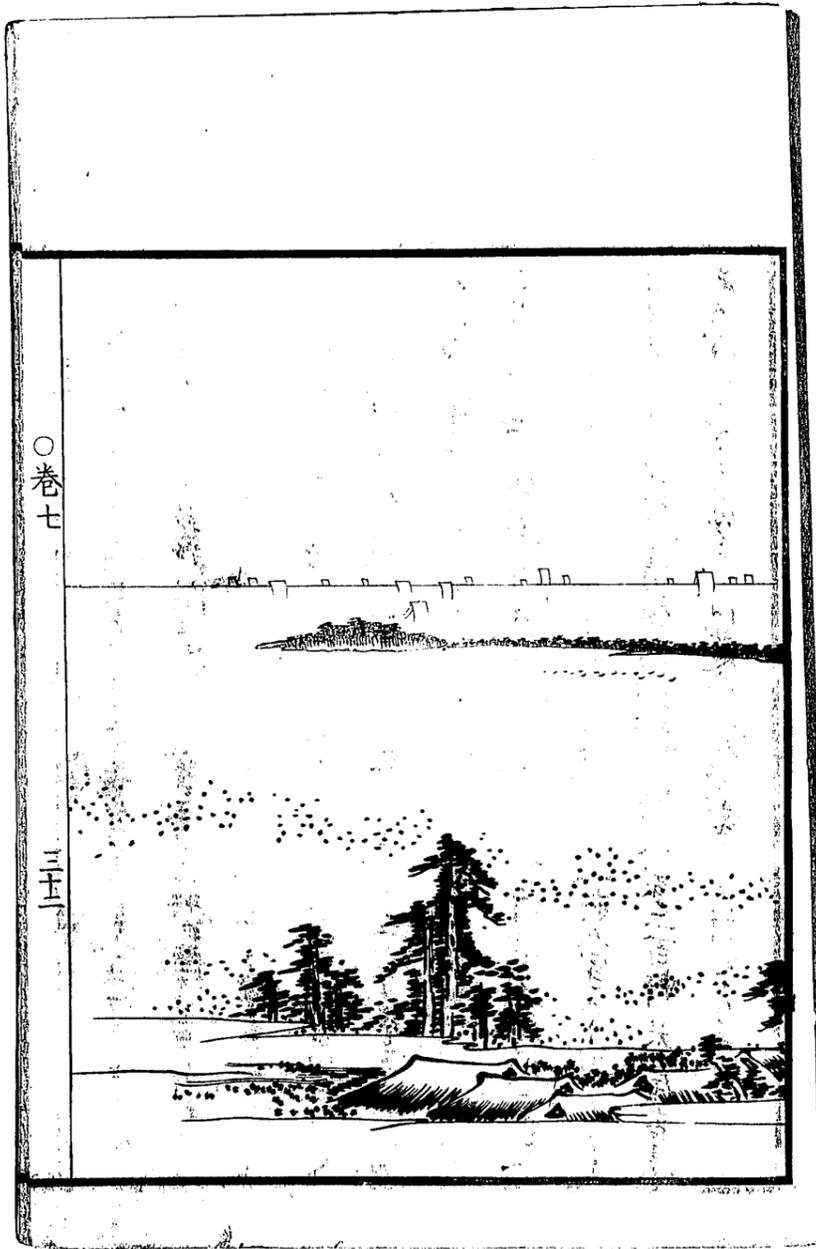
玉垣と廻らせり。又樓門小敵國降伏ある額あり。門小入ま六
拜殿あり。是ハ東屋造なり。瓦葺なり。本社を丹
塗り。西方ハ迴廊なり。中ハ階上ハ唐金乃豹犬を置
く。左右乃柱ハと聯なり。

右 雖食鐵丸不受心穢人之物

左 雖坐銅焰不到心濁人之所

さて御前小稽首て拜し奉ふ。何れく神くて敬ん心を
生ず。社乃さなる折し雨降出。隘谷ハ迴廊小立入
る。我幾度も拜し。雨をいひます。
つぐなをる。つぐなをる。つぐなをる。

ふあぬも何ういやせん。松ころもけま子乃ととを
神小のまえとつつとも小迴廊小入く。立ます。立ます。立ます。
雨やぬ。雨やぬ。雨やぬ。樓門とつ。此御門の正面ハ濱邊迄
いと潔きなる。廣き道あり。道乃右左ハ松林なり。松林ハ猶清潔なり。とつ。濱邊小つ。大きなる。右乃鳥居
をとり。又此濱小じり。神功皇后三韓と討つ人とつ。津船と
出し。時此濱小捨おす。帆柱の石なり。石あり。實實
も柱乃形して鐵の輪と入り。往古此邊ハ唐船渡海の
津乃彼謠曲ハ。唐船の素慶官人も。此津小者船より
し。趣なり。此所より海乃中道とり。或人



○卷七

三十一



筑前國
海の中
冬

浪あつた汐干ろ松のまうらうあつたはまうけん中ちち
とよまれしより名附たりとて又皆崎青柳の間乃廣瀬とて
所より十丁むらりも海中小さし出る岬あり松むらりまな
おひまげりも海と小浮とるやうなるもまなまなりりしがて
十丁計行ハ原村人家三十軒計茶屋あり十五六丁ゆも大橋
村人家三十軒計茶屋なり半里むらりゆけ蒲生村片側町
あり人家四十軒むらり茶屋なり半里計行ハ下石村人家三
十軒むらり茶屋あり半里計ゆもむらり又村人家三十軒むらり
茶屋なり一里行ハ青柳宿^{管崎より是}人家二百軒茶屋宿屋
あり廿丁むらりゆもは延内上村人家二十軒むらり茶屋なり

村乃出口小川のありを歩り渡ふ今日已刺頃より大雨ゆも
風烈し^{なほ}河路甚艱難なる小川をまらるる甚らうりかて
半里計行ハ段の原村人家二十軒むらり茶屋なり村中小郡境の
あり西ハ柏屋郡東ハ宗像郡とあり此邊より玄海灘^{鹿の}
島ありの島なりゆもそく小坂を登りりして三十丁計行ハ
畦町宿^{青柳より}人家六七十軒茶屋あり宿を離れて少し
坂を上りて十丁むらりゆも山乃口村人家十軒計茶屋あり
是より山乃間とゆもちをれと道ありゆもかて十丁
けりゆもはむらり村人家三十軒計茶屋あり五六丁ゆも
原町人家四十軒むらり満家打雜^{なり}然しと茶屋なり

七八丁ゆり小川あり。玉橋より渡りて二丁行ハ官田村。今家十軒計。商家あり。茶屋あり。サレ坂とよんで三丁計ゆり。ゆり小川のあると土橋より渡りて二丁計ゆり。赤間乃驛。驛町宿より町家二百軒あり。茶屋宿屋あり。多し。武右衛門とよみ宿ふ。

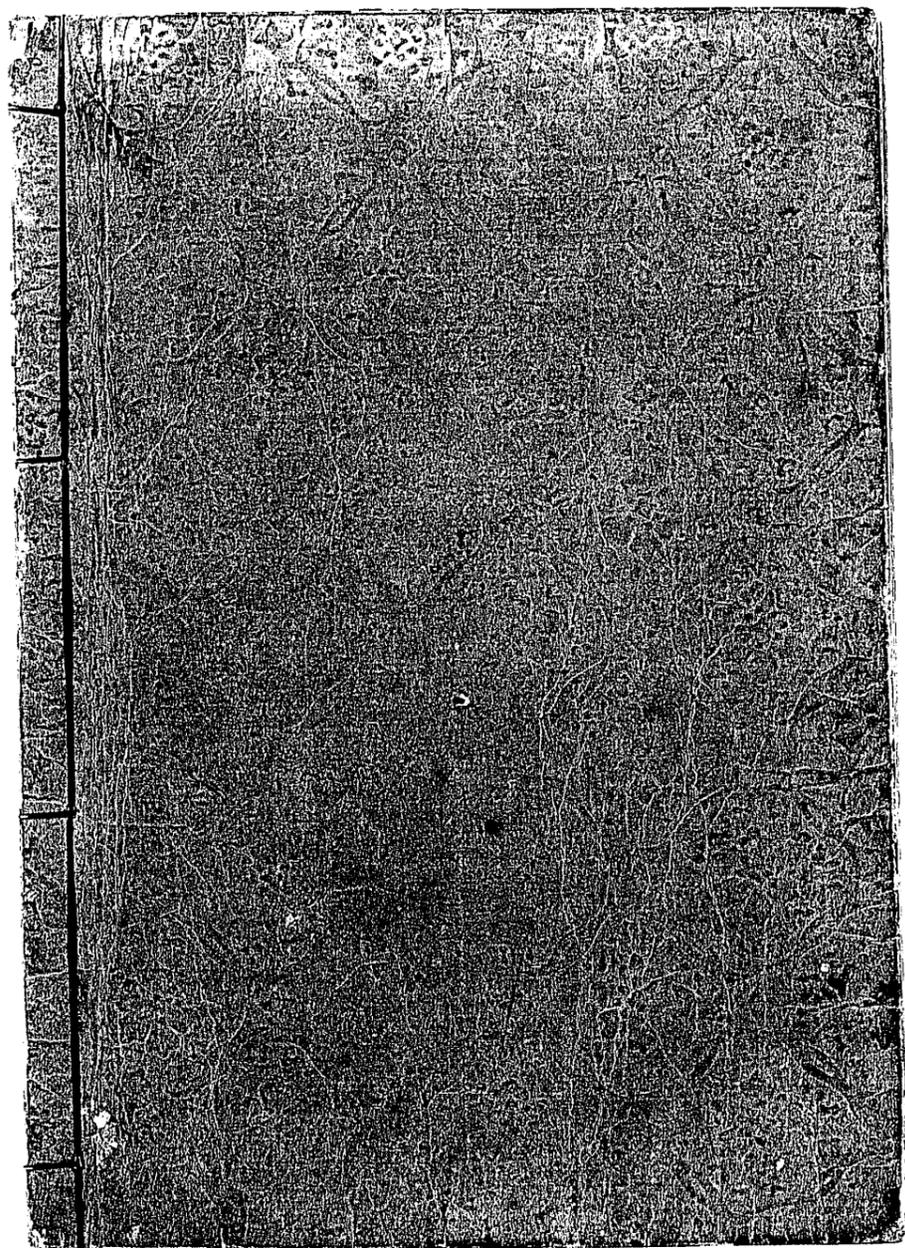
○廿五日卯刻過立出半里行ハ武丸村。左乃方山の手。人家頗ふ。ゆり。又小川のあるに石橋とよみ。此所小孝子正助墓と彫る碑あり。是より漸く小瓜先上り。小半里ゆり行ハ吉留村。人家三十軒計あり。茶屋あり。三丁計行ハ郡境の表あり。西宗像郡。東ハ鞍手郡なり。十丁餘行ハ水吉

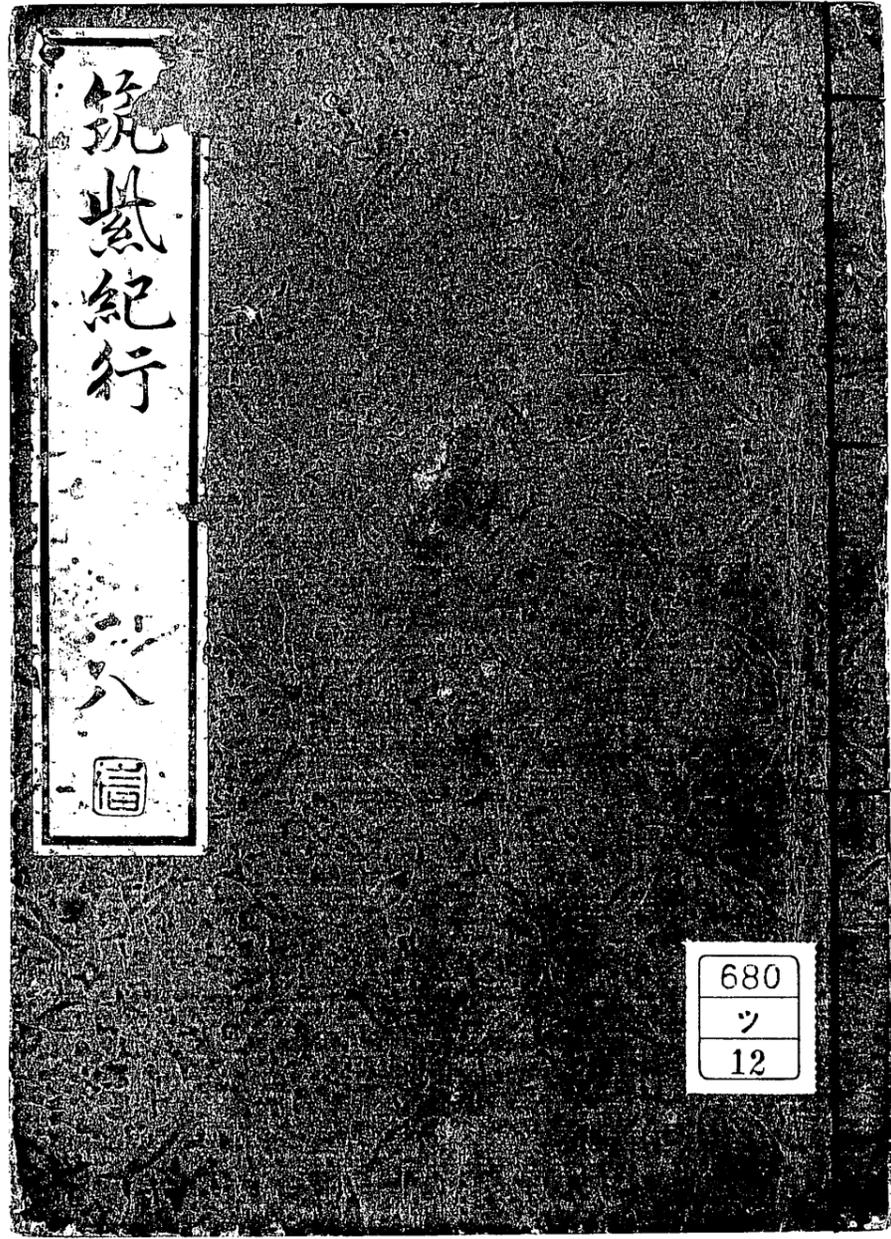
村。人家四十軒計。茶屋あり。此邊ハ山道なごり。ゆり。ゆり。又瓜先上り。小五六丁行ハ一つ宿あり。又五六丁行ハこのゆり。農家十軒あり。三丁計ゆり。仁木田村。人家三十軒計。茶屋あり。三丁計行ハ植木町。人家十軒計。商家多く。茶屋あり。町の出口。小木屋瀬川とよみ。大川あり。瀬。二丁餘。川中。小中洲あり。洲のあり。両所とも船で渡り。ゆり。一丁あり。ゆり。木屋瀬宿。赤間より町家七八丁あり。宿屋。茶屋多し。宿乃入口。冷水越。赤間越の道乃追分あり。五六丁ゆり。小川あり。石橋より。此所小郡境の表。西ハ鞍手郡。東ハ遠賀郡とあり。又二十丁行ハ茶屋の原。人家三十軒あり。三丁ハ

茶屋ハナ十四五丁行ハ瀬六間ハより此川ハありハ歩ハよりハ向ハいハろハ岸ハ下石坂人家十軒計ありハ坂ハを登ハりハゆハけハ上石坂人家二十軒計茶屋多しハ十四五丁行ハ町ハ若人家三十軒計茶屋多しハ十七八丁行ハ上野原人家二十軒計茶屋多しハ一里計行ハ黒崎驛ハ木屋瀬より町屋十丁計茶屋宿屋多しハ半里行ハ尾藏村人家五六軒道傍ハありハ茶屋多しハ半里行ハ尾藏村人家六七軒茶屋ありハ二十丁計行ハ大倉村人家十軒ハありハ茶屋ありハ二十丁よりゆハゆハ飛渡ハの川ありハ此川を境ハとして東を豊前西を筑前ハなりハの川をハよりハ二丁行ハ小川ハありハと主橋ありハよりハかハてハ四五丁行ハ豊前國ありハ村ありハ農家二十軒ハあり

茶屋ハ二十丁行ハ清水村ハ此野ハ小倉の合ハありハ人家三四十軒ありハ此村ハ小續ハきてハ小倉ハ黒崎よりハさて家中町と十丁ハよりゆハゆハ木戸及見付番所ありハ五丁計行ハ惣門ありハて番所ありハ此惣門ハと入ハて五丁計行ハて室町二丁目ハより立ハよりハ紙屋興作ハ家ハ小宿ハさて肥前より筑前豊前の所ハ小蠟ハをハの木をハ数多植ハをハ此事其所ハ小記ハすハなりハとハせハにハなりハて今ハ小記ハす

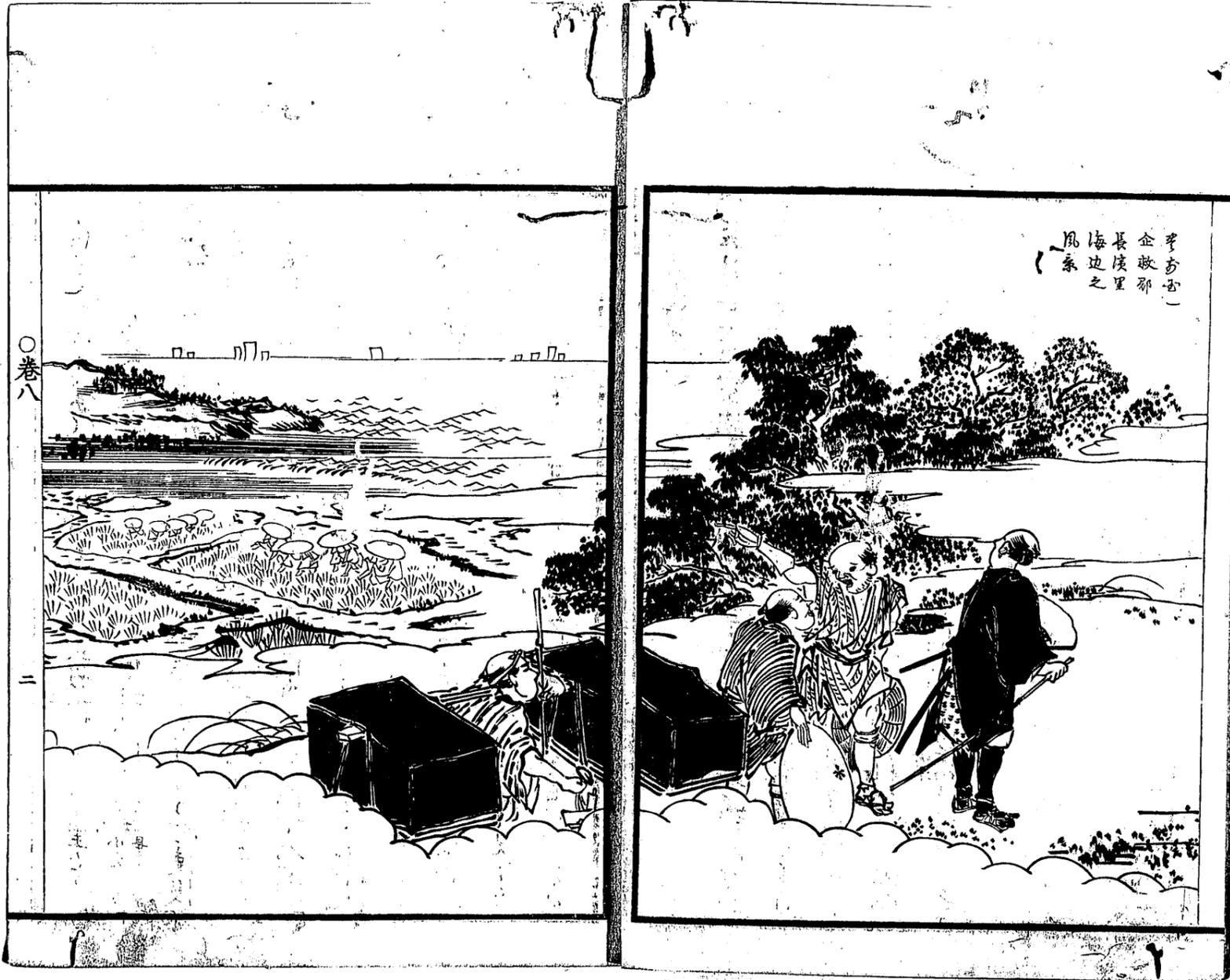
筑紫紀行卷七終





筑紫紀行
卷八
一
圖

680
ツ
12



○卷八

孝
友
五
企
救
邪
長
溪
里
海
邊
之
風
系

走 小 舟

とある長濱小あり。此あり。企救郡をり。半里どろ
行。赤坂人家三十軒計。茶屋なり。一里計行。大里倉より
入口。長崎より出張して。抜荷を吟味する所あり。町使役
乃者兩人。交替して。是を勤む。此所町屋三百軒計
宿屋あり。茶屋を。宿屋小は。て役舟をや。し。下。乃。関
ふ。長門國赤間豊前大里より。午刻。頃。舟とけけ
さふ。と。ゆり。し。米屋藤五郎。方小。至。宿。大坂。向。け
送。ふ。書。状。を。と。め。又。陶器。を。樽。詰。あ。て。大坂。の。河。内。屋
向。も。送。り。遣。し。又。長。寄。の。人。も。書。状。を。と。め。さ。る
此。所。も。送。る。と。く。す。る。は。日。の。ぬ。ま。を。今日。の。渡。海。の

無難なりし喜びの酒宴をして。此邊の若き入。三人招きて。
浄瑠璃と語り。と。と。と。つ。あ。ら。ま。の。死。し。り。し。藝。子。は。お
よ。の。を。ま。招。き。て。夜。半。ま。遊。興。し。酣。醉。し。て。卧。ぬ。

○廿七日。陰雨なり。辰刻小立出。宿酒い。醒。して。駕籠の
内。小。う。め。ぐ。め。ぐ。え。る。付。小。至。下。の。関。より。か。い。小。快
晴。し。り。三。十。丁。計。行。馬。の。背。村。人家。十。軒。ぐ。り。茶。屋。あり。
小月。長。寄。より。吉田宿。小。月。より。厚。狭。の。市。吉田。より。是。を。再
を。地。と。暮。つ。舟。木。一。里。小。う。り。て。又。肥。後。屋。幸。左。衛。門。が
家。小。宿。ふ。甚。懇。小。迎。延。入。故。郷。の。お。い。を。な。す。

○二十八日。卯刻過小立出。山中宿。二里半。周防國小郡

宿山中より是 今日有馬侯の國小下りふ小此邊少く行違ひぬ
宮市宿小郡宿より 人家二千軒計あり藤村屋小つづび宿
とて天満宮小詣つ社領と向ふ小五百石とあり

○廿九日晴天辰刻頃小立出長寄の田島紋左衛門小ふと會面
可甚喜びて酒肴を携へてとどろ暮ひきりて共いく小飲
食して戀れてとどろぬとて 富海是より 福川二里
富田二十 徳山一里 遠石半 久米半 などをうらとぬ
され小記せし道ゆく異なることもあべ夫より坂道を三丁
ごり下りて 和田村人家四五軒あり是より平道ゆく二丁
計行川あり玉橋の長十五間ごりなるを渡り

十餘丁行む花岡の宿久米より是 人家三百軒あり宿屋茶
屋あり今日ハ炎暑焼か如く堪えずとも伴ふ人々皆皆惱なむ
罷つとそれは此所所小来ふいふ小刻少くもいふれれとて
宿ををもとめて伊勢屋文蔵とあり宿あり

○晦日卯刻過小立出平道小聊いく小坂のありてとて暫
行ハ久保市の宿花岡より是 人家四五十軒あり端宿小茶屋
となり宿ありのつづき小淵六間ごり乃川あり土橋よりとて
是より峻まりき山坂を五丁ごり登りて十丁ごり下りて
峠市宿久保市より 人家四十軒計茶屋もあり宿の中程小郡
境の表東ハ熊毛郡西ハ都濃郡とあり宿を離るとて

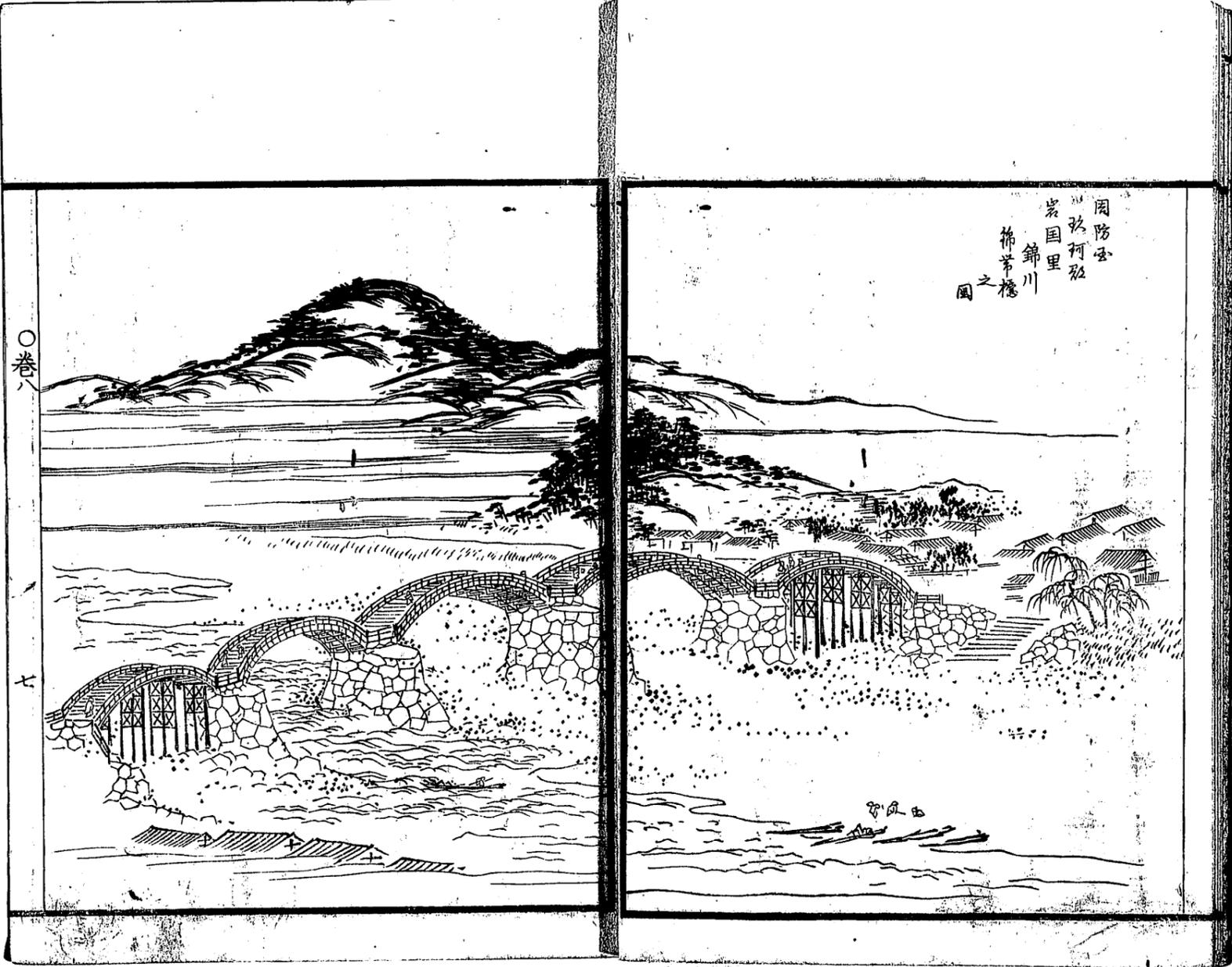
やうなる坂とす。あまりのがまは太川村。人家十四軒。商家あり。五六丁ゆげ。勝間村。人家二十軒計。商家あり。茶屋あり。半里いり。行ぐ。古市村。人家二十軒餘。皆農家なり。少坂路と下ま。呼坂宿。呼坂より人家二百軒計。商家多く。宿屋。茶屋あり。十丁いり。ゆげ。鬼ヶ原村。農家二十軒計あり。又十丁計。行ぐ。今市宿。呼坂より人家四五軒。茶屋あり。出口。小川あり。土橋とせ。是より山坂道。半里計。登ま。峠あり。至ふ。此所を境。東。都野郡。西。玖珂郡。表を。茶屋二軒あり。此所。中山村の内なり。て峠をす。けり。下ま。粕川村。人家十軒計。茶屋あり。出口。小川あり。

長さ六七間の土橋をうけ。よりなる坂を三丁登。ま。五六丁下ま。川岸。小出づ。此道を廿五行。高森れ宿。今市より人家二百軒計。両側。小立。並べて町。乃。中通り。細き溝を掘。流。り。宿を出て。半里計。ゆげ。久可の綾部町。引。は。きて。久可本郷宿。高森より人家百四五十軒あり。ま。引。續。ま。て。綾部の新町。おの綾部と本郷と新町と合。て。人家四百軒なり。宿屋あれども。茶屋あり。本郷。新町。と。月替。り。小驛。の役を勤。じ。此。邊。布。の。島。あり。木綿の縮。織。を。出。す。り。此。所。も。離。ま。て。半里行。野口村。農家十四五軒あり。ま。半里行。金明寺村。人家十四五軒。茶屋

一軒あり是より峻き山坂を五六丁登りて二丁なり谷小下
りて三三丁登りて又七八丁下ま谷間小二軒屋とて人
家十軒なり茶屋あり半里計行ハ柱野村材あり町あり
人家四五軒あり十丁計行ハ西宇治村人家十軒計あり
出口小滴三間なり乃川あり上橋をうけり此所より関人
ゆ直道ハ此橋をうけて川岸を二里半行ハ御庄
市村村の出口小津庄川あり川のあり舟ありとあり二
丁計りハ関戸なりとあり今ハ錦帯橋をいん
橋をいん小石多き坂道を五六丁のや道祖峠と
櫻の木二本右乃の岩上小あり此峠の神木なりとあり

萬葉集

因防ある磐國山をこむ日とあはれきとありきそのる
とあり磐國山あり道ハ錦帯橋をいん
とのありありなる神木なりとあり一ハ餘波なりし
さくこまより半里計坂下ま山岩國本郷より是
六乃乃津城下なり町甚長く商家多し宿屋ありとあり
これいん錦川川滴百間
あり内小橋を五つともあり錦帯橋あり東西乃
端の二橋ハ橋杭あり中の三橋ハ杭あり東のより二橋目まで
は水なき川原なり水邊小茶屋あり橋向ハ惣門見附番



閑防玉
川 石河
岩国里
錦川
佛堂橋
國之

○卷八

六

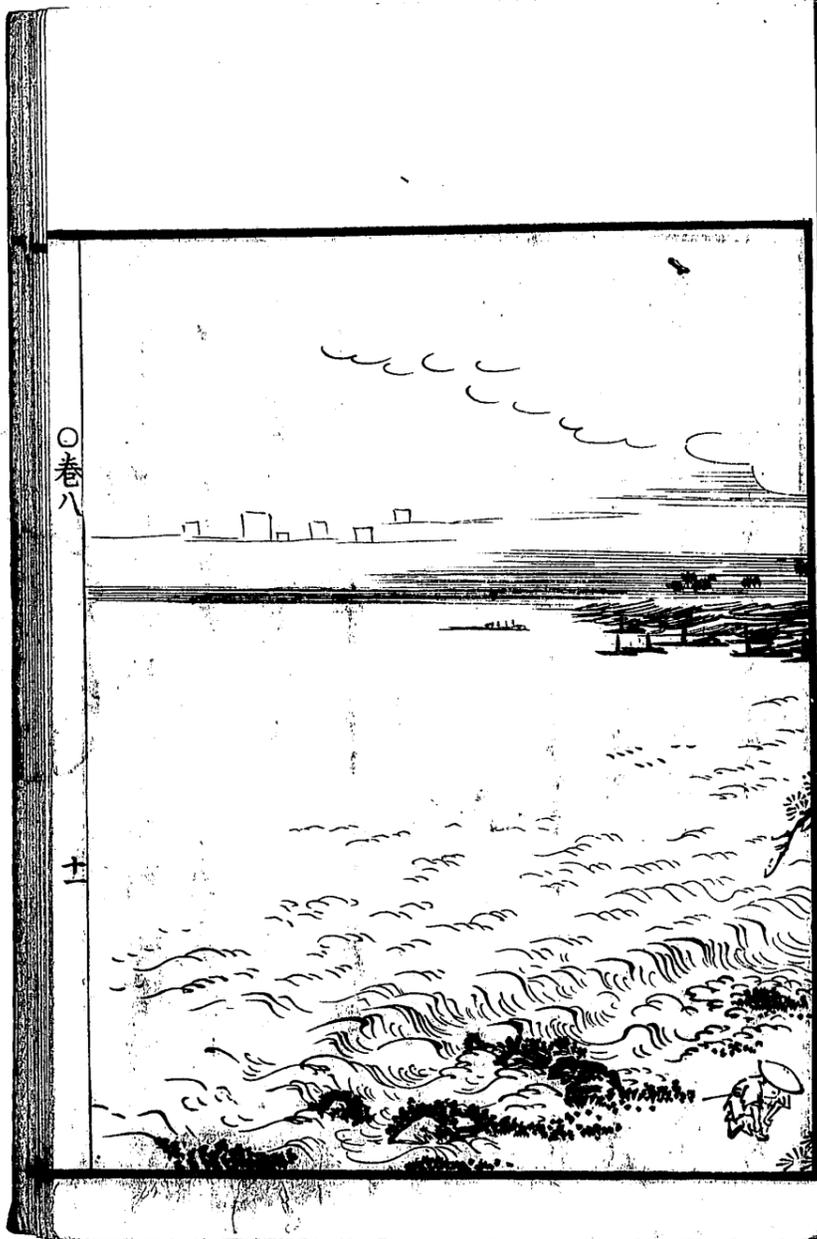
石河川

所ありて門内小樹木多く又町屋等より旅人橋を渡ることを
ゆるぎ舟よりよりて川岸を山ふらひて行此川せ助小水
車を為掛する船あり船中小碓ありて陶器の土を舂ゆき
水碓なりて半里計行ハ關戸の宿本郷より是より四里人家四百軒
計茶屋宿屋あり脇本陣の村尾武右衛門といふ小宿あり
柱野より半里計西の山中ゆく十六七の女二人小あふ抜多
の道ゆく一人の女霍乱して物もえいふ土色ふなりて甚苦
げあり衣衰きと見えく薬をよそく通アとせきより室積の者
きるが田植も仕舞ひもまはる参宮をねむひまよりよりひひ
平愈を得るがや覺束なり。

○六月朔日卯刻過立出づ谷間乃山坂十丁計登りて十
六七丁下まき小瀬村人家二十軒あり間の宿をもて宿屋茶屋
あり村乃端まき小瀬川とて濶四十間計の川あり安藝周防の
境なり舟ゆくことまき安藝國この村中津川原村道より
半丁計奥の方人家四五十軒あり又山坂十四五丁登りて廿
丁より下まき緒方町町の入口まき程片側の町ゆく南乃
方小海潮漫りて島々遙小列あり多き小心目を慌れさせ
町屋すへく五百軒小ありていと長し商家多く諸物乃問
屋及宿屋あり此所より官島其外の所へも渡りて便船
多しゆく町をばあれ濱邊の道をゆくひひ小北小

山層々疊々重なりあり。南に數十里の海面島々乃佳景
一望の内ふありて此頃を珍らしき勝狀なる道乃さゆあり。本道
山の上ふありと。汐干の時に近江を取ふく嶺方と通るあり。
かくて半里計ありて。玖波の宿小至る。関を重り人家五百軒計
宿屋ありて茶屋あり。宿乃出口より聊ゆる坂のありはのり
下りて濱邊小出づ。此所をも小坂を云ふなり。越えて灘村
とて。道は左右小家三十軒計あり。されより山坂を登り行海
邊あり。山道あり。名多くあり。これ乃ゆるゆるに宮島を
眼下小見たり。五十丁ばりあり。峻き坂を落ふやう
下流に大野村人家十軒計あり。所ふあり。凡一里計乃間

同村内をり。此道登りて。繁く四十八坂と稱して難所と
なり。かくて茶屋二軒あり。是より小松原の中の山道を登り下
りて。八九丁行くと峻き坂を十丁計下り。宮内村村中小
川あり。土橋より渡ふ。片側の町小茶屋商家あり。所あり。其外小
所ふ人家散在するゆふ敷をくると。かくて平道十四五丁行
む櫛戸町とと。猶宮内村乃ちり。濱邊小人家二十軒計
立たり。向皆瓦葺なり。山乃尾先を廻り。海岸の下と
通る。二十丁計行む。廿日市宿。玖波より是。人家千軒ありと
いふ。ありて。瓦葺の宿屋茶屋多く町長。此邊綿
を多く作り出す。田地中田一及小年貢九斗計あり。豊年



び行なむ畫中の景とらふし。十四五丁行ばくま村人家
二百軒をり茶屋宿屋あり。間の宿をり。四五丁行ば四軒屋
とて茶屋あり。是より新田の堤の上を三丁計行ば大川と
濶百間計の川あり。土橋をくま。川をくま。松原を茶
屋四五軒あり。五丁計行ば又川あり。濶前の川小同し。是を
土橋をくま。二丁計の間村中を行て村をけり。是は
又川あり。板橋の長さ四十間をり。川のあり。広島
をり。廿日市より安藝侯四十二万の御城下をり。埴町四丁目山澤
屋榮藏とる脇本陣の家小宿あり。此地北東ハ山西南ハ海小
して巖島前小見や。御城ハ東北の山の手小あり。三重の

天守あり。町屋通筋入口より出口まで七十三丁。皆瓦葺少く幅
高多し。町筋縦横小あり。

○二日今日より卯刻過小立出。行ばくま。川橋の
長さ三十五間計。三丁げり行ば平太川橋の長さ三十間計。
又三丁行ば川あり。橋の長さ三十四五間あり。五六丁ゆけ。又
川あり。橋の長さ四十間をり。此二川の間の小川小橋二つあり。三
丁計行ば片が村。村をり。四丁計の町をり。二丁計行ば岩
鼻村人家十軒計茶屋あり。村中小大なる岩山あり。是を
小おも。ろき岩ども集り。牽き。五六丁行ば中村人家二十
軒計あり。三丁計行て二丁計坂を下。舟越村ハ海の

小湊なり。人家三十軒計。茶屋あり。濱手を廻る。海田市宿。廣島より人家八百軒計。大形瓦葺。宿屋茶屋商家多し。三丁行。奥海田村。人家四十軒計。皆農家なり。三丁あり。行。小川あり。土橋より渡。中野村。人家二十軒計。商家茶屋あり。猶もゆきとる。宿屋あり。小あり。三丁あり。行。細川あり。土橋より渡。二丁計。ゆきは下瀬野村。人家十軒。二十軒計。は。三丁計の間。あり。又十餘丁行。落合村。茶屋あり。人家十五軒。は。所。あり。千四五丁行。上瀬野村。人家あり。小あり。茶屋宿屋。あれ。間の宿。あり。三丁計。行。一。八。田。人家十五軒。茶屋あり。半里計。

行。細川あり。土橋より渡。小川向。八。原。村。人家十軒計。茶屋あり。ま。是。ま。平道。な。を。是。より。安藝の大山。と。山道。を。登。ふ。半里計。ふ。峠。小。至。海山。を見。晴。して。眺望。心。目。と。樂。し。め。木陰。の。清。風。小。襟。を。披。き。身。を。休。て。ふ。あり。三。十。丁。計。下。ま。八。人家。二。軒。あり。十。丁。計。行。八。飯。田。村。人家。十。四。五。軒。茶。屋。あり。ま。半。里。計。下。ま。地。家。村。人家。あり。小。あり。村。中。小。川。あり。土。橋。を。り。り。茶。屋。あり。半。里。計。行。四。目。市。宿。海田より人家。四。百。軒。あり。茶。屋。宿。屋。多。し。小。竹。屋。庄。兵。衛。と。の。小。宿。あり。此。あり。錢。百。文。を。百。文。と。目。を。省。す。銀。札。二。分。り。五。分。と。五。文。と。四。等。少。く。通。用。す。



○卷八

十四



安芸云々大山
時方山陽の
風系と馳
皇族入
納涼まゝ
園

○三日晴天卯刻過ふ立出て十餘丁行ハ助谷村とて農家四五軒あり是より小松山と小山中小川のゆるやかな坂道の沙地を登りて行ハ松ありて茂りあひて日かげもぬ山中より登りて登りてや下まる所小細き流のあり小土橋と掛りて三丁計登りて又三丁計下ま石立村人家十四五軒茶屋ありがて又峻き坂と五丁計下りて平道四十丁計行ハたまり村人家五六軒づくみあり十四五丁ゆけハ小川あり土橋より行ハ西野村人家十四五軒茶屋あり此ありハ加茂郡より三丁計行ハ小川あり土橋より行ハ新庄村人家三軒茶屋あり半里計坂を登りて一里

計下りハ藤棚の青葉志の道傍小川出る茶屋三軒あり又四十丁計行ハ萱町人家五六軒あり茶屋あり三丁計行ハ本郷川潤平間計なるを歩りて大水の時ハ船にて渡りて本郷川を渡りて奴田本郷宿^{四市より}人家百軒あり宿屋茶屋あり爰て休むも炎天の暑氣堪がらうして駕籠の中にも蒸籠小座より汗の衣を浸すは粘りて何れも衣服を脱身を脱身風の風を吹き止りて昼食すめりて又出てる太川の堤をひき三丁計行ハ川あり土橋より三丁計行ハ新庄村人家十軒計茶屋あり安藝備後の國境なり

○卷八
の道炎暑始傳^{ふんじゆ}は^{ふんじん}半里行^{はんり}新^{しん}城^{じやう}村^{むら}公家^{こうけ}二十軒^{にじゅうけん}あり
茶屋^{ちやゑ}あり^{ちやゑ}三^{さん}里^り行^{ぎやう}備^び後^ご國^{こく}三^{さん}原^{げん}宿^{しゆく}本^{ほん}郷^{きやう}是^{こゝ}藝^ぎ州^{しゆう}の家^け臣^{しん}成^{じやう}
野^の甲^が斐^ひ殿^{てん}三^{さん}方^{ぽう}五^ごの城^{じやう}下^かすあり^{ちやゑ}谷^やを^を西^{せい}町^{ちやう}と^と西^{せい}町^{ちやう}十^{じゅう}五^ご
餘^{あま}を^を過^すく城^{じやう}門^{もん}八^{はち}丸^{まる}の内^{うち}を^を過^すく^{ちやゑ}母^{はは}間^ま城^{じやう}
四^しつ^つあり^{ちやゑ}かく^{かく}て東^{とう}町^{ちやう}小^{せう}出^{しゅつ}くす^{ちやゑ}あり^{ちやゑ}行^{ぎやう}八^{はち}出^{しゅつ}を^を東^{とう}
の方^{かた}小^{せう}あり^{ちやゑ}城^{じやう}の東^{とう}北^{きた}ハ山^{さん}南^{なん}ハ海^{かい}西^{せい}ハ田^{でん}野^の小^{せう}城^{じやう}ハ佳^{よし}
麗^{れい}なり^{ちやゑ}甚^{しん}觀^{くわん}なり^{ちやゑ}町^{ちやう}ハ東^{とう}西^{せい}合^{がっ}す^{ちやゑ}三^{さん}十^{じゅう}計^{けい}商^{しやう}家^けあり^{ちやゑ}
茶^{ちや}屋^ゑあり^{ちやゑ}此^{こゝ}地^ぢ綿^{めん}を^を多^たく^{ちやゑ}作^{さく}り^{ちやゑ}又^{また}城^{じやう}下^か村^{むら}ハ小^{せう}藥^{やく}種^{しゆ}
の烏^う梅^{ばい}多^たく^{ちやゑ}製^{せい}す^{ちやゑ}あり^{ちやゑ}出^{しゅつ}口^{くわう}ハ三^{さん}十^{じゅう}計^{けい}行^{ぎやう}八^{はち}軒^{けん}家^け華^け好^{こう}
小^{せう}賑^{にぎ}り^{ちやゑ}ハ甚^{しん}茶^{ちや}屋^ゑあり^{ちやゑ}濱^{はま}邊^{へん}ハ道^{みち}を^をれ^{ちやゑ}茶^{ちや}屋^ゑ有^あ座^ざ

敷^{しき}より^{ちやゑ}と^とし^し小^{せう}南^{なん}の^{ちやゑ}こ^こに^{ちやゑ}入^い海^{かい}の^{ちやゑ}島^{しま}重^{じゆう}なる^{ちやゑ}列^{れつ}島^{しま}なる^{ちやゑ}
や^{ちやゑ}ハ名^な高^{たか}き^{ちやゑ}林^{りん}泉^{せん}を^を大^{だい}き^{ちやゑ}し^して^{ちやゑ}な^なる^{ちやゑ}あり^{ちやゑ}如^{ごと}く一^{いつ}里^り
あり^{ちやゑ}ゆ^ゆハ系^{けい}崎^きと^と濱^{はま}邊^{へん}ハ茶^{ちや}屋^ゑ三^{さん}四^し軒^{けん}あり^{ちやゑ}此^{こゝ}所^{しよ}あり^{ちやゑ}
眺^{なが}む^{ちやゑ}海^{かい}陸^{りく}の^{ちやゑ}風^{ふう}景^{けい}又^{また}佳^{よし}勝^{しょう}なり^{ちやゑ}一^{いつ}系^{けい}崎^きの^{ちやゑ}八^{はち}幡^{ばん}あり^{ちやゑ}
津^つ社^{しゃ}あり^{ちやゑ}長^{なが}崎^きを^を立^たて^{ちやゑ}り^{ちやゑ}以^{もつ}来^{らい}此^{こゝ}の^{ちやゑ}如^{ごと}き^{ちやゑ}茶^{ちや}屋^ゑあり^{ちやゑ}り^{ちやゑ}
家^け廣^{ひろ}く^{ちやゑ}室^{むろ}潔^{けつ}なり^{ちやゑ}佳^{よし}景^{けい}の中^{なか}小^{せう}立^たり^{ちやゑ}り^{ちやゑ}主^{ぬし}の^{ちやゑ}女^{むすめ}乃^{なり}美^み艷^{えん}
なり^{ちやゑ}こ^こや^やま^まと^と類^{るい}なり^{ちやゑ}聲^{こゑ}ハ^{ちやゑ}さ^さや^やと^と嬌^{けう}媚^びて^{ちやゑ}詞^{こと}は^{ちやゑ}ま^ま
あり^{ちやゑ}こ^こら^らひ^ひの^{ちやゑ}よ^よハ小^{せう}暑^{しよ}なり^{ちやゑ}と^とて^{ちやゑ}あ^あつ^つり^{ちやゑ}と^とあ^あり^{ちやゑ}り^{ちやゑ}く^く立^た
り^{ちやゑ}覺^{かく}ゆる^{ちやゑ}け^けり^{ちやゑ}なり^{ちやゑ}又^{また}行^{ぎやう}あり^{ちやゑ}二^に里^り計^{けい}あり^{ちやゑ}濱^{はま}邊^{へん}を^を離^{はな}れ^{ちやゑ}
て^{ちやゑ}福^{ふく}知^ち村^{むら}人^{にん}家^け二十^{にじゅう}軒^{けん}計^{けい}茶^{ちや}屋^ゑあり^{ちやゑ}半^{はん}里^り行^{ぎやう}ハ吉^{きち}和^わ村^{むら}人^{にん}家^け





依後必
吉和村
表夫柄
涼之國



三十軒計茶屋あり。今身道宿と名づる五十丁を一里
て十一里半なり。日中ハ暑氣小堪。人夫も休みからし違
ふりけし。此所ハ日暮ぬ黄昏小見渡せ。村民の翁媪夫
婦児孫まで。胡瓜の垣根の下小遊らり。き羣居て納涼
して徳利を傾。茶碗酒をのこして心安く嬉しげに語り
つらら。の　ふれ　　ハク白棚の　　と　　男　　婦　　ニ
布して　　ハ狂奇を　　其　　たりとゆ　　羨　　思
ふ。かくて半里なりゆきて。尾之道三原より是小至りて大
黒屋宗兵衛より脇本陣の家小宿。此所のご飯は
小記き　　

○四日卯刺小並出十軒坂道を登りて峠に至りて領地境
の表をより。是より西ハ廣島の御領東ハ福山の御領なり。は
なり。二十軒下ま鷹巣村茶屋二軒あり。二十丁ばり
行ハ砂川あり水あり。五六丁ありゆけ。今須宿尾之道より福
山の御領なり。人家通筋小二百軒計。塩濱の村。二百軒計
あり。よ。宿屋あり茶屋あり。十軒計。行ハ加村人家四五軒
茶屋あり。四五丁行て猶同じ村。人家十四五軒。茶屋多
し。二三丁行ハ伊勢宮村。人家三四軒。茶店あり。
此所より福山ハゆる道あり。是より山道を先上り一里より
行ハ越村農家二十軒計。茶屋多し。一里計行て大渡

州、澗八十間あり、舟は渡り、川向ひ下、茶屋あり、舟
使きて、川あり、板橋の長三十間計あり、橋をよぎては
横尾村人家二十軒計、潔浄なる茶屋あり、二十軒あり、
行く番所あり、をよぎゆけを、神邊の宿、今頃は人家三
百軒計、宿屋茶屋あり、村中小川あり、半里計、行く御領村、
備後備中の境あり、此村十四五丁の間、人家百餘軒、散
在せり、茶屋あり、此邊の田野を見り、すなは、今頃、稲
の花盛なり、米月中旬頃、年々新米を出し、とらへ、二十
餘米行、西、福山の御領、東、御公領、とらへ、山、の、懐、
又、守、行、は、備中、高屋驛、神邊より、是、
大、重、曹、子、御公領、あり、人家、三

百軒計、商家茶屋あり、宿屋もあり、とらへ、今、
づり、み、なり、ぬれ、を、あ、つ、弥、増、ふ、ま、か、く、道、小、木、陰、も、な、れ、
駕籠の中、ふ、あり、ても、焼、う、る、あ、が、ご、と、く、なる、小、苦、こ、あ、ぐ、こ、
農民、田間、の、業、を、り、な、り、け、く、ふ、ふ、田、乃、草、を、と、ん、と、
媪婦、兒、女、等、打、連、て、田、舎、歌、を、ハ、可、咲、き、声、く、して、快、ふ、唄、
は、と、て、背、中、ハ、炎、天、小、照、は、け、り、と、は、け、俯、伏、小、を、り、く、草、も、
あり、さ、後、誠、や、四、民、の、職、業、各、お、り、なる、い、く、と、り、く、小、容、易、な、
ざる、中、小、も、農、業、は、艱、難、なる、ハ、な、り、たり、粒、皆、辛、苦、
成、て、民、の、膏、澤、な、り、と、や、古、人、の、詞、う、な、る、ふ、我、等、幸、小、餘、閑、を、
得、る、身、や、と、遊、觀、の、め、り、を、求、ふ、と、め、小、暑、中、旅、行、の、

苦みをかゝる事、忝く勿躰をき次身なりと、おぼ心慰
て、伴ふ人々も、あひつ打笑ひくや、ぬきて驛乃出、
川あり、歩より渡ふ、五六丁行、い村人家五六軒あり、
きて官原村人家四十軒、又次小上下の土部村を、て二丁
四五丁行、七日市村、高屋町屋六七十軒、農家計、
茶屋宿屋、村乃出、日市川あり、瀬三十間、
歩より渡ふ、川向ひ、廣町農家二十軒計あり、十四五丁
行、今市村人家百軒あり、茶屋宿屋、あれ、間の宿、
中、小川あり、土橋あり、十五六丁行、押留村人家、
五六軒あり、茶屋あり、二里餘行、小田村人家五六

軒茶屋あり、二十丁行、六及村人家二十軒計、茶屋あり、四
十丁計行、矢掛川、川瀧三十間あり、歩より渡ふ、川向ひ、
矢掛宿、七日市より、町家十間計、小立、きて、屋並、瓦葺
蔵造、多、商家茶屋宿屋多し、銃屋林助、と、宿
○五日空陰、卵刺過、小立、半里行、東市場村人家二十軒
計、茶屋あり、半里行、尾崎村人家二十軒計、茶屋あり、
ある茶屋あり、二里計行、尾崎村人家二十軒計、茶屋あり、
あり、平道、少、ゆき、山の、手、小吉備大臣の廟あり、
植、五六丁行、左の方、山の手、小吉備大臣の廟あり、
二三丁行、桑比市村人家三十軒計、茶屋あり、三十丁行、

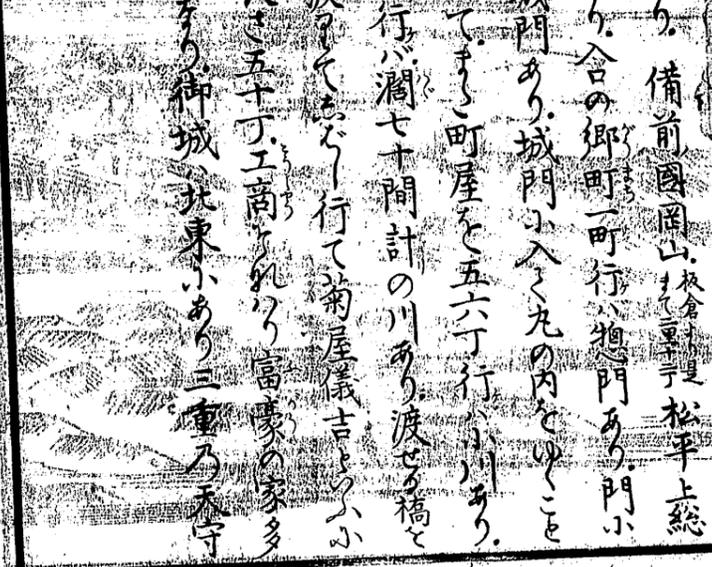
川邊宿。矢部（七丁下）町屋五六丁立續（三里此内）まで。商家多く
茶屋宿屋あり。家造（折しも）宿内小閉門の家二十餘軒
あり。博奕（博）の筋小連累（累）の輩なり。出口小大川あり。瀬
二つ舟渡（二つ）あり。此ありより小雨降出て漸（漸）小強（強）成ぬ。
此頃の炎暑（炎暑）小皆人惱（惱）苦（苦）。今日も（今日）も（も）こ（こ）り
け（け）ふ（ふ）必得堪（必得）ぐ（ぐ）て病者も出来（出来）んと（と）な（な）ふ（ふ）け（け）こ（こ）り
陰雨の空あくや涼（涼）。息出（息出）ふ心特（心特）の（の）も（も）強（強）く降出
ま（ま）い（い）く（く）ま（ま）じ（じ）く（く）疑（疑）い喜（喜）い（い）く（く）湯魚（湯魚）の水を得（得）枯苗（枯苗）の雨（雨）
遇（遇）へ（へ）る（る）小似（小似）り（り）とい（い）ふ（ふ）も（も）及（及）ば（ば）事（事）の（の）さ（さ）ら（ら）なり（なり）。かくて川と
是れバ中島村人家二十軒計茶屋あり。持坂といふ坂とこ

四丁登りて四五丁下と西郡村山の手小人家三十軒あり。茶
屋あり。半里計行ハ宿町人家四五十軒茶屋あり。又半里行ハ
せん（せん）と（と）村人家三四十軒茶屋あり。又半里行ハ矢部村人家
四五十軒茶屋酒屋あり。出口小川あり。長さ二十間（間）の板橋
を（を）く（く）つ（つ）ろ（ろ）を（を）り（り）て半里行ハ板倉宿（川邊）町屋七八軒あり
て茶屋宿屋多し。例の藝子遊女あり。南の方（方）向け
て吉備津宮（行）道あり。宿とて七八丁なり。ゆ（ゆ）め（め）バ
備中備前の國境なり。かくて二十丁行ハ正面村人家三三
軒茶屋あり。十五丁行ハ矢坂村人家十四軒あり。又
茶屋あり。此所を（を）り（り）て小坂を越（越）ま（ま）ハ方（方）なり。村茶屋あり。



又半里行ハ岡山ノ入口ナリ。備前國岡山。板倉計是松平上総
介殿三十一万五千石の沛城下ナリ。合口の郷町一町行ハ惣門あり。門小
入テ町屋十丁計行ハ城門あり。城門小入テ丸の内をゆくこと
五六丁ナク城門を出てまゝ町屋を五六丁行ハ川あり。
橋をもちりて五丁計行ハ濶七十間計の川あり。渡せる橋を
京橋と称す。とまを渡りてまゝ行テ菊屋儀吉と云ふ小
宿。通筋町屋の長さ五十丁。工番はれり。富豪の家多
く。賑々しき御城下ナリ。御城は東小あり。三重乃番守
見ゆ。

筑紫紀行卷八終

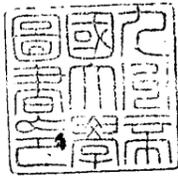






筑紫紀行
九
言

680
7
12



680
ツ
12

長弘村

昭陽

孝思

湯治



筑紫紀行卷九

六分館

柳文庫

○六日空晴卯刺頃下綱山の旅館に立出出口乃廻閉
八丁計行原大島人家三四十軒茶屋あり次亦二本松村八
家士四五軒茶屋あり十丁計行追分村人家三三軒茶
屋あり七八丁行長原村人家十軒計茶屋酒屋あり三本
より行 藤井宿 岡山より長 人家五百軒計宿屋茶屋
多し五六丁行北方村人家十四五軒茶屋あり四五丁行
赤坂村人家二十軒計あり十丁餘行川あり長二丁間計
の土橋をくぐり渡り舟橋村人家三十軒計茶屋
あり村はき小猶原村人家百軒あり土橋を渡り東

○卷九

村と稱す。岸側町ありて茶屋あり。此村を離るるは水深き
小川あり。前の川と同じ流きなり。是れ此川小舟ありて
種々の物を積りて引のり。其まゝ京の蒲瀨川の引舟に似
たり。さて橋を渡り川小添て四五丁行。西祖村。農家五六
十軒あり。是より堤小上りて三四丁行。市村。人家四五
十軒。茶屋宿屋あり。此間の宿あり。山本屋より茶屋
小立入る人と共小晝食をす。主餘魚を菜。中を
食。終りて價を問ふ。老婦出。魚の價をいふ。や
さうき程あり。數倍。これ伴。商小。いぬ人のありて
老婦を罵。つ。價のいふまゝ。す。た。さ。り。や。て。も。汝。再

通ふ。速客とる。の。怨心。乃。程。惡。し。ま。の。甚。ま。と
いふ。老婦。答。る。や。元。の。價。の。高。く。い。此。の。如。く。を。て。賣
ら。ま。い。り。と。い。ふ。い。く。腹。立。て。汝。猶。も。さ。や。乃。事。を。い。ふ。
男。を。い。ふ。敵。ま。ぬ。所。を。い。ふ。と。て。立。出。人。を。い。ふ。ま。主。れ。翁
立。出。て。妻。を。い。ふ。の。過。り。て。價。の。錢。を。い。奉。人。と。い。ふ。
左。の。こ。と。い。ふ。い。び。猶。是。より。數。倍。さ。り。も。價。を。い。ふ。
ま。う。ま。べ。き。を。い。と。て。立。出。づ。出。口。小。吉。井。川。と。て。瀨。百。間
び。ろ。り。の。大。川。あり。舟。より。渡。り。て。堤。は。い。の。道。を。十。丁
計。り。行。程。の。後。より。此。一。行。の。人。を。呼。び。よ。者。あり。顧。見
ま。い。三。十。計。り。男。赫。と。照。は。く。る。堤。の。白。沙。を。踏。立。く。



多し。二丁計り行て坂道と三四丁登りて三丁計り下まは。
片上宿片上宿人家三百軒計り茶屋宿屋多し。一丁
計り行て東片山村十丁計りの間人家亦あり。皆農家
なり。くして二十丁ありゆも一本松人家三四軒茶屋
あり。五六丁行入中村人家二十軒計り茶屋あり。十丁計り
行て人家十四五軒あり。坂道を二十丁計り上り行てやけ山
町人家三四軒茶屋あり。四五丁急小下まは。素通村
人家十軒計りあり。七八丁行て三ッ石の宿片上宿人家百
餘軒家造りく。潔淨なる宿屋茶屋多し。宿と離り
坂道と二十丁計り登り行て三軒茶屋あり。又少し

登りて舟坂峠に至る。備前と播磨との國境の表とあり。是
より二十丁程下まは。梨原村人家二十軒茶屋宿屋あり。此
間の宿をり。二三丁行て同一村の出郷とて人家二十軒計り
宿屋茶屋あり。是より山道半里計り登り入る。宇根峠
峠より半里下れば西宇根村人家二十軒茶屋あり。村
より下りて渡り渡り川あり。三十丁計り行て又川あり。是を
歩り渡り渡り播磨宇根の驛三ッ石より赤穂乃
御領より人家三百軒計り茶屋宿屋多し。中屋嘉右衛
門より宿あり。

○七日日より卯刻頃立出づ。二丁計り行てらま川。瀬百間

計急流いそがし水深し舟ふねで渡ふ此川より先公領なり
五丁計行ハ横尾村人家二十軒計あり十丁計行ハた村
人家三十軒茶屋あり五六丁行ハ若さの村人家五六軒茶
屋あり三十丁計行ハ宮の尾村人家二十軒計茶屋あり備
前の一國より此邊あち迄まで頃日雨あめうるざらふらりり田作いんぎも猶
大抵おほむねよりともゆゆごとごと島物甚悪く稻も少ひ蟲附むしるるや
なり半里計行ハ鶴亀村人家二十軒計よき茶屋も
あり此村の出口より右の方小行ハ赤穂の城下小至ちるるを姫路
道みちよりすす小行ハ少すくいいの坂さかありありすべて備前乃地
より此ありありままで道みちよりよりとととととと半里行ハ久我村人家三

十軒計酒屋ありて茶屋ちやありあり出口小川あるをからからり渡る
三十丁計行ハ片島宿片島宿 宇根駅より脇坂淡路守殿の御
領りやうなり人家百四五十軒茶屋宿屋あり半里計行ハ正
條の宿下したの人の小人馬こにまを繼つりり人家百軒計茶屋
宿屋あり出口小正條川より大川あり滴たニ計舟ふねゆくゆくは
川向小茶屋四軒あり十丁計行ハ門前村人家五六十軒茶
屋あり十丁計行ハ滴五十間計の川ありありららり渡ふ七八丁
行ハいいふふががの村人家十文字小町をありて五六百軒あり入口
小聖徳王寺あり寺内小三重の塔あり門前小茶屋多し
二十二丁行ハ大田原村人家十四五軒茶屋あり半里行ハ

山田村人家三十軒茶屋あり是より山道十丁計登りて二
十丁計下りて青山村人家四十軒茶屋あり此所より姫
路の御城の天守見ゆさて此より一ッ橋様の御領地あり
村の出口小青山川とて潤百間計の川あり歩より渡ふ川
向ハ天王村人家三十軒計茶屋あり此より石見道龍
野道備前道の追分より二十丁計ゆけば 姫路片島
置是より酒井雅樂頭殿十五の津城下より城内小五重乃
天守其外櫓ありあり入り十丁計町屋を行て堀の橋
をよりて城門を二つ越まふ其内小見附番あり是より
より町屋あり城の東北ありて城の東ハ山南海あり

町敷より六十六丁此所ハ草細工の諸器を名物として賣
家多し今宵福中町の米屋清右衛門とて小宿ありて
是より大坂小直ち小登ふ加古川小到り高砂を覽
明石須磨の浦兵庫西の宮尾崎と経て大坂小入る事
いゆる播州廻りとして世々の事なれ珍らうと
予年来但馬の温泉小浴き人の志ありしうども得果さざり
し此度よき序なりとおいへて此夜荷物書状を取
認めく大坂小送り置て其用意をてて控臥る
○八日卯刺過小立出て城の西の方小出堀際を北へ行り
東の裏の方を南へ行り町家小出るを東小行事五丁

ぐらゐりて郷町小出づ。又十丁計行茶屋多し。三四丁行む白國村。道傍人家六七軒あり。茶屋あり。七八丁行む砥堀村。人家五六十軒。出口小茶屋一軒あり。下砥堀村。人家三四十軒あり。茶屋あり。二丁計行小川のあるを石橋より渡ると。市川との大川の堤を十丁計行。丹生野驛。路。一里半。人家五十軒計。茶屋あり。町の中通。小溝川あり。十丁計行小川あり。石橋あり。三丁行。犬飼村。農家四十軒計。茶屋あり。二十餘行。馬橋村。人家十四五軒。商家酒屋あり。茶屋あり。姫路より此邊まで三四里四方の平地あり。小石ありて道悪し。十丁計行。溝口村。人家四五十軒。

茶屋あり。是より山間の細道。溝口坂とく小さき山を一つ越行。是道甚不自由。物事ゆるぎあり。中國筋の道。之より東海道をふくむ。やまは似たり。またたきぬ。がら。あし。小。ま。て。此道。道。宿。驛。の。内。に。も。食。物。等。心。任。て。頂。日。照。續。き。ぬ。暑。不。堪。し。て。茶。を。飲。ん。ど。も。小。茶。屋。を。き。所。多。け。も。詮。方。を。く。農。家。小。立。入。て。家。を。守。り。居。る。老。婦。小。冷。茶。を。乞。得。て。纒。不。咽。を。潤。す。の。こ。た。り。一。里。計。行。む。新。町。と。て。間。の。宿。あり。人家五六十軒。町の中通。小溝川あり。茶屋宿屋あり。此所を出て大川の堤の上を二十餘行。千束。人家三軒あり。是より山の尾を廻り。川小。



○卷九

九



旅人炎暑煩渴の
昔ふ山間の茅屋ま
へく冷茶飲を以て
咽と傾と

添て十五丁行はらまち人家五丁計の間百軒計終つて
茶屋あり前小細き溝川流る名草れ滝の流もあり
此内小とろて人を冷して賣二丁行は近平村人家
二十軒計茶屋あり十丁行はら村人家三十軒計茶
屋あり十四丁行は福渡村人家四五十軒茶屋あり五丁
行は大川やうらうらなる水増まば舟ゆく渡を時もありと
り川を渡まば屋形丹生野人家五六十軒宿屋茶
屋あり堤道と半里計ゆまば谷川あり歩よりり大
内口村人家十軒計茶屋あり半里行は谷川ありりり
渡ふ二丁行は福本町松平伊勢守殿石の在所あり

郷町四五丁あり商家茶屋宿屋ありとの間の宿あり二丁計
行は粟賀の驛屋形福本領より人家百四五十軒佛
霊より銘の茶を出す茶屋宿屋あり河内屋傳右衛門と
り小宿あり

○九日晴卯刻頃小立出づ驛を離まて板橋をまは上粟
賀村人家二百軒計茶屋あり出口戸田川とて濶四十間餘
の川ありと土橋よりり是より山道入八只り殿村二丁
計の間所小農家まはにありとる百軒餘あり
中程小春日大明神の官及り殿川より谷川あり歩より渡る
ゆりまは二丁餘行は一本杉木れを茶屋あり是より大

山村の内より二十餘丁の間へ人家七八十軒ありて折
は茶屋あり。出口小川三つとも小土橋あり。五丁
行ハ一枚の板を橋こゝろを流川あり。川を渡りてゆり板
ハ小坂を登りて猪苧村に至る。栗賀沢より一名追上とも
ハ端宿あり。郷町にて人家三四十軒あり。此あり山ハ谷
間ハ畠あり。田地のあり。谷間故小暑氣あり。冷や
なり。ゆりて小坂を十丁計登りて十四五丁下ま。真弓村
あり。此間小谷川あり。とも小歩下り渡る。真弓村宿。追上より
人家四十軒計。茶屋宿屋あり。二丁計行ハ川あり。土橋の
長さ十間計。川せり。れハ森あり。町家三四丁あり。つぎ

此所ハ生野及銀山の入口より改役所。銅間屋。其外銀山掛
の役所等ありて賑々し。七八丁登り行ハ峠とて人家
十軒計あり。此所ハ銀山の北の方の入口。山ハ小番所
あり。銀山ハ此所より五十丁奥あり。ゆりて平道をた
し行て又坂路あり。道傍小松。畠あり。扇あり。手
取あげて。

とろけ代りあり。たてや。い。十之。り。は。む。ゆ。く。春。と。
す。つ。ら。う。け。し。繪。遺。を。拾。は。古。語。ふ。ら。う。け。と。だ。
繪のあぞ。ゆ。ふ。え。と。や。び。わ。て。三。四。丁。登。り。て。峠。小。至。る。
此所ハ播磨と但馬との國境あり。又二丁計下ま。こた村。

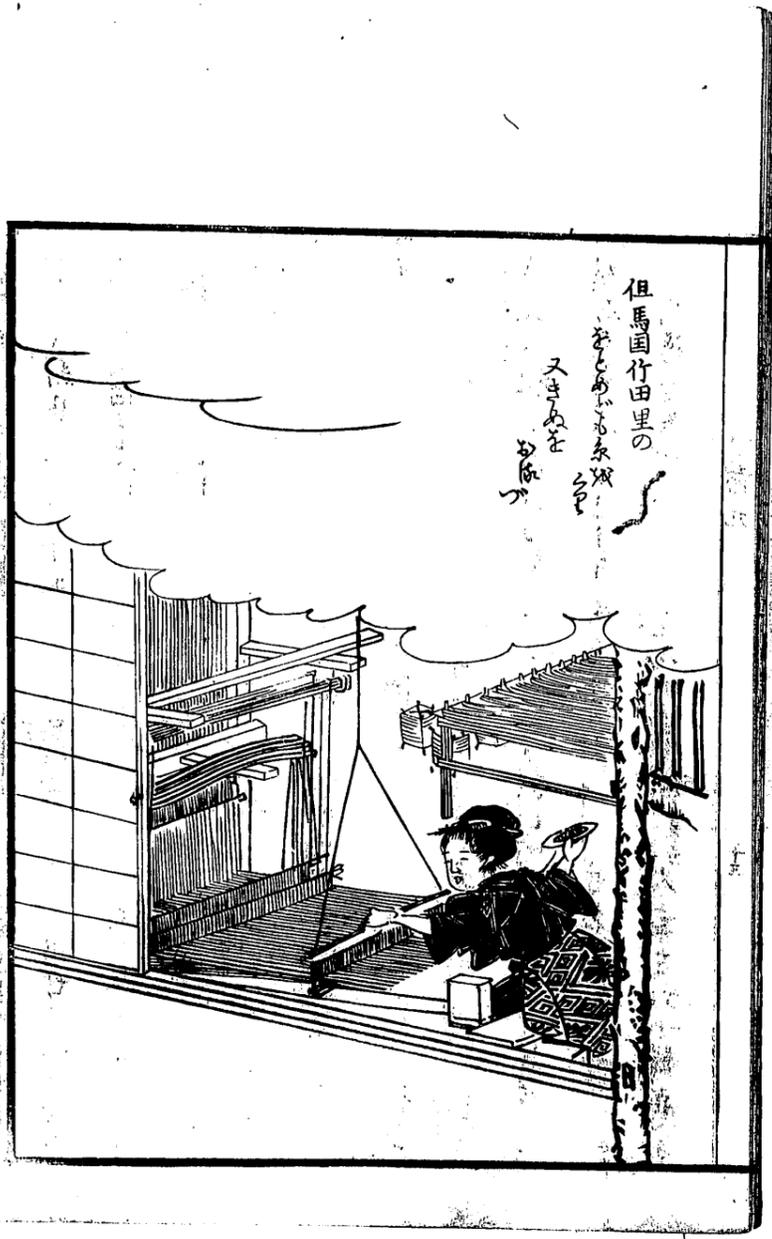
五十軒宿屋あり茶屋多し此あり鮎魚多き小や世取
此魚を賣家おやゆ十丁計行ハ潤平間計の川あり
土橋より渡ふ三丁ゆも荒井村人家四五十軒皆農家
あり二十丁ありゆのせ帯刀村人家六十軒茶屋宿屋
あり間の宿あり此あり麻を多く種作り又蠶飼を
家々に多あり五六丁行ハ桑市村農家三十軒計あり
十丁計行ハ物部村間の宿あり茶屋宿屋農家とて
五六十軒十丁げり間ありて又十丁餘行ハ竹田
宿山口駅より御公領あり瓦葺板葺打雜り町屋十
丁あり瓜豆はけり此あり白糸を多く出し又白絹と

おやく織出す又竹田枕とて下品の枕を造り出せり宿屋茶
屋あり宿屋ハ甚きうくく西の方れ山の上赤松左
兵衛廣秀の城跡あり櫓天守の基石垣を高くとゆ赤
松氏ハ慶長五年十月廿八日三十三歳ふて逝去なりとて大
森村ハ墓ありかくて二十丁計行ハ平田村農家三四十軒
あり此あり大なる川を右のふ見て其川岸を行あり
此川ハ鮎多しとて十五六丁行ハ和田山の驛竹田より
是より二里
上組下組とてけり合せて五丁計の町はきなり茶屋宿
屋あり宿屋ハ甚きあり十丁計行ハ東谷村農家二三
十軒あり五六丁行ハ土田の宿和田より
是より二里人家五六十軒商家



○卷九

十四



但馬国竹田里の
おきぬ
又きぬ
お家

宿屋茶屋あり。町の中通小細き溝川あり。五六丁行ハ宮田
村人家四五十軒多く農家も商家もあり。十五六
丁行ハ高田宿。人家百軒計。町の中通小溝
川あり。姫路屋宗右衛門の宿あり。

○十日晴卯刻過小立出づ。二丁計行ハ堀畑村農家三十軒
計あり。五丁計ハ西ハ出石領。東ハ御公領との領地境
の表あり。是より大川の岸を通りて二十丁計ハ
養父の宿。人家二百軒計。商家大なる。造酒屋
茶屋宿屋あり。宿より紀宿多し。町の中通小溝川有
町をゆるぎ道のの両側ハ松の並木のあり。きよし菓を

いと植並へり。二丁より行ハ左の方ハ水谷大明神の宮
あり。此ハ神名帳ハ但馬國養父郡水谷神社あり。御社。
坂を登りて隨身門のあり。入り拜を門ハ草葺拜殿
本社ハ檜皮葺あり。左の方ハ猫の社とて小宮あり。
宮の下なる小石をより歸る家ハ置時ハ鼠を辟る。又
志る行て。五社明神の御社あり。是ハ神名帳ハ但馬國養
父郡夜夫座神社五座ある神社なり。今ハ藪崎大明神
也申なり。まる二丁計奥の方ハ山ノ口の社とあり。是ハ狼
を神と祭ふ神社なり。故に此神ハ狼を遣はひしと
り。社僧乃居ハ水谷山普賢寺本尊ハ法師如來なり。

さて大道を歸りて五六丁行ハ、藪崎村養父宿より人家四五軒、茶屋宿屋あり、村の端より左行ハ、因州道、右行ハ、湯島道、より二丁計行ハ、大屋川、濁六七十間、とあり、夏秋の間ハ、歩渡あしわたり、冬春ハ、舟ふね少ク渡わたり、五丁計、ゆけハ、穢多村あり、六七丁行ハ、網場村藪崎より人家百軒計、茶屋宿屋あり、二丁計、ゆけハ、下しも入いり村、農家三十軒あり、五丁計、ゆけハ、大森川、濁六七十間、あり、冬春ハ、舟少ク渡わたり、大森川をわたり、大森村、御公領、より農家三十軒、此こゝあり、別わか小蚕飼こさかひと多く、家毎いへごと小影かげ、飼かひ二丁計行ハ、小田村網場より人家四五軒、茶屋

ありて宿屋あり、直ま行ハ、出石の城下、小出こいでを、左の方湯島の道、小計りて、三丁計行ハ、人家百軒計、立たり、又行ハ、下小田村、農家五十軒計あり、是より聊いささづ上あり、の坂さかと越こて、五丁計行ハ、江の宮村、農家二十軒あり、冬春ハ、此こゝ所ところより湯島ゆき渡わたり、舟あり、夏秋水淺あづまき、小より渡わたり、二丁計行ハ、宿南村、農家三四十軒、村むらに小茶屋ちややのある、小立入こたていりより休やすみ、平道へいどう五六丁行ハ、左ハ、岩山いわやま右ハ、氣多川きまたがわ小こ岩山の裾すその川岸がわの上うへを、小坂こさかを登のぼり、下くだり、行ハ、是こゝ痛いたし、此間こゝを岩いわ帯おびとより、十丁計行ハ、浅倉村、農家五十軒、茶屋二軒あり、村の

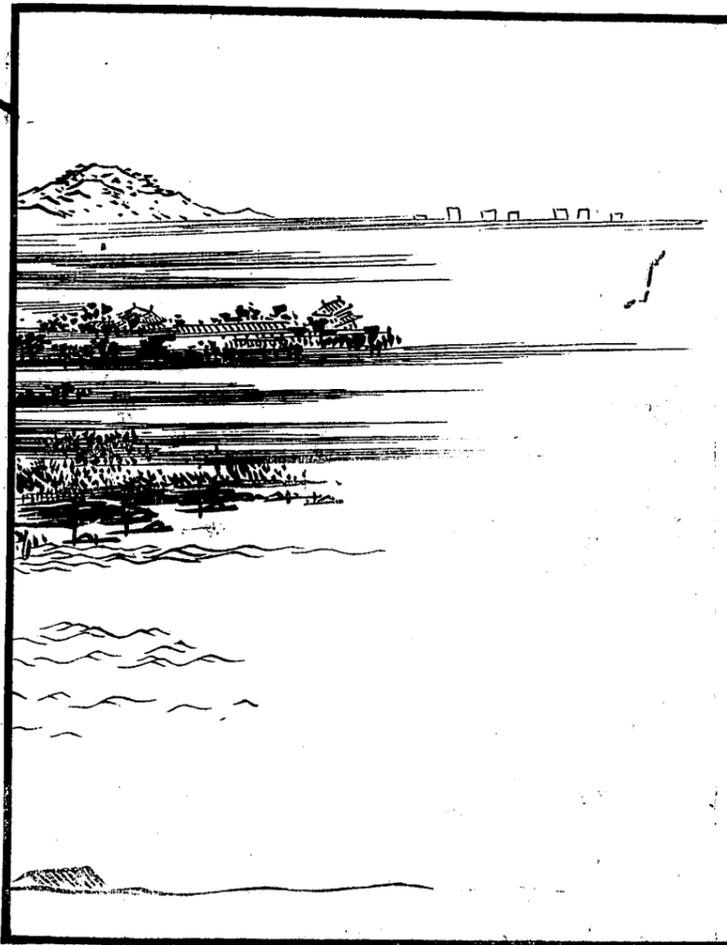
出小滝中川より、濁十間計の川を歩より渡る。三丁ゆけり
岩中村、農家三四十軒あり。引條きて、霄田町、小田村より是上中
下の三町あり。商家宿屋茶屋あり。町の中通、溝川あり。引
條きて、江原村、人家百四五十軒、茶屋あり。商家多く酒
造の家あり。二丁よりゆけり、日置村、農家四五十軒あり。
さて、神名帳、但馬國多氣郡日置神社とあり。此村小を
あつらふ。二丁計行、伊福村、賈四丁より是農家四五十軒。
商家茶屋あり。宿屋あり。四五丁行、土居村、村あり。
町より、人家七八十軒。商家多く茶屋あり。町の中通、溝
川あり。引條きて、伊福村より是手邊、半里近人家百軒計あり。

商家多し。十丁計行、水生村、岩山乃裾あり。人家十四
五軒あり。岩の下より冷なる清水流き出ふ。其水小て、こゝろ
てん索麵を冷し賣。其清水の上乃岩小き穴ありて、
奥底測られず。此穴を隠し、里よりついで、穴の中、小と白鼠
あましく住まるといふ。是より山乃尾を廻り、四五丁ゆき、
納屋村、人家三四十軒、茶屋宿屋あり。是より湯島へ向く
川舟小乗人あり。若陸地をゆき、佐野村、九月村、豊後、経歴、行くと船宿、隘屋、勘十郎
とらふ。小入て舟を出さし。舟賃の定まり、借切一人乗、二百
八十文。人数五人を限り、とも、駕籠二人、小準亦、挾箱同一。
屋形賃四十九文あり。人数五人、小過ふ時、其過る人数の

但馬國
之
豐岡
風景

○卷九

十八



賃を増入乗も此恰好して賃を倍するなり。舟の形状海
舟のおどろき打乗行ふ。豊岡まで川浅く水もや
折舟すくそて動く事あらば船頭川小まら入て下
豊岡納屋村より豊京極甲斐守殿二万の御城下なり。川舟の
湊なり。出町より所小橋あり。此所茶屋多し。町は通筋
二十丁餘あり。海舟も北海より乗入。出町まで来りて
泊る宿。船宿數多あり。湯島(川舟と出ず。是より陸地と行
は。濱邊又ハ河岸とほい行。岩石の艱路なるよりなまは
猶舟小乗て行。右の方小愛宕山。官島村。野上村。石山なや
追續てあり。此石山の川岸小臨まる所小奇き石あり。其

形う磨盤の如く上下平めて周ハ三角四角五角八角等ありて。
石工の切立如く色ハ青黒し。これを堀取し。然ハ洞のみくお
をりてあり。天下の廣き小珍奇なり。とありきものあり
り。戸島村。樂々浦。左の方小ハ一日市村。二見浦。
上山村。日礮村。来日村。観音浦。今津村。此村の出
口小茶屋あり。樓造の家ありて。下小ハ川小臨てけ造り
涼々床あり。舟中より見るや。甚有致なり。湯治人遊賞
の所なり。とありて。二丁ほりゆけ。城崎郡湯島
豊岡豊岡重御公領ゆ。久美濱の御代官所は屬せり。はては
一筋の町あり。町の中通小細き溝川あり。上の町。中の町。下代町

合せて人家二百五十軒、宿屋大小合せて十軒あり、下の町井筒屋六郎兵衛と、大家とききて尋ね入る滞留の宿や定じ家の入口より奥まで、樓上樓下合せて室の數三十餘あり、さて一室小入く休居ふ、暑氣をりして冷然たり。土地北海小近く、其上山谷の間をれあり。

○十日已刻過より曇天なりて、未刻過より雨ありいでぬ。此所小諸國より湯治のふあふまゝれる人多けと邊國僻地をん、游觀のふあ小託来ふ、まんめく實病れ人の多き、自れあめやうめて、華き遊ひ業め、有馬をく、様うり、湯治人旅宿旅籠の價一日二

文なり、朝と未刻頃小茶漬を出し、晝と夕方小本膳を出す。又座敷を借ふのく、食物と自調ふもあり、室代一廻二文あり、米味噌薪其外の諸物皆、宿小出入する商人、通い入ふなり、又焚出しと稱するあり、其ハ米を自りて、宿小付して、日小二次焚出、びとれ、宿より一汁一菜とほり出す。さて一廻の代一及五分、座敷代小合せて四及五トあり。温泉小浴より事入、湯小ハ湯錢なり、幕湯の價一廻六文なり、一日小三度つ湯女こまを、別小切幕とあり、一室限小浴よりなり、一日小二度つ、一廻の價金一歩なり、湯治人初めて宿小著時、祝儀を贈ふ事定あり。

此度ハ主の妻小百匹贈^り、婢四人僕二人小百匹湯女三人小六
父湯支配菊屋元七小銀一兩贈^り與^へり。温泉丁へて
五所。一、小新湯下の町の入口小あり。清潔^{なり}て甚熱^し。
一の湯二の湯と二つ小隔^ををせど同^く泉^{なり}たり。功能^{あり}氣血^を
運^ばし胎毒^を瘡毒^をを追出^し創傷^をを一日^に愈^すてのち愈^す
ふたり。二つ小ハ中の湯ありき白^{あり}甚ぬる。腫物^切切^癒
の類^愈愈^ふこと早^き故^小愈^湯といふ^も毒^氣を追^込
故^小程^もなく再^發下^りと^せ。三小^ハ常^湯。四小^ハ御^所湯。
五小^ハ曼^陀羅^湯。此三つ大形^{あり}湯^小同^く。曼^陀羅^湯は
此所の温泉^ハ始^めたりとい^ふ。外^小殿^の湯^ハ平^人をい^ふ

非^人湯^ハ非^人の^ミ浴^をり^て此^地の^名物^とて^賣物^ハ。
麥^藁細^工柳^行李^湯の^花海^首等^をり^て此^所小^銀
札^通用^す。十^女より一^歩まであり。錢^ハ九^十八^文を以^て一^分と^す。
此地^ハ北海^を隔^ふ事^僅小^一里^をり。され^ば魚^類多^くて^價
甚^賤。

○十二日晴。神社佛閣を尋^ひて参^詣せん^とて宿^を出^す
町^と西^{の方}小^行ハ町^幅狭^く町^並惡^し。され^ば三^階造^の太^多
宿^屋或^ハ華^好なる小^間物^屋及^麥藁^細工^の職^人多^し。
中^の町^小至^ま西^所明^神の^社あり。是^ハ出^石明^神をい^ふ
祭^事も^ハ出^石神^社ハ神^名帳^小但^馬國^出石^郡伊

豆志座神社の座あり。今出石といふ城下小座神社ありし。
未代山温泉寺。是ハ聖武帝の勅號あり。樓門小仁
王あり。磴道を三丁程登ると本堂あり。道智上人の開基。本
尊ハ十二面觀音。替文佛師の作なり。又樓門の右ハ
寶塔あり。左ハ茶師堂あり。堂の前ハ櫻多し。右ハ羅人
と云ふ俳人の塚あり。碑ハ二尺四方あり。高さ六尺計なり。面ハ
暮行やあしこの人の初桜。羅人横ハ寶曆八年戊寅。背
建之と彫り。鶴の湯。茶師堂の東の山の手ハあり。
径三尺計。窪む。中小温泉を湛り。昔鶴の創を病
む。此所ハ未だ浴へて愈て去まるといひ傳ふ。

獨鉾水。極樂寺の後の山の手ハあり。其外 愛宕山。
辨天山。治郎兵衛塚。日ノ入山。桃島。烏帽子岩。
ハ疊岩。鞍掛山。絹巻島。絹巻大明神。氣比村。
小島。津居山。瀬戸山。猿ヶ城。千石岩。龍ヶ
鼻。竹の濱など。此ハ北海ハ出る海邊故ハあり。
そとハ行くと。此地の遊興と云ハ今津の茶屋。又ハ舟
あそびのそとハ。北海ハ乗出て景ハき浦と云ふ。
或ハ網舟をやといふ。魚を捕らせたり。て樂ハ
と。わしりけ後ハ。茶海と云ハ。不意なる風波の恐あり
と。この網舟一人乗。一日一艘の船賃四五分なり。



○卷九

九三

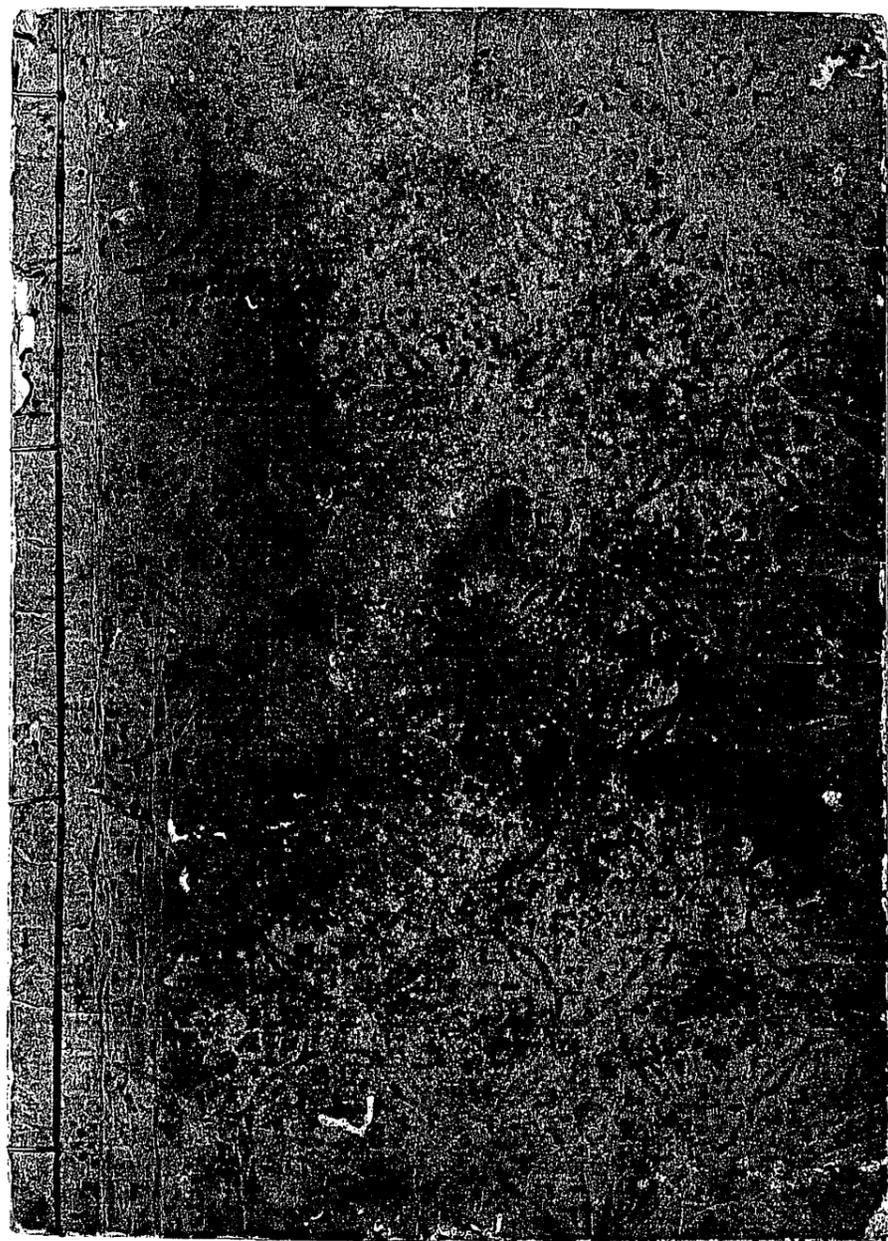


但州藩邸里客舎
 并筒屋六之節の家の
 此處ハ遊歩ハ
 形ハなき大座
 入場此人皆
 ころあふ

○十三日晴此地のさる人おしひふく病患瘡治のりた
小ハミヤサキナル無病の人の遊息小使をひ湯誠小天
下無双と聞上小大酒女色の遊び絶くをけき病を治す
小ハ必くして態遠路を尋来ふも必其ひあふし
予も年来聞及びる此温湯をん此度幸小立よりて二
三廻も浴つべしと申のりり暑氣の時節殊々蚊の
多き地ゆき晝も帳あつ居難く将家を出より
月日久くをりんは僻静の地小く一入氣屈して歸心
急切あふよりておのり久留もをりり明日は
と其用意をせりけり此地も京大坂まで駕籠荷

物人足等と引受用を辨すお家の魚屋八郎兵衛とあふて
駕籠一挺人足二人舟後の名所を廻りて大坂まで六日着
りり賃銭八十二文五分小て雑用ハ川を渡ふ船賃の外
此方より出す事をしり大風雨川留を小て日數延ぶ
時ハ飯料として人足一人小一日小二文つとふも一この
便ひく日數を延ぶ時定まる賃銀の恰好と以て日數小
くけて増興ふ賃銀の内五十文と此所小て先渡して餘ハ
大坂小て拂ふ是定法をりり

筑紫紀行卷九終



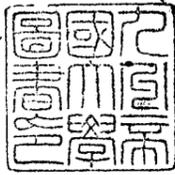


筑紫紀行

十



680
ツ
12



680
ツ
12

成相寺
獨如山

樽立
大坂

一宮津

元伊路



筑紫紀行卷十

又

柳文

○六月廿四日晴卯刻過小湯島の宿と出川津村
又十三丁南小行の樂の浦せり川瀬廣く
湖の外に三丁計あり上陸して五丁計行飯谷村
湯島より農家三四軒あり是より峻き山坂を五丁
計上るとすすめり下るは幡上村飯谷村より
二丁計北を行道すれは家居ありのまをたえきつた
是より谷合の細道を経く漸く山尾を廻り
登るのまは三原村幡上より是道より半丁計北の方
小あり道傍のすき曲る農家二軒あり

○卷十

十丁計峻き坂を登ると久美峠とて但馬と丹後との國境なり北より南へ重山の間より久美の湊北海の灘をえりてこれく眺望の景色より吹來ぬ風真に爽快なり
ゆきもいと寂歴しき山中ありて立入べき茶屋一軒
ふにかた後なき松陰の岩石に腰うらりて草下の清泉小唇を潤すのとき旅伴も入るびけ水思ふ異をきて長生の彭祖も外の事とて多くを飲み谷水を飲む飲りしとてけりてく飲みたりぬは酒の味も此水も水とておひでのめは水とてく旅伴も中より酒を思ひ飲りてくお小猶水をとりて人を皆笑いつくありて

二十丁計下は入海の濱邊におもむりぬ北海より一里半をより入はる海濱にてありて山々の形状よりかりに甚観をくしてふんを絶佳景の地なり十丁計行は丹後久美濱三原御公領なり神代官鹽谷大西郎殿の陳屋あり町屋五丁あり小川を境として土橋をうけり宿屋茶屋あり湯嶋よりこれけりてふりてその事と珍なりとて織家多し出口小靈鴨山本願寺とあり寺あり浄土宗圓光大師の舊蹟あり是より谷合の道を入深く入聊げ坂を登りて二十四五丁行は堺村人家三十軒合小茶屋



あり引はるるニケ村佐野より長人家六七十軒郷をめぐり
町小て宿屋茶屋あり大坂屋次共衛とらふ宿ふ此あつる
縮緬ちぢみを織出御公領と峯山領と入交る所あり
○十五日今日日卯刻過立出十丁餘行ハ小川あり
土橋より渡ふ又十丁計由新治村農家三四十軒
八丁計行ハ長岡村人家六七十軒茶屋宿屋あり此の
あり聊け坂あり道あり十丁計ゆけ善應寺
村ニケ村より長人家四五軒茶屋あり四五丁行ハ北峰山領
南ハ官津領とら表をとり十丁計ゆけ大野村善應寺より
人家五六十軒茶屋宿屋あり縮緬を織家多し十四五丁

行ハ三坂村人家二十軒計茶屋あり此所小太閤の小袖掛の
松とて三本あり小坂を越て十五六丁行ハ三重村人家三四
十軒茶屋あり此村ハ神名帳ハ丹後國與謝郡三重神社
とある地小あり尋ねて詣でまわりとれ今日ハ障り
ふありそやぬ久美より此ありまて田の州をとる
を渡り小川竹小琴の瓜のやうなる物と作アを指小
とめて尊を取ると堅らした小指おとされたと
いふ二十丁計瓜先上り小登り入る橋峠小至ふこの所
より北小至る音小聞及一天の橋立又岩滝江尻等の景
地も眼下小入て入海より北海の大灘まで十座あり内

小あり珍しく面白くして心目を豁開き、空しくも死たが
 賀の白山若狭の杉尾山丹後北由良山越前の山、まて見
 え、さきもて殊小絶景なりといへ、今日ハサ、陰、と
 ち、さ、ま、で、は、い、え、と、是、より甚し峻、き坂と十丁餘、
 下りて、弓の木村小至、人家七八十軒茶屋宿屋多し、
 家、小大形縮緬を織出たり、引つ、ま、く、岩瀧村、
 大堅、人家二百軒計宿屋茶屋あり、此所より舟り
 乗て宮津、渡家も、歩、く、行、時、南村溝尻村、江
 尻村成相寺橋立宮津、と経行なり、い、ま、半里、を、
 海上を行く溝尻村も成相寺小詣、峻、き、山坂、と、

八丁登り行十五丁目茶屋四五軒あり、上小二王門あり、
 因り門前茶屋と稱し、此所よりい、お、ろ、も、橋立の景色、
 言語小絶す、二王門小へ、磴道一丁計登り、鐵の手水
 鉢あり、



図の如く俗小酒呑童子が飯椀と云
 へ、何れも用ひる物なり、今、知、り、

又二丁登り、寺あり、鐘樓堂、熊野権現、本堂、聖徳
 太子の御草創、心観音を安置せり、西國巡禮観音の
 二十八番あり、せ、ま、い、ま、い、ま、い、此寺小頼光公の御願文

とて

攝津守源朝 負

此度當國大江山為夷賊

追討蒙

勅令發向訖速祈

觀音大士之擁護所可

被抽丹誠糸如件

敬白

寛仁元丁巳三月十一日

成相寺 衆徒

とある文と寶物の鷹とを板行りてうぶをり。正筆ハ數百
年を経つてハ今ハ文字もさうぢやうぢやうとて本坊の庭
前より南ふじの眺望せんハ橋立の松原典謝の海中より
緑の糸ふとくちんやう浪ふうひまゝ宮津の城を
落ふ隅をく眼下ふとくちんやう。實ハ日本三景の一つと
ふふハざりたりと感嘆してうらをひる間小や時うり
ぬれハ人々麓ふとくちんやう小や時せんハくせふ下ふ
二王門ふ至りて雷雨俄小降出まハ門前の茶屋小走
入る晴間とまハひる。なま小黒雲ささくハ闇夜のひる
電光谷ふとくちんやう雷鳴頻りハ山もろづらばり響ふ

○卷十

七



○卷十



丹後國
與謝郡
橋立之
風景

とんば生ふ心ちハせざりたり。さるふ山風吹出とさうげあく
空暗とさうりゆまば溝尻ふくま下ふ。かくて又舟ふ来て成相
寺より見おろさる。海中の松原と見く。十四五丁行ハ。橋立明
神の御社あり。是ハ小社をり。ハ大龍王と。大川大明神と。天
橋大明神とを祭まるをり。とらふ傍小磯清水の井戸ふ
あり。まご千貫松とらふ。ありしより。おまごといふハ枯てさる。
まご洲寄小石の鳥集まをり。此所より東南の方小宮津の御
城下西北ハ成相寺。南ふとあつら。峠。白糸の瀨。おんえん
ふくく。夕日の浦を徑く。文珠村ふ至ふ。まご陸ふあがまは
人家三四十軒あり。天橋山智恩禅寺いよゆる。切戸の文珠

のり。大門ふり。止の額。黄金閣。下の額。海神神庫
とあり。成相寺なる。同じ。鐵の手水鉢あり。本堂ふ
文珠菩薩を安置す。百文と奉り。開帳をゆる。まご
拜し。ふふ。蝟の香爐。鱗の鱗。のり。のり。のり。
外小宝物ものある。と。百文と。以て拜見をゆる。女牛玉
男牛玉。白馬角。天狗爪。龍の鱗。鮫の玉。法螺貝
の玉。榎の木。小たりし。鱈。龍の卵。豊臣の太閤朝鮮
御征伐の時の陣中ハ弁當箱。是等たり。本堂外
陳の額。五臺山黄蘗。隠元書。丁酉仲春日とあり。聯ハ
神代降臨。七佛祖。獅王。摩訶。曼。摩。神。ス。

ひか波の海道の直りたるは、此の海道の方角
海津の静かなる此の海津と文殊村との間、中間計は、
九世渡り、此の海津の静かなるは、此の海津の静かなるは、
涙の磯、此の磯、和泉式部、此の磯、此の磯、
よりの名を、此の磯、又、雞塚、此の磯、
らん時、堀出、此の磯、文殊の御誓ひ、金の雞、
塚の下、小埋、此の磯、大の堂、此の磯、戒岩寺、
智恩寺、此の磯、一、大、一、と、飼、此の磯、
何と、此の磯、何、方、此の磯、行、此の磯、戻、
埋、此の磯、跡、此の磯、林、道、春、此の磯、文、
彫、此の磯、石、研、此の磯、

官津の城下、小至、文殊より、是、半里計、今日、岩滝
より、これ、船、賃、五百、又、船、頭、二人、八年、老、一
人、其、業、小、似、ぬ、人、者、此の磯、所、小、舟、を、
移、此の磯、又、其、所、小、此の磯、故、事、を、方、言、
此の磯、聊、也、厭、此の磯、
此の磯、一、面、白、く、覺、え、此の磯、浦、舟、
眺望、景色、の、事、ハ、筆、も、詞、も、及、ぬ、此の磯、
官津、此の磯、松、平、主、計、頭、殿、此の磯、
の、此の磯、西、入、海、南、山、町、屋、三、筋、
長、と、四、五、丁、山、を、渡、り、入、海、を、前、小、舟、
大、船、教、

町乃際しほ小舟より又由良船にて其形異様なる舟あり是れ
此國の由良れ湊より出来ふ舟なりとて惣て此入海一里
四方小山を環めぐりて袋の底の様なる湊なり町屋小
縮緬を高く家多し宿屋多く茶屋あり吉井屋庄八
と云ふ宿ふ。

○十六日晴卯刻過小宿を立出家中町二丁計行て板橋
を過ればくづや町長三丁計あり町を過るるとは松乃
並木あり道より二十四五行を上官津村は城下より是に合小
川あり橋の長さ八間計農家六七十軒出口小茶屋あり三
計行小田村人家四五十軒まづ小あり是より合川の

縁と云ふい登る石地を道より金山村関谷淵村を
過れば農家多しなり三丁計登るべしとて茶屋八
家二十軒計離れ小あり名小ありとて茶屋おふ
西國観音巡礼の道なればあり又十三丁登ると五寅の方
小官津の城入海北灘を皆取おと下小なる佳景眼を
急いそぎ又五六丁登ると峠あり登り下るの坂險し
急いそぎ道甚悪し普甲峠と名づく増井の水とて
清水湧出其冷やうなる事氷のごとくさそり下ると
右の方大江山と高くゆき下り下る中の中茶屋
人家十軒計茶屋ありとて食物とありす五六丁下ると



此所と出て三丁計ゆけ、内宮町人家五六十軒茶屋おわく
佳き宿屋あり町中小宮川あり橋の長さ三間計銅鑿宝珠
とけけり宇治橋と名づく町の出口小五十鈴川あり板橋
の十間計なるとゆけり五六丁行ハ二股村十丁計の間小
人家百軒計まなごにあり其内小宿屋三四軒あり茶屋
を引續き天田内村にあり人家六七軒茶屋多く
宿屋あり即外宮の鳥集まをり町中小鳥集あり二丁
計行て石段百四段を此の方小登まハ外宮の御本社
豊受太 神宮 艸ぶき少く南向小立せり此御社ハ神名帳小丹
後國丹波郡比治麻本為神社とあり神社をり也

十本社其外小宮あり内宮より境内せまう、これと神
なるはあり、此をりく、雄略天皇の二十二年小神勅
り小因て同廿二年小此所より伊勢ふりけり、
十丁計行ハ岡村ハ人家七八十軒茶屋宿屋あり、引
河守町長は五丁計商家茶屋宿屋多く、町をり、
とら、御公領と宮津領との境の表あり、引續きて
蓼原村、人家七八十軒宿屋茶屋あり、半里
計行ハ公庄村人家六七十軒宿屋茶屋あり、十丁計山
のふり、とゆけ、境川村、人家五六十軒、
小あり、出口小北ハ丹波南ハ丹波とあり國境の表あり、小川

あり。村の出口は川あり。十間計の板橋を渡りて。二十丁より行
神田村。四五丁行は梶原村。小農家の。まづ小はあり。三十丁
計のけが小たり村。岡本村より人家三四十軒茶屋宿屋あり。
十餘丁行は野上堅村。人家四五軒茶屋宿屋あり。十餘丁
行は國領村。是れが二里人家七十軒茶屋宿屋あり。二十
丁計峻まき坂を登りて國領峠小至り。又三十丁計峻
き坂を下ふ。登りてくつりとも小石多き道なり。折ふハ大
岩立ふ。けり甚險難くわんなんなる坂を下りてけり。せは右乃方小三
田越小但馬小行あり。又行行追入村。國領よりこれ人家四五
十軒茶屋宿屋あり。四五丁行ハ大山組まくつり人を惣名わて。

菅村。大山村。大山下村。湖野村。寺上里計の向小打續ひらつづり。人
家入て三百あり。茶屋宿屋あり。小あり。中程小
京みやゆりゆりの連なり。村よりとも洞六七間の川あり。り橋
あり。西四五丁行ハ西古佐村。引けきて東古佐村。また
農家の。あり。十丁あり。行を。あ。ま村。奥村より人家五
六十軒茶屋宿屋あり。播磨屋岡右衛門あまら。宿やどあり。驛
小あり。さる間の宿なるゆ人ま宿なり。す。
○十八日晴。寅刻小立出。十丁計行ハ牛が脊せりて。穢多村あり。
十丁計行ハ大銅村。人家三四十軒茶屋あり。又行ハ兼代村。引
續つづきて同村の新田。小農家計なり。十丁あり。行て

波賀野村四五丁行古市の駅（註）人家二百軒あり
茶屋宿屋多し（註）此所を至る夜は舟あり（註）驛中小
観音巡礼の道の傍あり十丁計行柳井村人家十軒
計茶屋あり此より茶園あり茶をむく製し出さず
あり是より五六丁山道ありわかれは秀坂峠丹波と攝津
との國境あり是より五六丁下は秀坂村茶屋あり十丁
計行攝津の町（註）三田の沖領あり人家二三
十軒茶屋あり一里行新田村人家三四十軒茶屋あり西
五丁行四辻村人家あり五丁行長坂村人家二十
軒計茶屋あり少田村廣野村人家三四十軒茶屋あり

引ききて加茂村人家三十軒茶屋宿屋あり十丁あり
ゆり多びす村本名ハ野上村人家三十軒計茶屋あり三四丁
行ハ福島村五六丁行ハ大原村茶屋多し十餘丁行ハ川除村
人家十軒計茶屋あり三四丁行ハ三輪町町屋多く三丁計
入口ハ三輪の明神の社あり引ききて三田町九鬼和泉守殿
三方の在所あり入口ハ川あり町家長と十丁ありくすやおろし
町並福智山よりよろし茶屋宿屋あり四五丁行ハ横山村
茶屋あり是より坂道一丁計下り行ハ潤一箇計の川あり
小土橋をこるなり山姥月見の橋とよ十丁ありゆりは
潤十四五間の川あり成歩なり川向ひて道場川原

あいの町より人家百軒あり茶屋宿屋多し四五丁行日下部村
是より四里十丁餘行平田川濁十四五間ありを歩くより川向ひ
平田村人家五六十軒茶屋宿屋あり是より山道の石地
あておのの外行は休むべき所なく甚苦し
爪先より二十丁ありのわりゆき谷川あり土橋あり
三丁行赤坂村引きて東久保村此所をときて
峠ふもと大坂の城なるふもとより坂を下りゆく
まゝ小人家あり茶屋宿屋多し獨鈷水やうき清水
宿屋のうにあり三十丁計下ま名塩村人家すべし四百軒
むら茶屋宿屋多し此所鳥の子糸松葉紙を渡家多し

名塩市より二十丁計下ま谷川あり
金岩村より茶屋四軒あり十丁計行木本村茶屋あり
是よりのたけ川岸の上を行つ橋のありあり
在馬小川の追々なり川邊小茶屋三軒あり半里
むらりゆり住瀬村道場河原より人家七八十軒茶屋宿屋
多し間屋伊兵衛とよ宿家にて夜小入で臥す人
や語ふ間小也更ぬきて所生の末つり大坂を纜を解
しより西海の風波の漂ひ豊山の險巖小足と豚を漸
として長歩小至り得く百餘日を経て歸路小趣き
書ひら父暑煩湯の苦しとあり夜蚊雷蟻小悩まされて



